

がまごおり 「みらいキャンバス」 基本計画

ー全市利用型施設 リーディングプロジェクトー

令和 7 年 11 月

蒲郡市

目次

はじめに.....	1
第1章 策定の背景	3
1. 蒲郡市の概要	4
2. 本計画の位置づけ.....	6
3. 基本構想の振り返り	8
市民ニーズ	8
基本理念・施設コンセプト	8
導入機能の目指す方向性	10
施設規模のイメージ	11
事業予定地.....	12
4. みらいキャンパスに移転する公共施設について	13
第2章 市民共創	16
1. 基本計画における市民共創の取り組み.....	17
市民ワークショップの流れ	17
市民共創のプラットフォーム	17
2. 市民ワークショップ.....	18
第1回市民ワークショップ実施概要	18
第2回市民ワークショップ実施概要	19
第3回市民ワークショップ実施概要	20
第4回市民ワークショップ実施概要	21
市民ワークショップの成果まとめ	22
第3章 基本方針	23
1. 基本方針	24
第4章 事業・サービス方針	28
1. 事業・サービス方針	29
2. みらいキャンパスを構成する機能.....	30
(1)共創機能.....	31
(2)図書館機能.....	34
(3)ホール機能	37
(4)生涯学習機能.....	39
(5)こども・子育て機能	41
3. 事業・サービスを支える情報環境の考え方.....	43
みらいキャンパスにおける情報とは	43
学びの循環を支え、促す情報環境の考え方	43
情報システム構築の考え方	44

第5章 施設計画	46
1. 整備方針	47
2. 施設構成	49
3. 機能連携イメージ	54
4. 施設規模	56
5. その他留意事項	58
第6章 管理運営方針	61
1. 管理運営方針	62
管理運営の条件設定	62
運営組織の方針	63
想定来館者数	66
第7章 敷地計画	67
1. 敷地周辺環境	68
2. 敷地概要	70
3. 動線計画	72
4. 駐車場・駐輪場計画	73
5. 敷地利用の留意事項	76
第8章 事業化計画	77
1. 事業化計画にあたって	78
事業手法検討にあたってのプロセス	78
事業手法の整理	78
2. 事業手法の検討	80
評価1:定性評価	80
評価2:定量評価	83
評価3:民間事業者の意見聴取(サウンディング)	84
総合評価	86
3. 概算事業費及び事業スケジュール	87
おわりに　－市民共創のこれから－	89
参考資料	92
1 関連計画の概要	93
2 蒲郡市立図書館統計	95
3 近年開館した新施設の開館後来館者数増加率	97
4 ニュースレター	98
5 用語集	129

はじめに

本市は、令和6年6月に『がまごおり「みらいキャンバス」基本構想』を策定しました。

がまごおり「みらいキャンバス」プロジェクトは、図書館機能、ホール機能、生涯学習センター機能を複合化する「全市利用型施設 リーディングプロジェクト」として、単に施設を新しく複合化するだけでなく、これからの時代にふさわしい施設として生まれ変わらせていくものです。

『がまごおり「みらいキャンバス」基本計画』は、基本構想で描かれた施設像を、より具体的な事業・サービスや機能、運営の方向性として整理し、次の準備段階へつなげるための計画です。この計画をもとに、基本設計、実施設計、管理運営計画へと引き継ぎ、施設の実現へと着実に歩みを進めてまいります。

本計画では、ワークショップの実施や関係団体等との協議により、市民の皆様から多くのご意見、アイデアをいただき、検討を進めてまいりました。

また、本施設の主役は市民の活動であるため、基本計画策定後も継続して活動を行い、開館前から活動の芽を育て、実践や検証を重ねていくことを見据えています。

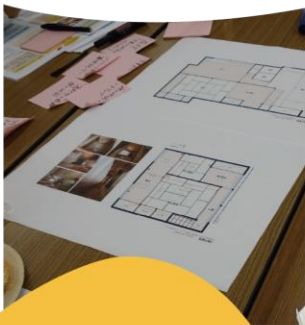
この場を起点に、本市に関わるすべての人々が幸福を感じ、地域への誇りや愛着を深めていくことで、ウェルビーイングの実現を目指します。

そして、蒲郡の未来を描けるキャンバスのような施設として、一人ひとりが輝き、学びや創造がここからまち全体に広がる、そんな未来のスタートとなる場所とします。



ホール
図書館
子育て
生涯学習
カフェ

がまごおり「みらいキャンバス」とは、
みんなの居場所と活動の場を、
市民と共に描くプロジェクトです。



学ぶ

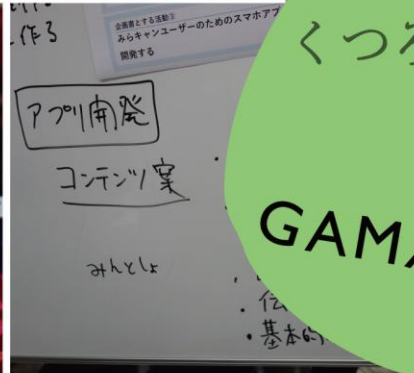
発信する



出会う

くつろぐ

GAMAGORI MIRAI CANVAS



第1章 策定の背景

1. 蒲郡市の概要

地勢

本市は、海と山に囲まれた環境に位置しています。渥美半島と知多半島によって囲われた三河湾の湾奥に位置し、三河湾国定公園の中心的位置にあります。北側、東側及び西側は山に囲まれ、湾岸に沿う形で東西に市街地を形成しています。

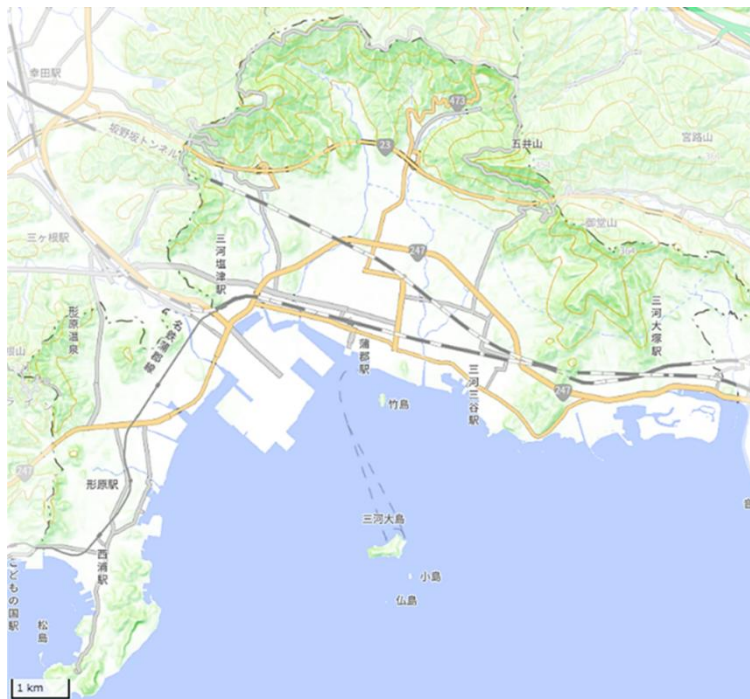
市域全体の中でも、自然豊かな東部(大塚・三谷)、市の中心拠点で観光資源豊かな中部(蒲郡)、工業や商業が集まる中西部(塩津)、水産業や温泉のある西部(形原・西浦)など、地域それぞれの特徴があります。

交通

本市内の鉄道は、JR東海道本線と名鉄西尾・蒲郡線の2路線が通っており、JRは市内に4駅、名鉄は5駅設けられています。

また、(都)名豊道路(国道23号蒲郡バイパス)などの幹線道路で近隣都市と結ばれ、東名高速道路音羽蒲郡ICへも容易にアクセスが可能です。

バスは、名鉄バスのほか、地域の特性に応じたコミュニティバス「くるりんバス」の運行があり、地域住民の移動手段として重要な役割を果たしています。



図：蒲郡市周辺の交通(国土地理院地図をもとに作成)

歴史・文化

本市の自然や風土は、様々な文人に愛されてきました。また、現在では博物館や科学館、海辺の文学記念館等の文化施設も複数立地しています。

さらに、本市には国指定の梵鐘、清田の大クス、竹島八百富神社社叢などをはじめ、県、市指定の文化財が多く現存しています。

このような文化財の保存・活用とともに、三谷祭等における民俗芸能の継承にも取り組んでいます。

産業

本市は温暖な気候であることから、それを活かした果樹園芸が盛んです。特にハウスみかんについては日本有数の出荷量で、特産となっています。

漁業は、県下約9割の出荷量を誇る深海魚メヒカリをはじめ、ニギス、タカアシガニ、アカザエビ、アサリなどの海産物が豊富です。

また、工業では、業務用機械器具製造業、繊維工業、化学工業、輸送用機械器具製造業が盛んです。

観光

国の天然記念物に指定されている竹島をはじめ、三谷温泉、蒲郡温泉、形原温泉、西浦温泉の4つの温泉など魅力ある観光資源を豊富に有しています。海や山の自然を活かしたレジャーも充実しており、年間を通して多くの観光客が訪れます。

人口

本市の人口は、昭和60年(1985年)の約86,000人をピークに緩やかに減少を続け、令和2年(2020年)には約79,500人となりました。

『蒲郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略2025-2030』によると、本市の人口の将来推計は、依然として長期減少傾向にあります。『蒲郡市まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン』(平成28年度策定 国及び県が改訂後に改訂予定)では、2060年(令和42年)の目標人口を61,000人と定めており、目標人口に向けた取り組みを進めています。

2. 本計画の位置づけ

上位計画等

『第五次蒲郡市総合計画』（令和3年6月策定）は、本計画の最上位計画です。まちづくりの基本理念として「人と自然との共生」「安全・安心・快適」「一人ひとりが主役」「つながる」を掲げており、本計画においてもこの実現に向けて進めていきます。

本計画と密接に関係しているのは『蒲郡市公共施設マネジメント実施計画』（令和4年3月改訂）です。この計画では、市が保有する公共施設を、①全市利用型施設（市内全域の住民や市外からの来訪者が主な利用者となる施設）と、②地区利用型施設（施設が立地する地区の住民が主な利用者となる施設）の2つに分類してそれぞれ取組を進めており、本プロジェクトは①全市利用型施設におけるリーディングプロジェクト（公共施設マネジメント推進における先導的なプロジェクト）に該当します。複合化・集約化により、運営の効率化を進めることで、将来に負担を残さない財政の実現を目指すとともに、利便性が低下しないよう、ニーズに対応したサービスを提供していきます。また、導入する機能の検討にあたっては、計画段階から提供するプログラムの企画や、施設の運営に至るまで、市民が主体的に関与するような土壌の醸成を図ることを目指しています。

この計画に基づき令和6年6月に策定したのが『がまごおり「みらいキャンバス」基本構想』です（基本構想の内容は、後述します）。本計画は、基本構想に基づき、運営や整備の方針、サービスの方針、運営組織のあり方などについて検討します。

上位計画等の概要

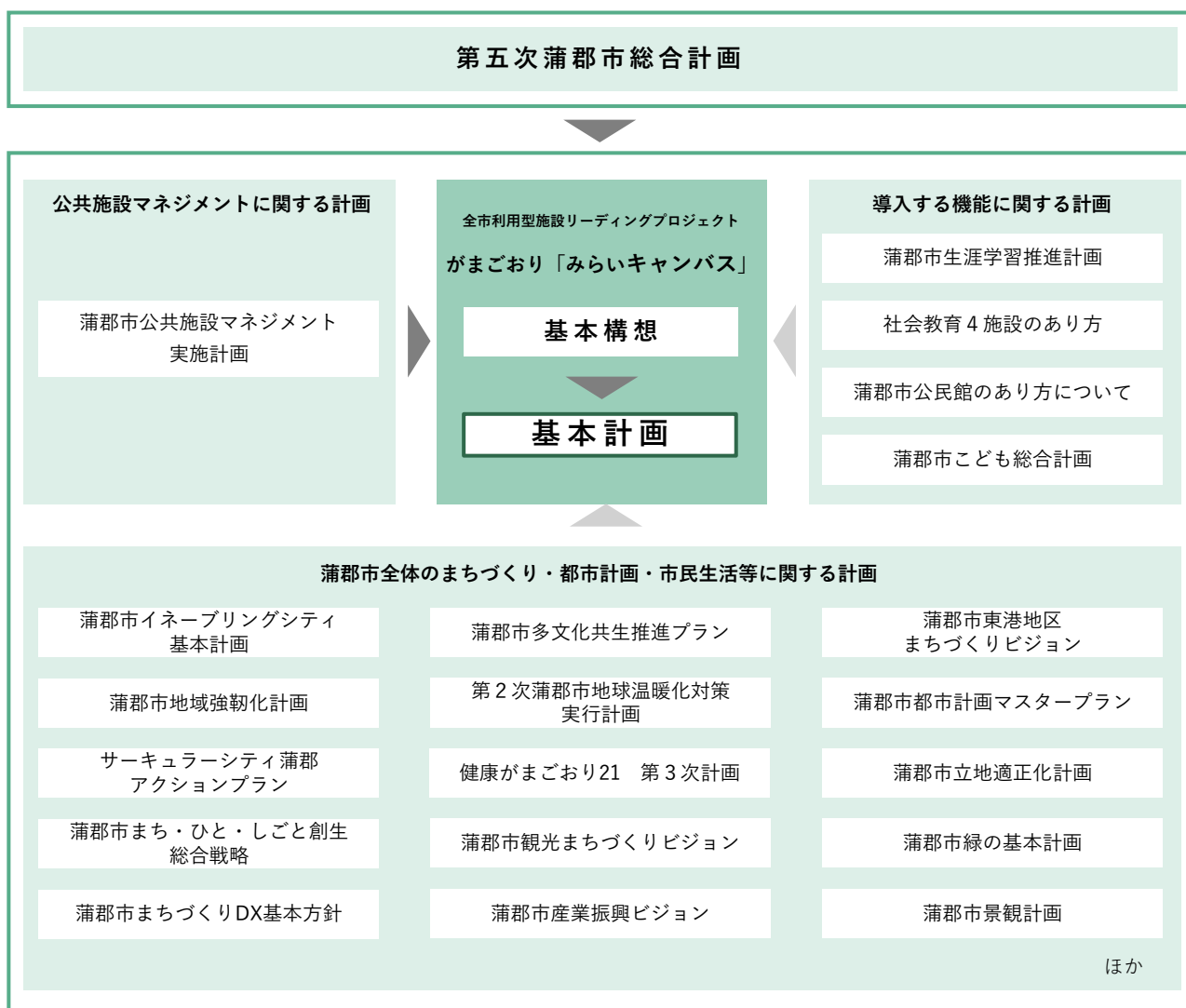
計画	関連部分の概要
第五次蒲郡市総合計画 【令和3（2021）年6月】	まちづくりの基本理念「人と自然との共生」「安全・安心・快適」「一人ひとりが主役」「つながる」
蒲郡市公共施設マネジメント実施計画 【令和4（2022）年3月改訂】	「全市利用型施設におけるリーディングプロジェクト」として、蒲郡駅周辺エリアでの機能融合により、市民の居場所となる場を形成する

関連計画

本施設に導入する機能が複数あること、建設予定地がまちの中心地であることから、本計画には多くの関連計画があります。

1つ目は、導入する機能に関する計画です。サービスの方針を検討するにあたっては、これらの計画を実現できるよう内容を検討する必要があります。2つ目は、本市全体のまちづくりや市民生活に関連する計画などが挙げられます。建設予定地周辺の都市計画や東港地区のまちづくりとも関連し、本施設ができることによるまち全体への効果や他計画との連携なども必要です。

上位計画・関連計画を踏まえた本計画の位置づけについて、以下の図にまとめます。本計画では、これらの計画を考慮しながら、内容を検討していきます。



図：本計画の位置づけ

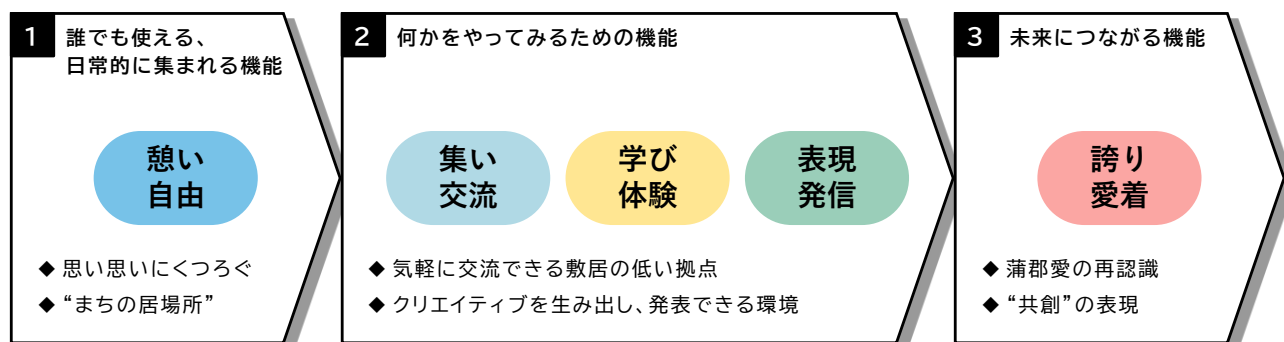
※関連計画の概要は巻末に掲載

3. 基本構想の振り返り

令和6年度に策定した基本構想では、基本理念・施設コンセプトを定めました。そして、本施設における3つの役割と導入機能の整理を行いました。

市民ニーズ

基本構想では、市民ワークショップやアンケートを通じて、公共施設に対する市民が望む施設像が明らかになりました。

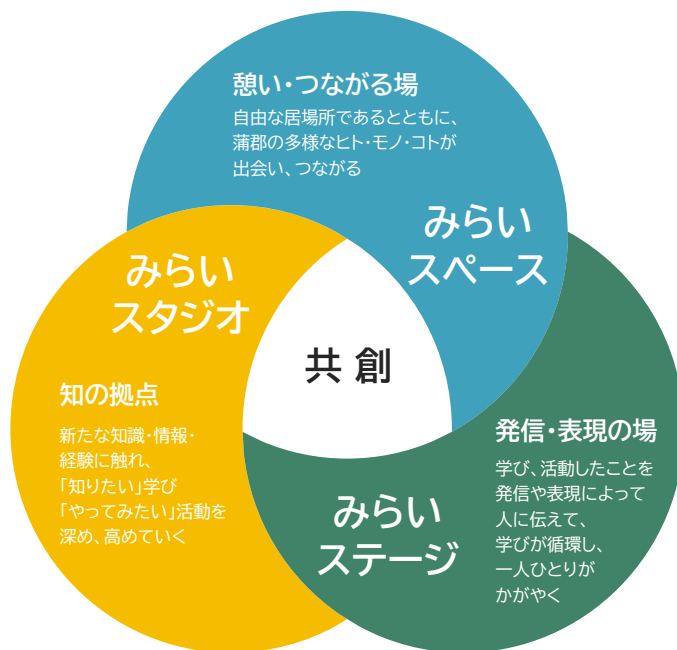


図：基本構想における市民ニーズのまとめ

基本理念・施設コンセプト

基本構想においては、市民が気軽に集い、ふれあい、にぎわうことを、市民一人ひとり自ら生み出し、共に創ること＝『共創』を基本理念としています。この基本理念『共創』の実現のため、市民一人ひとりがここで夢をもって「みらい」を描くことができるよう、施設コンセプト及び本プロジェクトの名称として“がまごおり「みらいキャンバス」”を掲げました。本施設は、3つの基本的な役割を担います。

上記3つの基本的な役割は、それぞれで役割を果たすだけでなく、互いに作用し「融合・循環」することで、市民が「みらい」を描くことができる「共創空間」を構築することとしました。



図：共創を目指す「みらいキャンバス」の3つの基本的な役割

3つの役割は、「学びの循環」を生むものとして有機的につながります。

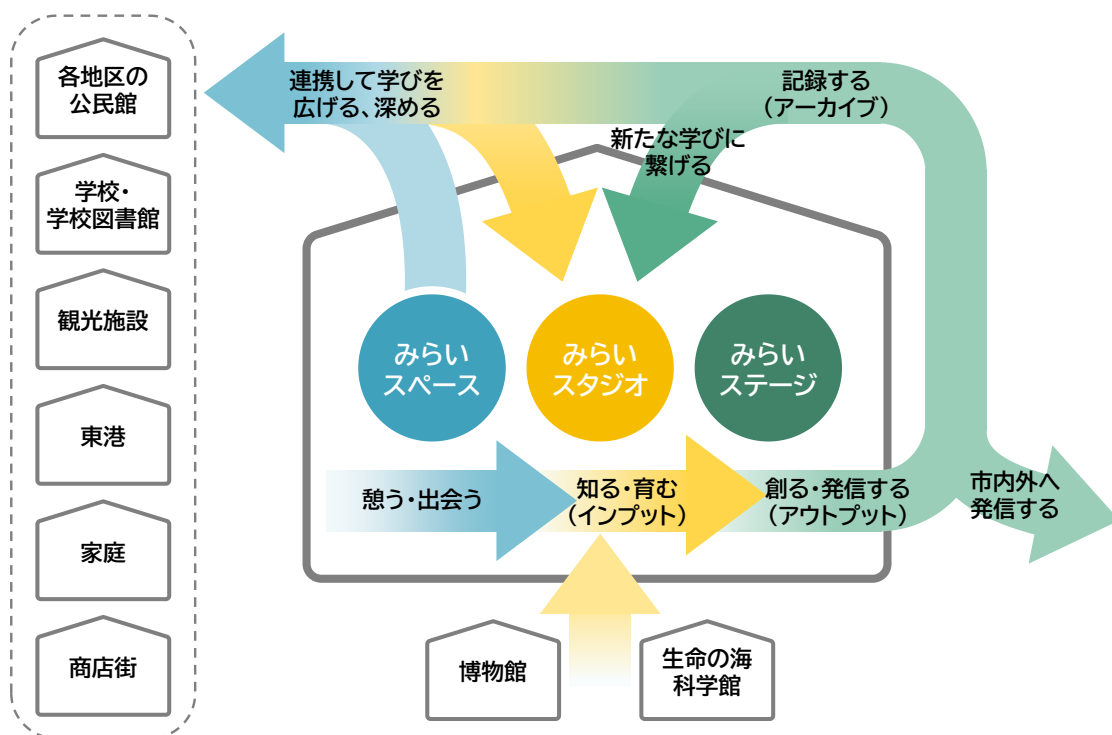
「学びの循環」とは、人や情報と出会う→新しく学び、活動を育んでいく→活動したことを自分らしく発信する→その発信を記録する→その記録を見た人が新しく人や情報に出会える、というサイクルです。

さらに、「学びの循環」は、本施設を訪れた個人や市民同士における循環だけでなく、他施設と連携し、学びと出会う場を拡げていくこともイメージしています。施設内外での、出会い、学び、発信を、他の公共施設や、まち全体での学びにもつなげていきます。

この「学びの循環」は、本市が目指すウェルビーイングにもつながります。

学びの循環イメージ

- 人や情報と **出会う** → 新たな学びを **知る**、活動を **育む**
 → **学び、活動**したことを自分らしく **発信する**
 → 発信したことを **記録**し、新たな **学び**につなげる
- 他施設と連携して、学びと出会う **場を拡げる**、学びの **内容を深める**
 → より深く **学び**、活動を **育む**
 → これまでの学びを **発信、記録**し、新たな **学び**につなげる



図：学びの循環イメージ

導入機能の目指す方向性

基本構想では、施設全体の方向性を示しながら、図書館機能、ホール機能、生涯学習センター機能を核に、各機能の方向性をまとめました。

施設全体

誰もが心地よく憩える“サードプレイス”
(自宅、学校・職場以外の居心地の良い第3の居場所)

- ・ 若者世代も訪れたいくなるデザイン性のある魅力的な施設
- ・ 親子で訪れやすい場所となるように、託児機能の導入や遊び場の設置などを検討
- ・ 市民が集まり、憩い、くつろぐ場にするため、カフェや物販機能の導入を検討
- ・ 情報発信拠点として、デジタル技術の導入を促進

図書館機能

インプットされた学びを、活動を通じて発信し、
アウトプットする学びもできる“みらいにつなげる知の拠点”

- ・ 蔵書数の拡充を見据えつつ、新しい資料に触れられる、新鮮度が高い開架図書、ゆとりのある開架スペース
- ・ 一人で集中したり、グループで学習する等、思い通りの使い方を実現する学びの空間の提供
- ・ AI、ICT 導入などの図書館 DX の推進
- ・ 活動に沿ったテーマ配架など、創造的な学びの場づくり

ホール機能

文化芸術に触れ“多様な学び・価値観に出会う場”
音楽や学びの活動を市民自ら“表現・発信する舞台”

- ・ 未来を担うこどもたちが質の良い文化芸術に触れる機会を創出し、誰もが気軽に利用

できる、開かれたホールの構築

- ・ 図書館や生涯学習センター等の他機能と連携し、様々な公演、講演会、講習会等の提供による多様な学びの実現
- ・ 「音楽のまち蒲郡」として、文化芸術活動の振興を支援し、自ら舞台に立ち、表現する市民を増やす取組を実施

生涯学習センター機能

多様な生涯学習活動の情報のハブ機能を備えた、
市民同士の輪・繋がりを広める“学び・文化活動を支える場”

- ・ 多様な学び・活動を支援するため、様々な諸室（創作活動室・調理室など）の設置を検討
- ・ 博物館のギャラリー機能を移設し、学びや文化芸術活動の成果を発信できる「ギャラリースペース」を整備
- ・ 市民の多様な生涯学習に関する学びや活動の具体化に向けた支援・相談窓口の設置

その他考慮すべき基本的な機能

- ・ 中心市街地付近に位置する公共施設としての防災に関する適切な機能
- ・ サーキュラーシティ、ゼロカーボンシティの推進のための環境配慮機能

施設規模のイメージ

延床面積としては「15,000 m²程度」を目安とし、本計画においてさらなる検討を進めます。

事業予定地

本施設は、蒲郡駅周辺エリアに整備します。

この立地には、公共交通機関でも来館しやすく多世代がアクセスしやすいこと、通勤、通学動線にあり気軽な利用が見込まれること、高潮などの災害リスク軽減・安全性の向上など、様々なメリットがあります。

そして、中心市街地に本施設を整備し、「まちの活気・明るさを取り戻し、市の活性化につなげたい」という市の想いを実現することも、用地選定の大きな理由となりました。



図：事業予定地

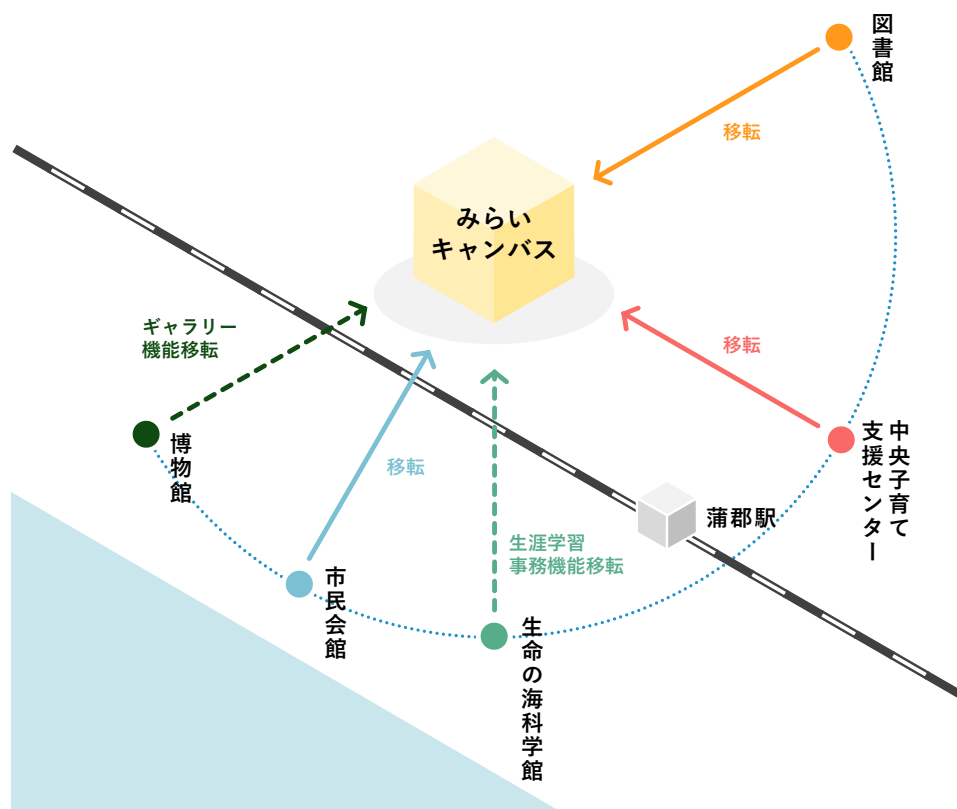
4. みらいキャンパスに移転する公共施設について

みらいキャンパスに移転する公共施設

本施設に既存施設が担う全ての機能を移転するのは、蒲郡市立図書館(本館)、蒲郡市民会館、蒲郡市中央子育て支援センターです。中央子育て支援センターにおいては、他施設とも連携したサービス拡充や利便性を向上させるため、さらに親子が訪れやすい場所となるよう、本施設に移転します。

加えて、蒲郡市生命の海科学館と、蒲郡市博物館の機能の一部を移転します。科学館内にある生涯学習に係る事務室を本施設に移転し、他機能との複合による業務の効率化を図ることを予定しています。博物館は、多くの市民が集う社会教育施設です。博物館への来館の動機付けとなるような展示を開催することを目的として、本施設へ博物館のギャラリー機能を移転します。

なお、現在の図書館及び市民会館、中央子育て支援センターの建物は、本プロジェクトによる機能移転後に解体を予定しています。解体後の施設跡地の活用については、別途検討します。



図：移転する施設及び機能

既存施設の概要

蒲郡市立図書館（本館）

所在地	蒲郡市宮成町 1-1
開館年	昭和 44 年(昭和 58～59 年 増築工事)
延床面積	1,986.87 ㎡
施設内容	ブラウジングルーム、展示室、児童室、調べ学習コーナー、おはなしの部屋、学生室、一般室、会議室、郷土資料室、新着資料コーナー、軽読書コーナー、英文多読図書コーナー、行政資料コーナー、多文化コーナー、第一書庫、閉架書庫、バリアフリースイレ、エレベータ
収蔵能力	25 万冊
閲覧席数	157 席(学生室 62 席、一般学習コーナー 22 席、一般室 27 席、児童室 28 席、その他 18 席)
開館時間	9～19 時
休館日	毎週月曜日、毎月月末日、年末年始、特別整理期間
資料所蔵数	261,809 点(令和6年度時点)
備考	本館のほか、6つの分室があり、全体で約 28 万点の資料を所蔵 令和4年2月から「がまごおり電子図書館」がオープン レファレンスにも力を入れており、国立国会図書館のレファレンス協同データベース事業より令和6年度まで 13 年連続で表彰

蒲郡市民会館

所在地	蒲郡市栄町 3-30
建設年	昭和 48 年
延床面積	13,232.81 ㎡
施設内容	大ホール(1,598 席)、中ホール(516 席)、東ホール(315 名)、会議室6室、談話室、音楽室、茶室、展示場、レストラン
開館時間	9～21 時 30 分
休館日	毎週火曜日、年末年始
備考	吹奏楽の活動が盛んで、現在も4市民楽団が市民会館や市内施設で活動

蒲郡市中央子育て支援センター「さんぽ道」

所在地	蒲郡市八百富町 2-36
建設年	平成4年
延床面積	99㎡
施設内容	ベッドコーナー、授乳コーナー、ママごとコーナー、おもちゃコーナー、テラスコーナー、リサイクルコーナー
開館時間	10～16時
休館日	土日祝日、年末年始
備考	旧市民病院の院内保育所を改修し、中央子育て支援センターへ

蒲郡市生命の海科学館

所在地	蒲郡市港町 17-17
建設年	平成 10 年
延床面積	3,297 ㎡
施設内容	陸のひろば、海のひろば、実験工作室、サイエンスショールーム、地球ひろば、科学ひろば、展示室、ミュージアムシアター、事務室
開館時間	9～17 時
休館日	火曜日、年末年始
備考	館内には科学館機能のほか、生涯学習課事務室がある

蒲郡市博物館

所在地	蒲郡市栄町 10-22
建設年	昭和 54 年
延床面積	2,364 ㎡
施設内容	特別展示室、歴史展示室、民俗展示室、ギャラリー、屋外展示(方墳馬乗2号墳、蒸気機関車 D51201)
開館時間	10～17 時
休館日	月曜日、毎月第3火曜日、年末年始
備考	市民の芸術文化振興のため、一般美術工芸作品等の展示スペースとして利用できるギャラリー(企画展示室)を有している

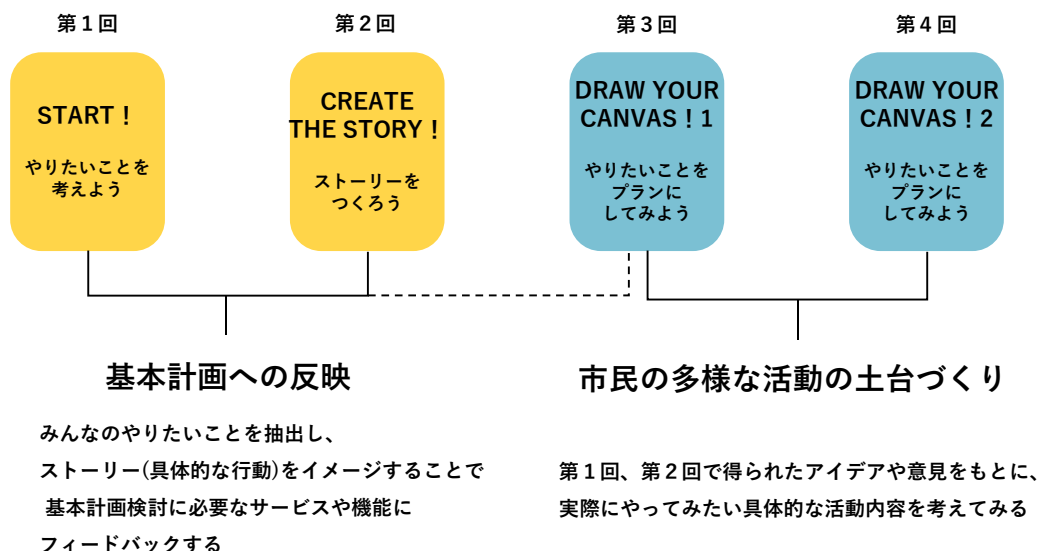
第2章 市民共創

1. 基本計画における市民共創の取り組み

市民ワークショップの流れ

基本理念に「共創」と掲げているとおり、みらいキャンバスは市民自ら新たな文化や学びを生み出し、循環させていく「共創」空間となることが重要です。運営者が一方的にサービスを行うのではなく、市民のニーズを踏まえてより先進的で多様な文化や学びの場を提供していくためには、市民主体の「やりたいこと」を把握し、その実現に取り組んでいく必要があります。

基本計画段階では全4回のワークショップを行いました。第1回・第2回では基本計画の事業・サービス等や必要な整備への反映を目的とし、第3回・第4回では、その「やりたいこと」を実現するための企画づくりを行いました。



図：市民ワークショップの流れ

市民共創のプラットフォーム

みらいキャンバスでは、市民が主体となってアイデアを実践できる「市民共創のプラットフォーム」の設置を検討しています。これは、開館前から市民による活動をはじめ、開館後も継続していくことで、新施設のサービスやコンテンツ、空間づくりにもつなげていくことを目指すものです。全4回のワークショップのうち、第3回、第4回では、活動の企画化のほか、それらをどのように実現していけるか、市民共創のプラットフォームに関する環境や体制検討も行いました。



図：開館前からの活動イメージ

2. 市民ワークショップ

第1回市民ワークショップ実施概要

本プロジェクトの概要について説明を行い、グループワークのヒントとなる他施設の事例紹介の後、6グループに分かれてワークを行いました。

みらいキャンバスで実現したい未来の過ごし方について、たくさんのアイデアが話し合われ、最後には各グループが話し合いの成果を発表し、全体で共有しました。

開催日	令和6年12月22日(日)
テーマ	この施設に1日いるとしたら、何をして、どう過ごす？
参加者数	33名



結果総括

図書館、ホール、生涯学習といった基本構想で予定していた機能を軸としながらも、そこからはみ出したり、大きく拡張するようなアイデアが生まれました。また、参加する、教える、教えられるといった人との交流も大きなテーマである一方、一人で過ごしたいという意見も全グループに見られました。そのほか、1日の中で活動内容が変わっていく様子がワークシートから見受けられ、多様な過ごし方が実現できる施設であることが望まれています。

これらの活動や過ごし方を実現するために、本施設では、各機能が混ざり合う＝融合と、多様な過ごし方ややりたいことを実現できる可変性が必要であり、創作や情報発信のために様々な設備が気軽に使えることも重要であると言えます。

さらに、こどもの過ごし方についてや蒲郡の文化の発信に関する意見も多く挙げられました。蒲郡の将来を支えるこどもや子育て世代たちが気軽に活用できることや、蒲郡の魅力や文化を再発見し、広く発信することで蒲郡の未来を描いていくことも本施設におけるテーマとなると考えられます。

第2回市民ワークショップ実施概要

10年後、50年後のまちの姿を想像しながら、この施設がまちと一緒にできることは何かをテーマに、6グループに分かれて話し合いました。

その中で出てきたアイデアをもとに、グループごとにキャッチフレーズを考え、最後には各グループが話し合いの成果を発表し、全体で共有しました。

開催日	令和7年2月9日(日)
テーマ	この施設がまちとつながり、10年後、50年後の蒲郡市がどうなっているか、キャッチフレーズを考える
参加者数	29名



結果総括

「この施設がどのようにまちとつながるか？」については、地元の産業、商店街、食、自然などとつながることで、「蒲郡ならではの」を見つけたり、それを発信していきたいという意見が挙げられました。加えて、まちを飛び越えて、世界の情報とつながる拠点となることで、世界に羽ばたくきっかけになる施設にという意見もありました。

「10年後、50年後の蒲郡市がどうなっているか？」については、各グループで考えたキャッチフレーズを実現するために、将来を担うこどもたちに対してどのようなサービスをしているのかといった議論が多くかわされていました。

上記2点の話し合いにおいて、人や情報とのマッチング、人や地域とのつながりといった「人と人のつながりや営み」についての意見が共通してみられました。本施設においては、人々がリアルな場やデジタルを活用し、施設内外をつなげて活動や情報発信ができること、それらを周囲の人々、まち、蒲郡市全体や世界へと広げられること、将来的な変化にも対応できることが必要となります。

第3回市民ワークショップ実施概要

基本計画の進捗、市民共創のプラットフォームについて説明を行った後、2つのワークを行いました。

1つ目のワークでは、各グループで第1回、第2回の内容を振り返り、自分たちが「やりたい！」と思ったアイデアの中から、次回企画を作成する活動を最大3つ選びました。2つ目のワークでは、市民共創のプラットフォームについて、必要なものや懸念点等、グループ内で話し合ってもらい、最後にアンケートを実施しました。

開催日	令和7年4月20日(日)
テーマ	ワーク① 企画書にする、「この施設やまちでやってみたいこと」を選ぶ ワーク② 市民共創のプラットフォームについてグループで話してみよう
参加者数	25名



結果総括

1つ目のワークでは、各グループにおいて、これまでの意見を丁寧に振り返り、共有しながら、企画内容案を選んでいきました。中には、これまでに出てこなかった新たなアイデアが出されたグループや、ひとつひとつのアイデアをつなげてさらに広がりをもった企画内容案になったグループもありました。

2つ目のワークでは、活動の拠点となる、気軽に集まれる場所が必要、市民の関与の頻度やレベルへの懸念といった意見等が挙げられました。今後の本施設開館までの多くのステップにおいても市民共創の過程を途切れさせない、継続的なやり方が重要となります。

第4回市民ワークショップ実施概要

前回のワークショップで得られた市民共創のプラットフォームに対する意見を踏まえ、「拠点」を立ち上げることを検討することとなりました。そのことについて説明を行った後に2つのワークを行いました。

ワークでは、前回選んだ活動について企画書を作成するとともに、その企画書を実現するために拠点に何が必要なのかを考えました。

開催日	令和7年6月22日(日)
テーマ	ワーク① みらいキャンバスでやってみたいことをプランにしてみよう！ ワーク② 「拠点」を立ち上げよう！
参加者数	21名



結果総括

企画書の作成に当たっては、自分たちで考えてきたアイデアを具体的に掘り下げることでよりイメージを膨らませることができました。参加者それぞれが普段の生活や蒲郡に対して、よりよくしたいと思っていることをアイデア、企画書という形へと落とし込むことで、熱意ある発表となりました。

また、具体的な活動や場所のイメージがついたことで、自分たちが使う拠点として、どういったものが必要かを膨らませることができました。拠点の名前についても、参加者の思いがこもった、ユニークなアイデアが出ました。

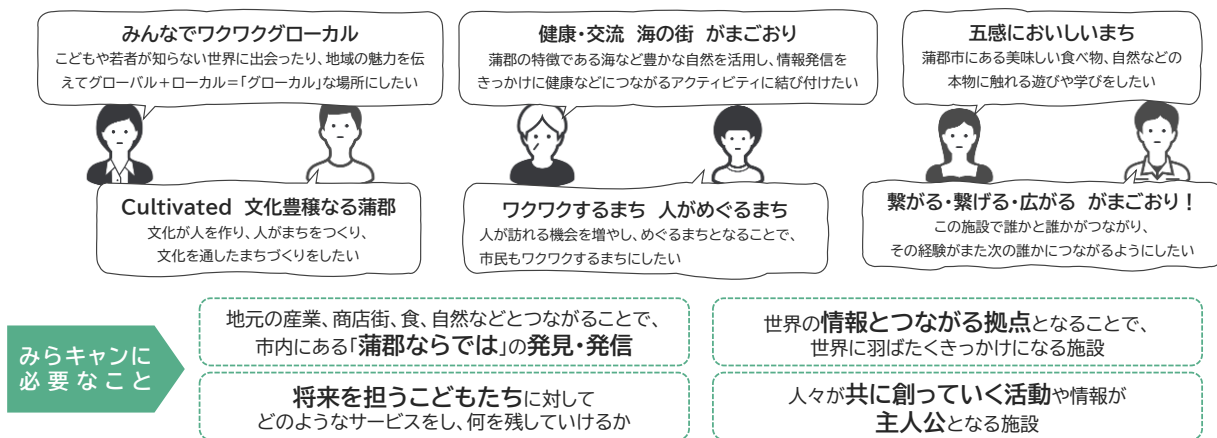
ワークを通じて、今後の活動や本施設への期待感も高まることとなりました。開館までの間にも、拠点の開設や今回考えた企画案のような活動の実施を通じて、これまでのワークショップで考えた「やりたい」が実現していき、市民共創の輪が広がることが期待されます。

市民ワークショップの成果まとめ

第1回 「施設に1日いるとしたら、何をして、どう過ごす？」から、みらキャンに必要なことが見えてきた！



第2回 キャッチフレーズを考え、施設がどのようにまちとつながったり、成長していくかを考えてみた！



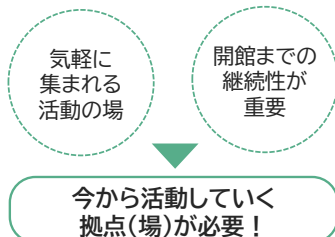
第3・4回 これまでのアイデアをもとに「今から」と「施設で」やってみたいことを「プラン」に！

ワークショップで出された数々の「プラン」！

- ・ がまごおり暮らしコンシェルジュ
- ・ クリエイティブチャレンジ/ふるさと再発見プロジェクト/がまうらライトアップ
- ・ 敷地で活動や空間を感じるプレイベント/はぎれを使ったアート活動/ワークショップ/オープンまでのプロジェクトアイコン&キャッチフレーズ
- ・ 蒲郡マルシェ/ソフト・ハードの情報拠点/フィールドワーク蒲郡
- ・ 居場所の選択肢を増やす/知っていることを共有し、若者から次世代へつたえる学びの循環(「みらいキャンパス」みんなに広げよう！)/他自治体の施設見学
- ・ デジタル交換日記/蒲郡笑顔アルバム/みらキャンユーザーのためのスマホアプリ開発

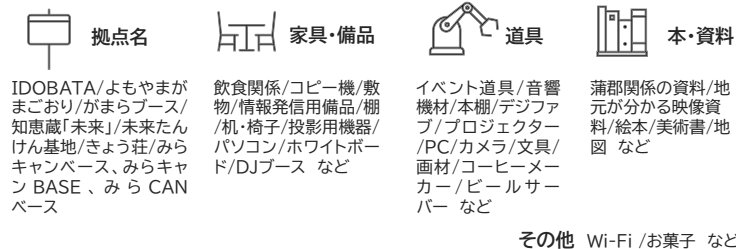


第3回 活動をつづけるために必要なものは？



だから

第4回 「プラン」を実現するための拠点の内容を具体的に考えてみた！



to be continued

これから開館まで、継続的な活動を実施し、これまで、今、(そしてみらいに)考える「やりたい」を実現する施設を実現しよう！

図：市民ワークショップの成果

第3章 基本方針

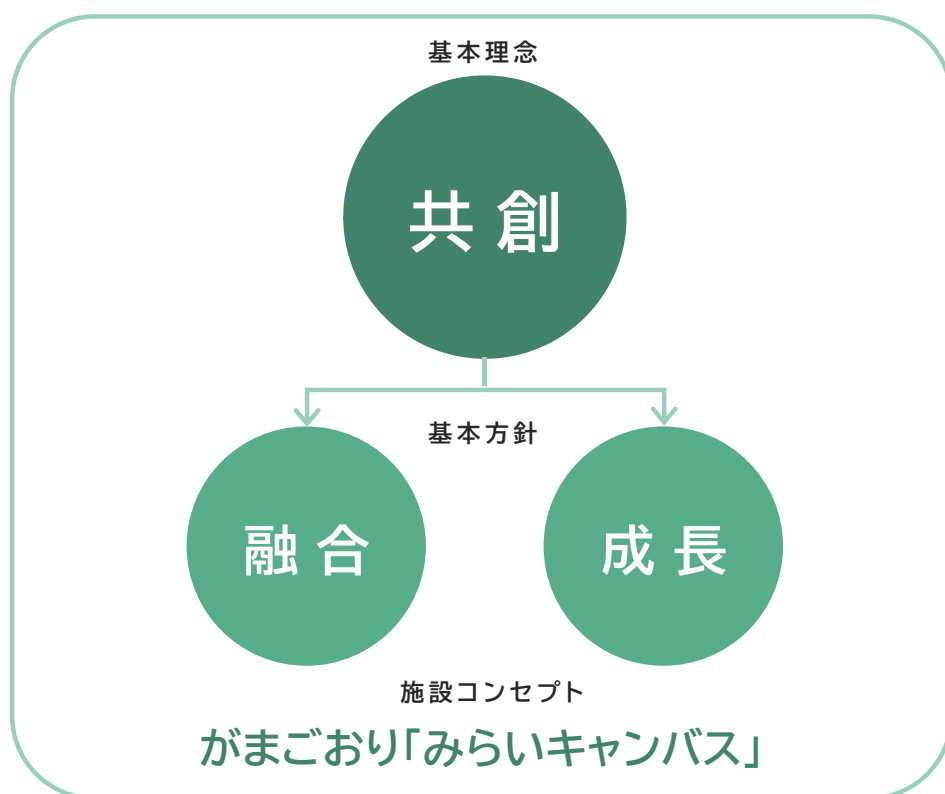
1. 基本方針

本計画では、基本構想や市民ワークショップで出された意見やアイデアをもとに、この施設で取り組むべきことを基本方針として掲げます。

みらいキャンパスは、市民が未来を自由に思い描き、実現に向けて一歩踏み出せるような施設を目指しています。そのために、施設内のそれぞれの機能は、お互いに連携し合いながら、柔軟に人々のやりたいという目的に向かって融合していくことが大切です。そして、この融合によって、人や情報と出会い、それが記録され、また新たな学びへとつながる「学びの循環」が創出されます。

また、市民の活動や施設内での過ごし方は、こどもや親子、学生、社会人、シニア世代など、多様な世代によって1日の中で変化するとともに、そのニーズは時代によっても変化していきます。その変化に寄り添いながら、施設も運営も一緒に変化できる柔らかさやしなやかさを備えていく必要があります。

こうした考えのもと、基本理念である「共創」や施設コンセプト“がまごおり「みらいキャンパス」”をかたちにし、施設と運営が一体となって取り組むべき方向性を、「融合」と「成長」を大きなテーマとしながら、基本方針を定めます。



図：基本理念・基本方針・施設コンセプト

基本方針

方針1

いつも多様な関心・活動と出会える、融合した施設・運営

- 市民が「やりたいこと」を思うままに実現できるよう、枠組みにとらわれず、機能同士、スペース同士を溶け合わせます
- 多様な関心や価値観に触れることで、思いがけない出会いが生まれるよう、空間もサービスも、誰にでも開かれた場を目指します

融合

方針2

いつまでも新たな「やりたい」を描ける、成長する施設・運営

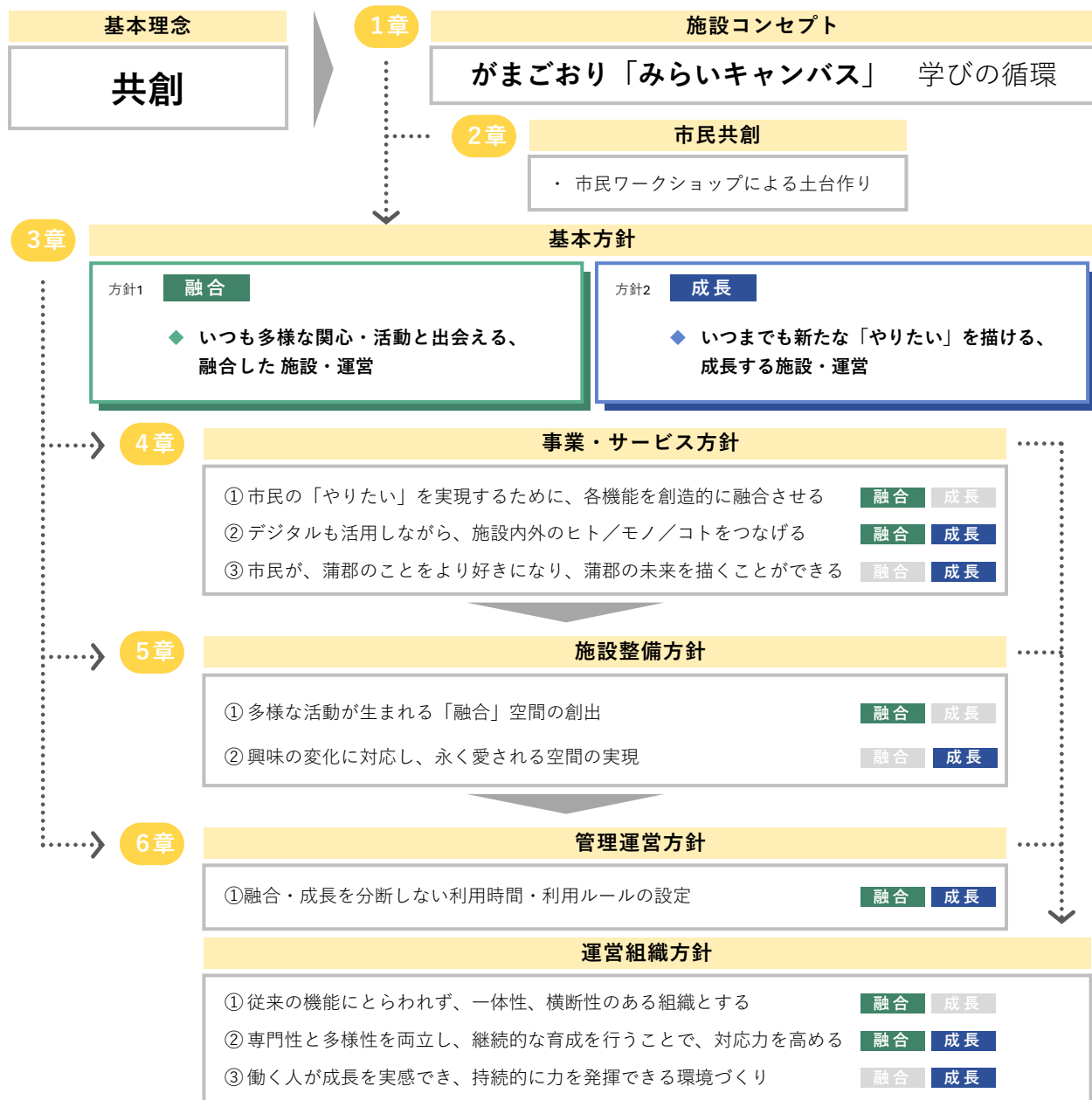
- いまの多様な「やりたい」も、みらいの「やりたい」も実現するために、日常的に空間が可変するとともに、サービス・組織にも柔軟性を持たせます
- 10年後、50年後という時代の変化にも対応できるよう、市民とともにあゆみ、育ち続けていく施設を目指します

成長

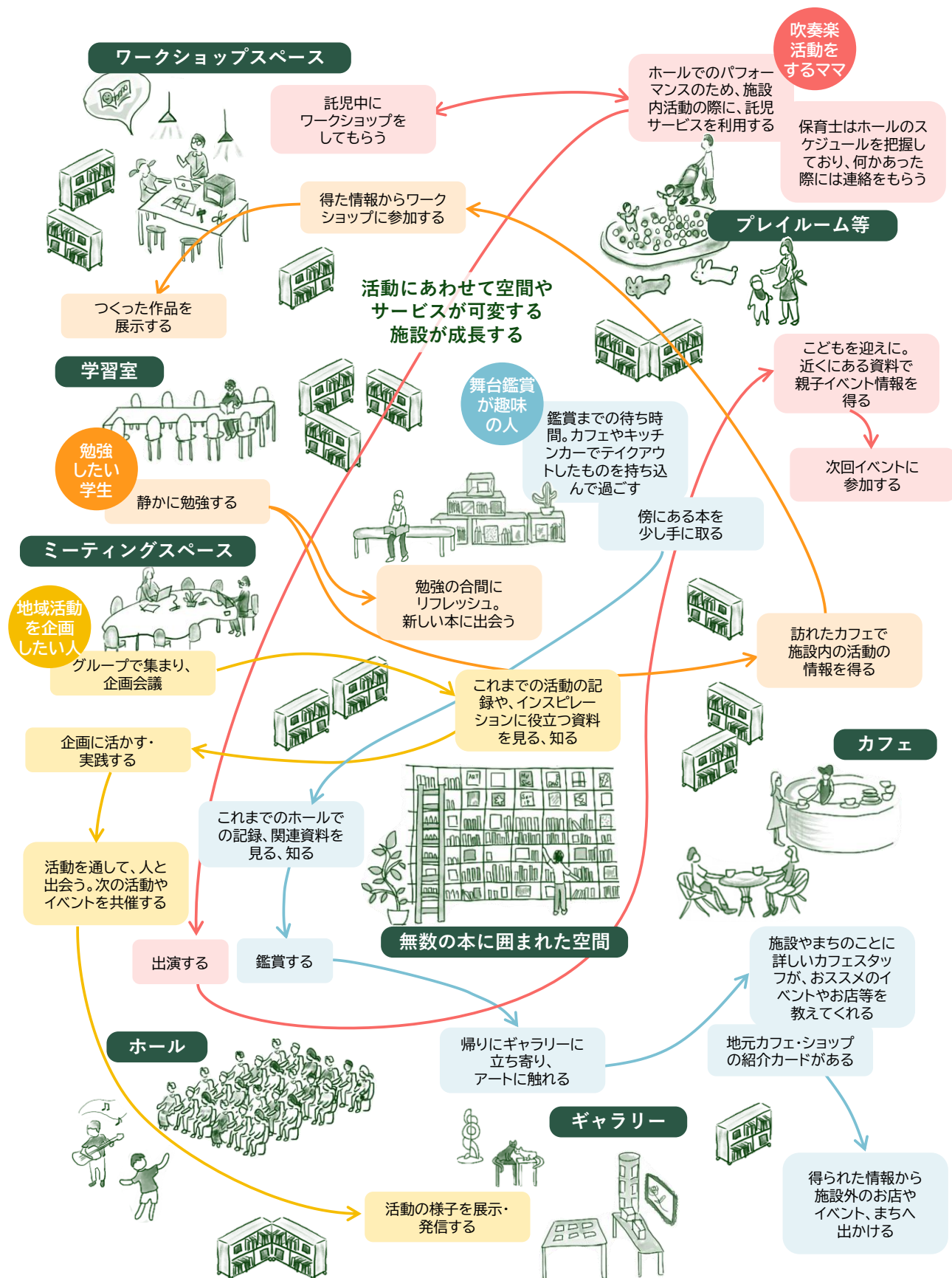
この基本方針を出発点として、施設で行う事業やサービス、整備のあり方、運営の方法、そしてそれらを支える組織づくりについて、より具体的な方針へとつなげていきます。それら全体の構成については、次ページにて図で示しています。

また、次々ページでは、本施設内での利用者の行動を具体的にイメージした図を示しています。様々な世代が様々な目的で訪れる、あるいは目的がなくても自由に過ごせる本施設では、利用者の過ごし方や活動を起点として、施設内のスペースや機能の融合の可能性を検討していく必要があります。この施設を訪れることで様々な利便性や、人や情報との出会い、活動の広がりを体験できるよう、事業・サービスの内容や空間のあり方を検討していきます。

『がまごおり「みらいキャンバス」基本計画』全体構成



図：『がまごおり「みらいキャンバス」基本計画』全体構成



図：利用者の具体的な行動イメージ

第4章 事業・サービス方針

1. 事業・サービス方針

本施設が目指すのは、単なる場所の提供にとどまらず、市民一人ひとりの「やりたい」に寄り添い、つなぎ、育てていくことで、まちそのものの未来にポジティブな変化をもたらす「共創」のプラットフォームです。基本理念「共創」、施設コンセプト“がまごおり「みらいキャンパス」”のもと、「融合」と「成長」という2つの基本方針を、実際の事業・サービスとして展開していくにあたり、次のような方針を掲げます。

① 市民の「やりたい」を実現するために、各機能を創造的に融合させる **融合**

市民の「やりたい」に応えるため、施設の各機能を分断せずにシームレスに連携させ、横断的なサービスを提供します。専門的な知見を活かしながら、柔軟かつ創造的に機能同士を組み合わせせていきます。

② デジタルも活用しながら、施設内外のヒト・モノ・コトをつなげる **融合 成長**

施設の内外を問わず、人やモノ、出来事、情報といった多様な資源をつなぐことにより、市民の関心や活動が自然に広がっていく環境を整えます。リアルな場での出会いに加え、デジタル技術も活用することで、学びの循環の可能性を広げます。

③ 市民が、蒲郡のことをより好きになり、蒲郡の未来を描くことができる **成長**

本施設では、地域に根ざした文化や営み、魅力を再発見し、広く発信していきます。特徴的な魅力だけでなく、ひそかに育まれてきた地域の魅力もすくい上げ、市民と共に次の世代へつないでいきます。市民が蒲郡に愛着と誇りを持ち、未来を共に創る活動の拠点を目指します。

2. みらいキャンバスを構成する機能

基本構想では、「図書館機能」「ホール機能」「生涯学習センター機能」の3つの機能及びその他の機能の複合施設として位置付けていました。これを受けて取り組んだ市民ワークショップでは、これら3つの機能からはみ出したアイデアや、こども（子育て）に関する意見が多数挙げられました。

機能の検討においては、3つの機能にとどまらない、新たな活動を促進する施設やサービスのあり方、こども・子育て層へ向けた施設やサービスのあり方も念頭に置きました。

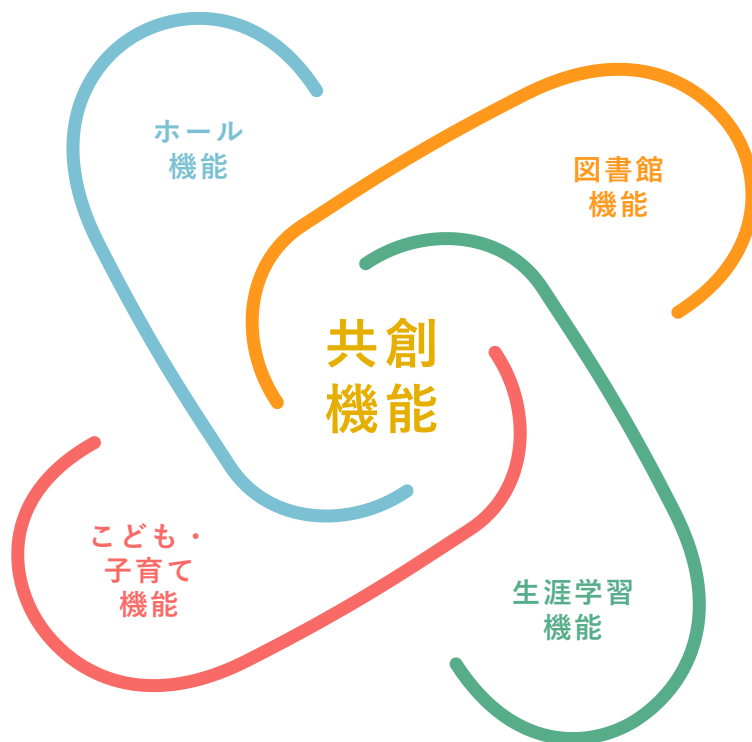
市民ワークショップでの意見及び基本理念や基本方針を踏まえ、みらいキャンバスを構成する機能を、「図書館機能」「ホール機能」「生涯学習機能」「こども・子育て機能」、そして新たな概念である「共創機能」の5つとします。

みらいキャンバスの核となる共創機能

みらいキャンバスでは、市民のやりたいことを実現するために、図書館機能、ホール機能、生涯学習機能、こども・子育て機能を基本としながらも、それぞれの枠を超えてつないでいきます。

4つの機能を横断し融合させることで、これまでにないサービスを生み出し、市民と共につくりあげる、そのような機能を、今回新たに「共創機能」と定義しました。

「共創機能」が、この施設の中心的役割を担います。



図：共創機能を中心とした各機能の関係性

各機能における事業・サービス内容の概略を次のページから記載します。

なお、詳細については引き続き管理運営計画において検討するとともに、市民共創の取組の中で試行し、より精度を高めていきます。

(1) 共創機能

市民の多様な活動を支え、これまでにない新たな出会い・交流を創出する
「みらいキャンバス」の“核”

基本構想における『学びの循環』システムで示したように、みらいキャンバスでは、人や情報と出会い、学びの場を広げ・深め、新たな学びにつなげていくサイクルが市民のなかから生まれることを目指しています。

そこで、学びを循環させるため、各機能や事業・サービスを横断的に展開するとともに、情報発信や活動支援・相談窓口といった市民共創による学びの循環を支え、伴走するためのサービスにも取り組みます。

事業・サービスを提供するための基本方針

みらいキャンバス内のすべての空間や部屋を活用して事業・サービスを行います。

音やセキュリティのために閉じる必要がある場合は壁で囲まれた空間・部屋としますが、それ以外はより多様な規模・内容の活動に柔軟に対応できること、互いの活動が見る・見られる環境にすることを重視し、できるかぎり開かれた空間で事業・サービスを行います。

貸館機能としては、市民会館の諸室、図書館及び博物館のギャラリーがこれまで担ってきた役割を引き継ぎますが、より使いやすいよう、各室の規模・設備等について見直しを行います。

共創機能における主な事業・サービス

項目	事業・サービス内容
1. 情報発信	① 活動・情報のハブ拠点 - 施設内外の活動内容の発信のほか、市内文化団体等の情報整理・収集を実施 - 分かりやすい情報発信・広報を通じて、施設の利用促進、情報や活動との出会いのきっかけをつくり、人々やモノ・コトをつなげるハブ拠点となる ② 市民参加型の情報発信 - 多様な視点や興味の共有を促すため、みらいキャンパス内で市民が参加できる情報発信を実施 - まち全体への情報発信が行えるよう、デジタルも活用しながら、ヒト・モノ・コトを記録し発信 - 情報や人との新たな出会いをつくり、コミュニティの形成を支援 ③ 地域情報の収集・発信 - 実施されたイベントのアーカイブ化等、地域の情報ハブとしてサービスを提供
2. 活動支援、 相談窓口	① 活動支援 - 個人、グループ、組織など、相互のニーズをつなげる活動支援の実施 - グループの立ち上げ相談など、活動に関する様々な事項や課題が相談できる窓口を設置 ② 専門スタッフの配置 - 学習のほか、イベント、市民主体の企画の相談等の人的支援 - 先進技術の活用のほか、施設内の資料や機器の利活用をサポート
3. 交流促進	① 活動に基づく交流促進 - 上記の情報発信や活動支援による人や情報との出会いを通じて、交流を創出 - 広場等を活用し、施設内の活動が外に「見える化」される取り組みを実施 - 複数人で使える学習スペースや、電源・Wi-Fiのあるワークスペースを整備 ② 施設内リエゾン - 施設全体の機能を横断させた学びやプログラムを提供 - 利用者の視点やニーズを踏まえ、機能の枠を超えたサービスを提供。職員のマルチスキル化や、機能同士の情報共有など、組織内の連携や橋渡しを強化 ③ 憩いや交流の場の提供 - 一人でも、誰かとでも憩える場を提供 - 気軽に施設を訪れることができるよう、カフェを設置 - 施設全体でこどもにも開かれた憩いの場を提供

項目	事業・サービス内容
4. 若者・こどもの つどいの場の 形成	① こどもたちのサードプレイスづくり ・ 家庭、学校に続く第3の居場所として、こどもたちがいつでも気兼ねなく来られる、自由に過ごせる空間づくり ・ 学童保育、宿題支援、通信教育等へのアクセス機会の紹介の機能を検討 ② チャレンジの支援 ・ 挑戦することもや若者の支援、将来の進路等に関するプログラムを実施 ・ イベント等を通じた世代間交流を促進 ③ クリエイティブ支援 ・ 独創的な発想や創造性を活かした企画づくりや、クリエイティブ活動を支援 ・ 音楽、ダンス、演劇等のパフォーマンス活動ができる場所を整備
5. 多様な学習環境	① 多様な学習環境 ・ 個人学習など、落ち着いて情報をインプットするスペースを確保 ・ 静かな学びに加え、賑やかな学び、多様な学習空間を提供 ② 体験型の学びの支援 ・ アナログ／デジタルを問わず、知育玩具、工作機器、音楽・動画編集機器などを設置し、多世代にわたる市民の体験や創作を促す場づくり ・ 上記の利用を支援するサポーターを配置 ・ 目的なく来訪した利用者も、気軽にイベント等に参加できる工夫を検討
6. 地域・企業連携	① 地域、企業、多様な組織との協働 ・ 地域の人、組織とのネットワークを形成。地域資源の発見や、まちの活性化につなげる ・ 人、組織との協働・連携による施設内外でのプロジェクトを積極的に企画 ② 蒲郡市PR事業 ・ キッチンカーやマルシェ、蒲郡市情報コーナーなど、身近なきっかけから地元企業・商店、農林水産業、特産品等への気づきを促す ・ 地域に詳しい市民による観光情報や体験プログラムの発信
7. 学び合いの場の 創出	① 市民企画講座の実施支援 ・ 市民自ら講座が開催できる仕組みをつくり、「学びあい」を促進 ・ 市民が気軽にアイデアを出せる余白を設け、ラフな意見交換やオープンミーティング等を開催 ② 学びに関するイベント企画 ・ 専門的な知見を持つ人々を講師として、日常的な課題解決に関連した学びのイベントを提供 ・ 座学にとどまらない、身体的な活動を含めた講座を開催
8. 貸館管理運営	① DXによる利便性向上 ・ 施設全体で一元化された貸館受付・予約・決済システムの導入 ・ 管理上の定型作業をデジタル化し、職員は専門性を発揮できる業務に専念 ・ 空間の変容性や柔軟性を考慮した貸出のルールづくり ② 窓口サービスの融合 ・ 施設内全てのサービスに対応する総合窓口を設置 ・ ホールのチケット購入や、座席の予約などの集約可能なサービスを統合 ・ 利用者が求める情報にアクセスしやすいデジタルプラットフォームを提供

(2) 図書館機能

ゆとりのある、居心地の良い空間で、多様な学び・活動を
アウトプットできる自由度の高い“知の拠点”

学びの循環のきっかけとなる何かを調べたい、何かを知りたいという思いに応えるには、個人の外部にある知識や情報へのアクセスが重要です。図書館機能では、こうした多様な知的関心に応え、学びを支援するため、資料の収集・提供、特集展示、こどもたちが本に触れる場の提供など、基礎的な図書館サービスを着実に実施していきます。

その上で、誰もが気軽に好奇心を拡げアウトプットへとつなぐことができるよう、本との出会いを促進する工夫、静かな場所と賑やかな場所の両方をメリハリをつけながら実現する居心地の良い空間づくり、さらに積極的なデジタルの活用など、新たな時代に求められる図書館機能の充実にも取り組んでいきます。

事業・サービスを提供するための基本条件

基本構想では「蔵書数の拡充を見据えつつ、新しい資料に触れられる、新鮮度が高い開架図書、ゆとりのある開架スペース」を具体的なイメージとして挙げています。現図書館の蔵書は26万冊、本館以外と合わせた市全体の蔵書は28万冊強となっていますが、開架図書の新鮮度については課題のあるところです。みらいキャンバスでは、冊数の多少に注目するのではなく、新鮮度を保ち、多様な活動スペースを確保しうる適正な冊数であることが望ましいと考えています。

そのような検討も踏まえ、みらいキャンバスでは、居場所としてゆとりある空間の確保とともに、他機能で必要な面積とのバランスを考慮し、本施設の収容能力は25万冊とします。さらに電子図書館(2万冊)、図書館分室(3万冊)を合わせて、市全体として合計30万冊程度を目指します。

なお、本施設の図書館機能における児童書割合は、こども・子育て機能が同施設に導入されることを踏まえ、現状より拡充し30%を目標とします。また、開架率においても、現状の40%より拡充し60%を目標とすることで、利用者が手に取って触れられる資料を拡充します。その場合においても、「ゆとりある空間」と「密に本に囲まれる空間」の両方をバランスよくメリハリをつけて実現します。

図書館機能における主な事業・サービス

項目	事業・サービス内容
1. 資料収集	① みらいキャンパスにふさわしい資料収集 ・ 蒲郡市民にとって必要な資料を揃えつつ、こどもや中高生の知的好奇心をくすぐり、市民の学びの循環の出発点となる「知りたい」や「やりたい」を支援する資料を収集する。また、図書館で「出会う」体験を創出できる図書に重点を置いて収集する ② ライフステージに寄り添った資料提供 ・ 乳幼児、児童、中高生などの若い世代、一般、高齢者、障がい者、外国人など、ライフステージやライフスタイル、課題に合わせた資料及びサービスを提供
2. 学びのネットワークを活かしたサービス	① レファレンス ・ 現在高評価を得られているレファレンス機能を維持しつつ、レファレンスの可能性や魅力に関する市民認知を拡げる ② アウトリーチ ・ 周辺施設での出張読み聞かせや、連携イベント、講座等の企画・実施など、職員が積極的に施設外へと出ていくサービスを実施 ・ 遠隔地へのサービスとして、電子図書館の拡充・利用推進を PR ③ 図書館分室・学校図書館との連携 ・ 学校複合施設の整備等を踏まえ、本施設を中心とし蔵書を市全体で活用する仕組みを検討 ・ 授業支援や、学校図書館配送、分室の蔵書入れ替え、学校図書館支援員によるサポートなどを引き続き実施 ④ 図書館による施設内の活動支援 ・ 知識からインスピレーションを得て活動ができるよう、図書館職員は企画の伴走者やコーディネーターという立場から橋渡しを実施
3. 本を活かした空間づくり	① 施設全体の資料配置による機能融合 ・ 各機能を横断して利用者の動線上に資料を配置し、施設全体で「学び」のサービスを提供 ・ 各機能で求められる資料やニーズを把握し、施設内外から情報を積極的に収集 ② 配架方法の工夫 ・ 配架、書架の編集・演出の工夫により、活動とのつながりや、思いもよらない本との出会いを創出 ・ 日本十進分類法による配架に加え、司書や住民関係者のキュレーションによるテーマ配架を実施 ・ 柔軟な配架や資料の配置が可能となるよう、可動書架を設置 ③ 開架スペースのゆとりの創出 ・ 車いすやベビーカー利用者など、誰もがストレスなく、ゆったりと本を選べる環境を整えるため、書架間のゆとりを確保 ④ 知の集積の可視化 ・ 図書館による知識の集積が実感できる「密に本に囲まれる空間」を整備（「ゆとりある空間」も必要であるため、バランスよくメリハリをつけて実現） ・ 金沢ヒューマン文庫、教科書センターの資料等を集積し、資料へのアクセス性を向上

項目	事業・サービス内容
4. デジタルによる サービス拡充	① 蒲郡アーカイブ ・メディアを問わず、地域の歴史や市内の情報をまとめる ・市民の活動による成果物を継続的に収集、公開。本市ならではの新たな地域資料の発信によるシビックプライドの醸成も行う ② 紙とデジタルの共存 ・紙の書籍と電子書籍(電子図書館)、ハイブリッドな形態で情報を提供 ・紙媒体の地域資料はデジタル化を実施。お祭りなどの地域文化は、動画などの形態も含めてデジタル化し、広く閲覧、活用できる機会をつくる ③ 利便性向上のためのデジタル活用 ・ICタグシステムの導入により、セルフでの貸出・返却を可能とする ・施設内の様々なところに資料を持ち出せる環境を整備

(3) ホール機能

多様な活動を表現・発信する市民が活用しやすい 開かれた“共創ホール”

誰かの発表・発信が、他の誰かの活動を誘発することは学びの循環を構成する重要な要素です。みらいキャンパスのホール機能では、文化芸術や学びそのものに触れる機会を提供するだけでなく、市民による多様な活動や学びの発信・表現の場を提供していくためにも、サービスを展開していきます。

また、「開かれたホール」とすることで、日常的な利用やほかの事業・サービスを拡充するための空間も提供し、市民の文化芸術活動をさらに高め、また市民活動をより多角的に支える“共創ホール”を実現していきます。

事業・サービスを提供するための基本条件

メインホール

近年の来場者数や市内行事等に求められる席数を考慮しつつ、良質な鑑賞環境で市民に良い体験を提供し、学びや活動につなげることを目的に、適切な客席規模について検討した結果、800席程度とします。

みらいキャンパスのホールは、可変性を持ち、他の機能と融合する新しい「開かれたホール」となることを目指します。ホールとして適切な鑑賞環境が得られる席数は800席程度としますが、周辺スペースとの融合、配信等を通じて、さらに多くの人に鑑賞機会を提供します。

新しい「開かれたホール」のイメージ(一例)

- 800席利用時は本格的な公演・発表の場としての鑑賞環境を確保
- 800席を超えて多くの人に見せたいときは、隣接するラウンジ等からガラス越しに、スピーカーを通して音を聞きながら舞台が見られるようにする
- ここに来ることが難しい人のため、さらに大勢の人と共有するため、配信を行う

多目的ホール

200席程度の平土間ホールとし、壁面を可動として周辺と一体的な使用を可能とし「開かれたホール」となることを目指します。また、舞台の発表だけでなく、練習室、展示室、学習室、遊び場など、多用途に使えるようにします。

ホール機能における主な事業・サービス

項目	事業・サービス内容
1. 多目的な活動・ 体験・鑑賞の 創出	① 市民が気軽に参加できる活動・体験の実施 ・文化芸術、講演会等多様なジャンルにおける、気軽な体験・講座、ワークショップ等の実施 ② 多様な公演・展示の鑑賞 ・市内で鑑賞機会の少なかった、または成長・発展が期待されるジャンル、アーティストの公演や展示の鑑賞機会の提供 ・ロビーコンサート、青空コンサートなど、開かれた空間で自由に鑑賞できる公演の実施 ・若者・こどもを対象とした、質の高い文化芸術の鑑賞機会の提供 ・赤ちゃん連れ、こども連れが気兼ねなく鑑賞できる公演等の実施 ③ さまざまな学びの機会の提供 ・市民に知ってほしい学びの提供となる講演会や研修会、展示等の実施
2. 市民による 発信・表現の場	① 市民や文化的団体による発信・表現の促進 ・市民や市内の文化的団体が、文化芸術に加え、様々な活動の発表の場として利用できる空間の貸出 ・よりよい発表のための企画、広報、演出、制作等への提案、アドバイス ② 市内でのさまざまな学びの発表 ・みらいキャンパス内での学び、学校や部活動での学び・研究・活動等の成果を市民に広く発表、発信する場の提供
3. 多用途に利用 できるホール	① 多用途な活用 ・日常空間として市民ニーズに合わせ、展示スペースから学習スペース、こどもの居場所までさまざまな用途で活用できる可変的な空間の提供 ・発災時の帰宅困難者対応、支援物資保管等のためのメインホール・多目的ホール、ホワイエの活用 ② 多様なイベントへの活用 ・市内のイベントにおいて、会場や休憩スペース等として広く活用する ③ 観る人を増やす拡張機能 ・さまざまな理由で施設を訪れることができない人に向けて、事業や発表を届ける配信機能を強化 ・1人でも多くの人に体験機会を提供するため、施設内のホール以外のスペースや、他施設で事業や発表をみられる機能を設ける

(4)生涯学習機能

生涯学習を通じた学習活動を支える“学びの拠点”

みらいキャンパスは市民主体・市民主導型の学びを支援する施設ですが、市として市民の生涯の学びを先導する施設としての役割・機能も求められます。

その役割・機能を果たすためにも、多様な学びに関する場を提供し学びを実践することの支援を行うことや、文化的団体の活動を支援し活性化を図ることで、多くの市民が学びや文化に触れることができる機会を創出し生涯学習活動を推進していきます。加えて、市内の各地域にある地区公民館の指導・支援をし、地区公民館を統括していくことや、地区公民館同士の連携強化を図ることで、市内全域の学びを支えていくことを実現していきます。

事業・サービスを提供するための基本条件

生涯学習機能は、みらいキャンパス内の諸室、空間を活かしながら、市民の生涯の学びを先導する施設としての役割・機能を果たすことができるように、広範な生涯学習事業の取り組みを推進します。

生涯学習機能における主な事業・サービス

項目	事業・サービス内容
1. 学びを先導する 機能	① 多様な学びに関する場の提供 ・ 市民の教養・知識の向上、多様なあり方の理解や実現に寄与する講座を開催 ・ 市政への理解や生活に必要な知識などを学ぶ講座を届けるアウトリーチ事業の実施 ② 学びを実践することの支援 ・ 学びを通じて身につけた知識や技能を活かし活躍できる場の創出
2. 文化的活動の 支援・促進	① 文化的団体に対する支援 ・ 市内の文化的団体の活動への支援 ・ 文化的団体同士の交流による文化芸術活動の活性化 ② 文化公演事業及び文化的イベントの企画・実施 ・ 市民が文化や学びに触れる事業を企画・実施 ・ 長年継続している俊成(しゅんぜい)短歌大会のような、蒲郡独自の文化的イベントを実施
3. 地区公民館を支 える機能	① 地区公民館との連携による社会教育活動の推進 ・ 地区公民館を統括する役割を担うとともに、地区公民館と連携して全市的に社会教育を普及 ② 社会教育における指導者の育成 ・ 従来取り組んでいる社会教育の指導者育成を継続して取り組み、地域の社会教育活動の水準を向上

(5) こども・子育て機能

こども・子育て世代が、気軽に利用できる “こども・子育て交流広場”

みらいキャンバスは全世代を対象としていますが、こども・子育て世代の施設としても、こどもが未来につながる「やりたい」ことを見つけるために、多様な遊びや交流のなかで、自分の好奇心や行動力等を伸ばすことが大切です。

また、子育て中の親が、こどもを預けて講座やセミナーに参加したり、好きな活動をしたりして学びの機会が得られることは、地域の学びの豊かさへつながります。

みらいキャンバスとして学びを拡げるために必要なサービスを備えるほか、子育ての悩み相談、親子どうしの交流など、親子を共にサポートする事業を行うことで、より訪れやすく、学びやすい環境を実現します。

事業・サービスを提供するための基本条件

現在の中央子育て支援センターの機能を引き継ぐ位置づけですが、中央子育て支援センターで取り組んだ事業の拡充だけでなく、これまで実現できなかった事業・サービスや、みらいキャンバスに複合されるからこそ必要な事業・サービスに対応できる機能とします。

また、これらを「子育て支援センター」として施設内で閉じられた、他と隔離された場とするのではなく、タイムシェア等でホールや諸室、諸空間をこどもの居場所として活用します。ただし、セキュリティ確保を必須とするもの、特別な設備等を要する部屋は区切られたものとします。

こども・子育て機能における主な事業・サービス

項目	事業・サービス内容
1. こども・子育て の交流の 場づくり	① こども・子育て親子が安心して過ごせる場の提供 ・開かれた空間で、年齢の異なるこどもが安心して楽しく遊べる場所を提供(固有の部屋だけでなく、タイムシェア、他機能との融合等についても検討する) ・未就学児が遊べるプレイルームの設置 ・未就学児が絵本や図書をゆっくり、自由な体勢で読めるスペースや、保護者が読み聞かせできるスペースの設置 ・ベビーカーの使用など乳幼児連れの利用者が快適に利用できるように配慮した利用者動線の配慮 ② 未就学児の学びにつながる場・プログラムの実施 ・遊びながらこどもの知育につながる学びの場、及び学び・成長に関するプログラムを実施 ・こどもだけでなく親子が一緒に体を動かす等、親子間の交流を深めるイベント・プログラムの実施 ③ 子育て親子等の交流促進 ・多様な人々が互いに交流できるスペースの設置 ・各種イベントを開催し、交流のきっかけを提供 ・親子同士、こども同士の交流に加え、多世代が垣根なく交流しやすい場を提供
2. こども・子育て 相談	① こども・子育てに関する相談、援助 ・子育て等に不安や悩みに対する相談・援助対応を行う ② こども・子育て支援のハブ拠点 ・専門的な対応が必要な相談に対しては専門機関の支援につなげる橋渡し(子育てハブ拠点)の役割を担う
3. こども・子育て に関する 情報発信	① 地域のこども・子育て関連情報の提供 ・みらいキャンパス内だけの子育て情報発信だけでなく、地域の育児やこども・子育てに関する情報(制度、サービス、イベント等)を発信する場を提供
4. こども・子育て サポート	① こども・子育てをサポートする事業や講習等の実施 ・子育て中の方に向けた講座、イベントの実施 ・これから子育てをする方へ向けた講座の実施 ・保護者とこどもの工作教室、親子創作講座など、家族の絆をより深めるようなプログラムを提供 ・各種支援制度申請等手続きや各種教室・講座等の既存事業を実施 ・文化活動等でこどもと一緒にいることが難しいときの託児など、親が自分の時間を持てて、こどもも安全に楽しめるサービスを提供 ・相談や託児サービス等と連携し、保護者がリフレッシュできる場の提供 ・ファミリー・サポート・センター事業を中心とした、送迎支援等のサービス事業の提供を目指した取り組みの実施

3. 事業・サービスを支える情報環境の考え方

みらいキャンパスにおける情報とは

本施設における「情報」は、学び始めるきっかけとなるだけでなく、人と人とのつながりを生み出す出発点でもあります。そしてその情報は、市民との共創によって生み出されるものです。こうした情報は学びの循環を生み出し、「融合」のきっかけにもなります。

基本方針及び事業・サービス方針の実現に向け、市民同士が情報を薦め合い、共創によって生まれた情報を目にすることができ、さらには本のように「手に取る」ことができるような情報環境を、デジタル空間とみらいキャンパス内の双方に構築します。それによって学びが次の学びを促し、市民と市民が出会い、機能やコミュニティ、時代を超えて学ぶことによる「融合」の実現を目指します。

また、情報は本施設の運営組織における「融合」を促す役割も果たします。各機能の専門人材が、他の機能に対するニーズや運営実態を知ることによって、相互に連携したサービス提供が可能になります。こうした情報の共有と連携を通じて、組織自体の「融合」が進み、事業・サービスの「融合」へとつながっていく情報システムを目標とします。

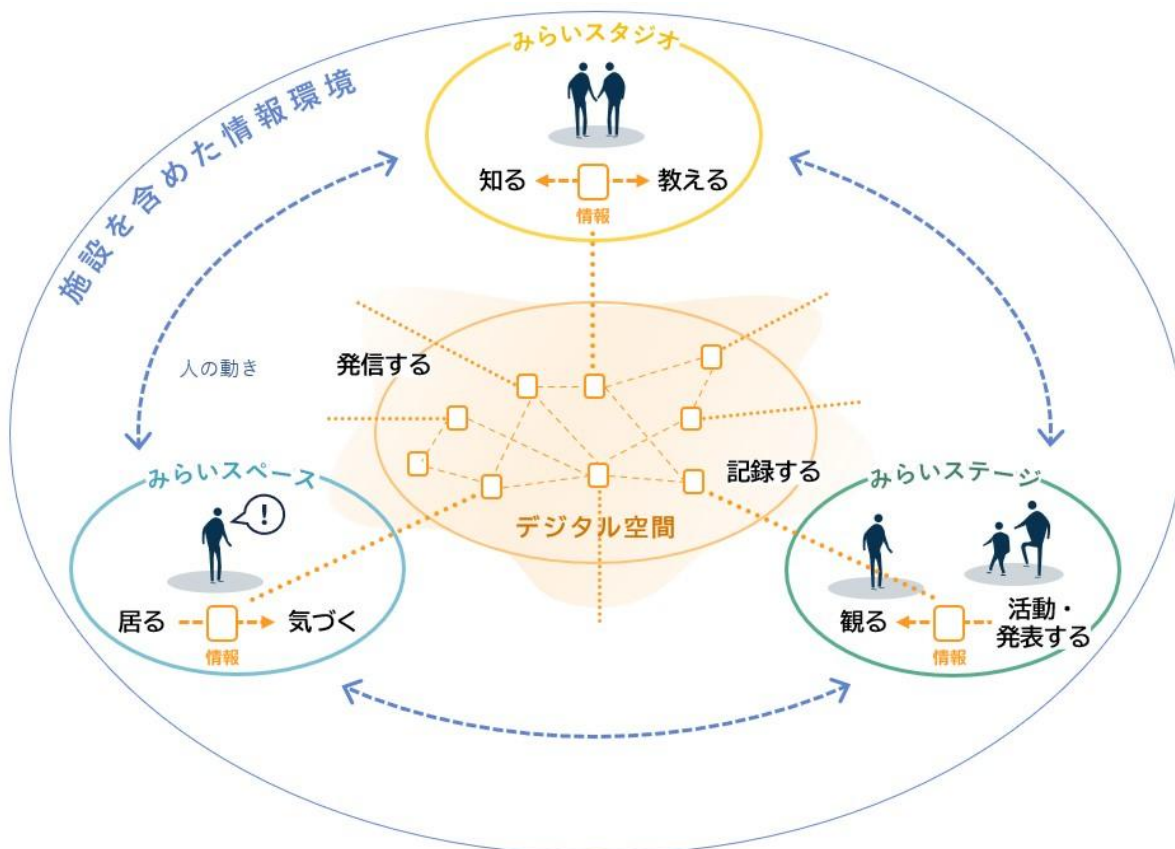
学びの循環を支え、促す情報環境の考え方

本施設の3つの基本的な役割「みらいスペース」「みらいスタジオ」「みらいステージ」において、情報がどのようにそこでの活動を支えるのかを整理します。

まず、「みらいスペース」ではヒト・モノ・コトの情報に自然と触れることができ、自分の「やりたいこと」に気づくことができる環境を目指します。その気づきをきっかけとして「みらいスタジオ」にて学ぶようになり、ヒトと出会い、コトに参加しながら、「みらいステージ」での活動へと展開していくことを促します。

「みらいスタジオ」では、利用者が教え合う関係をつくることのできる情報提供を行うことで、情報に触れ、行動に移し、その行動が情報化される循環を生み出します。利用者の知識やノウハウ、「みらいステージ」での活動、様々なモノを利用者自身が情報化できる仕組みを構築します。

みらいキャンパスの情報環境はこのように、ウェブサイトやSNSなどのインターネット上にとどまらず、みらいキャンパス内に広がり、デジタルにおいてもリアルな空間においても情報へのタッチポイントをつくります。館内においても、デジタルサイネージだけでなく、ヒト・モノ・コトをメディアとして情報が展開されることで、共創を実現し、成長し続ける情報環境を目指します。



図：情報環境のイメージ

情報システム構築の考え方

情報環境においては、2つの情報システムを構築することを検討します。一つは、施設内外の様々な情報を収集し、広く発信するもので、もう一つは施設利用・管理運営業務を合理化・効率化するための基盤システムです。

これら2つのシステムを構築することで、施設全体の事業・サービスの実現、そして市民の学びを支えます。

① 学びの循環を支える収集・記録・発信システム

- ・ 施設内の活動の収集・記録、発信を行う。また、それにより、空間の使い方などのイメージを可視化し、さらなる施設の活用の工夫、学びの循環を促す
- ・ 施設外、まち全体など、地域の情報も収集・記録・発信し、人や情報との出会いをつくる
- ・ 部分的に、市民の手によって情報を編集・発信できるスペースを設ける

多様な活動等の収集・記録・発信においては、情報を「手取る」ことができることを目指します。例えば、紙の本、モノなどのリアルに触れることができるメディアも「情報」であるため、

それらを面白く発信していく仕組みづくり(システムの構築)を行います。

具体的な取り組みとして、市民が自由に本、モノ、冊子など、様々なメディアを編集して並べることができる場所を施設内に点在させて設置することを検討します。そこでは市民の今の瞬間の興味や、個人的に好きなことや伝えたいこと、施設では収集しきれないようなまちの身近な情報などを気軽に発信でき、そして施設を訪れた人はそれらの情報に気軽に出会うことができます。

このようにして集約される情報は、それを編集する人や時期によっても変化していくため、Web 上にアーカイブしていくことも検討します。それにより、市民の今の興味・活動が未来に向けて蓄積され、発信していくことが可能となります。

② 施設利用・管理運営業務の基盤システム

【利用者】

- ・ ホールや生涯学習諸室などの施設利用の予約・決済を行う
- ・ イベント時の参加申込を行う
- ・ 上記の内容が、施設を訪れなくてもオンライン上で全て完結する
- ・ キャッシュレス決済等の導入を検討する
- ・ 可能な限り各機能で入口を分断せず、利用者が使いやすいインターフェースを検討する

【管理者】

- ・ ホールや諸室などの施設利用等の管理を行う
- ・ 管理運営者が使いやすく、業務が効率化されるものとする
- ・ 運用方法の変化に適用できるよう、将来の拡張性を意識したシステムとする
- ・ 管理運営業務に係るものについてもシステムの活用を検討し、施設の一体運営に寄与、機能同士の融合を図る

第5章 施設計画

1. 整備方針

「第3章 基本方針」及び「第4章 事業・サービス方針」の実現に向けて、本施設の整備においては以下の方針を掲げます。

市民の多様な活動意欲を支える心地良い空間にするためには、施設内の各機能がシームレスにつながり、様々な活動や過ごし方を実現する、融合した空間、そして変化するニーズに対応しながら、市民の活動とともに“成長”できる空間が必要です。そうした空間の実現に向けて、整備の方向性を示します。

① 多様な活動が生まれる「融合」空間の創出 **融合**

市民の多様な活動が相互に刺激を与えあい、関心が広がるような空間を目指します。

機能上オープンに利用できる諸室は共用部と一体的につくり、音や匂いなどに配慮が必要な空間も視覚的に開放するなど、活動の「見える化」を促します。また、来館者が気軽に訪れ、様々な活動に自然に出会えるように、施設内外の動線にも配慮します。

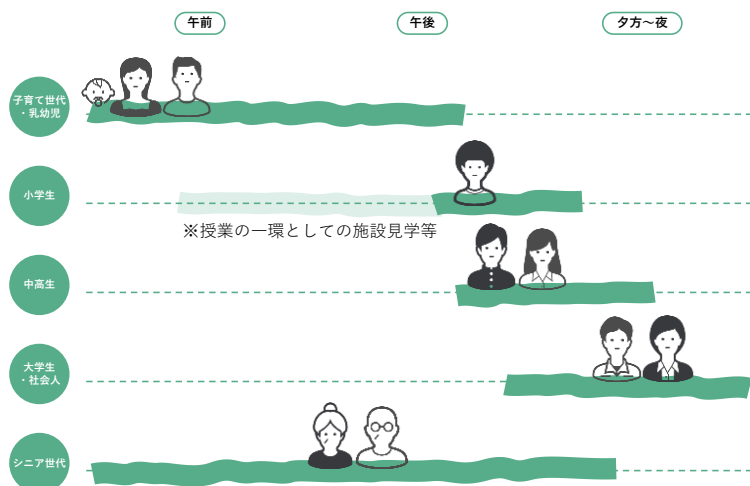
＜具体的な設計手法の例＞横断して居場所をつくる／共用部とつながる／相互に活動が見える

② 興味の変化に対応し、永く愛される空間の実現 **成長**

市民の多様な活動、その興味関心は日々変化します。また、本施設は1日の中でも様々な世代が使う施設となります。そのため、そうした活動の変化に対応できるよう、使い方に自由度があり、可変性のある空間とします。

一つの場所でも使い手の発想から使い方を選択できる空間をつくることで、多様な過ごし方ができ、利活用の想像が膨らむ空間、そして、来館者に新たな刺激を与え、永く愛される市民の居場所を目指します。

＜具体的な設計手法の例＞様々な環境の居場所をつくる／場がモードチェンジする／間仕切が可変する

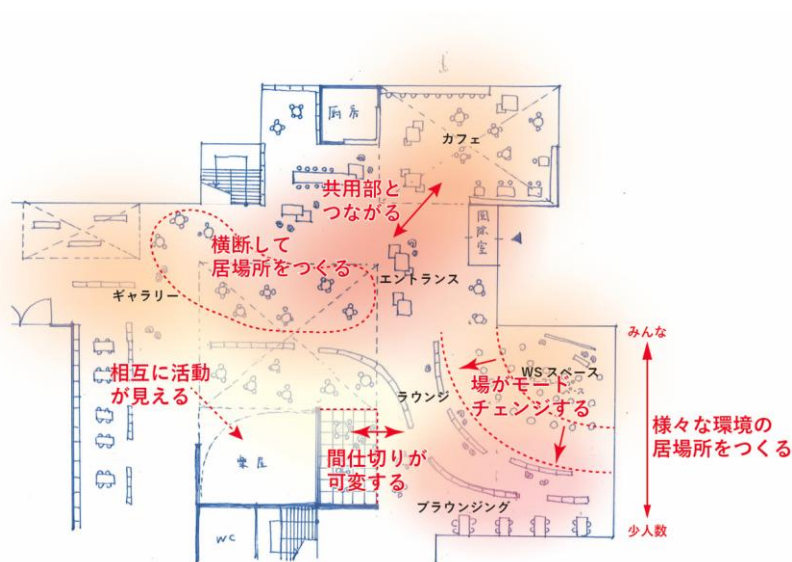


図：時間帯別利用者のイメージ図

様々な世代が使う施設であるため、多様な過ごし方に応じて選べる（場がモードチェンジする）空間とする。図は、みらいスタジオにおける平日の主な利用者層の一例。

「融合」し、「成長」する場のイメージ

多様な活動が隣接するだけでなく、共用部とつながったり、使い方によって場が広がったりする等、活動の場が重なり合いながら全体に展開することで、多様な居場所をつくとともに、新たな活動や興味関心が生まれるような相乗効果のある空間を目指します。



図：「融合」し、「成長」する場のイメージ

横断して居場所をつくる/共用部とつながる



共用部に活動がにじみ出す | 須賀川市民交流センター tette

様々な環境の居場所をつくる



多様な居場所を選べる | みんなの森ぎふメディアコスモス

場がモードチェンジする



書架の間でイベント開催 | 小千谷市ひと・まち文化共創拠点わか。

相互に活動が見える



共用部に開かれたアトリエ | 富山県美術館

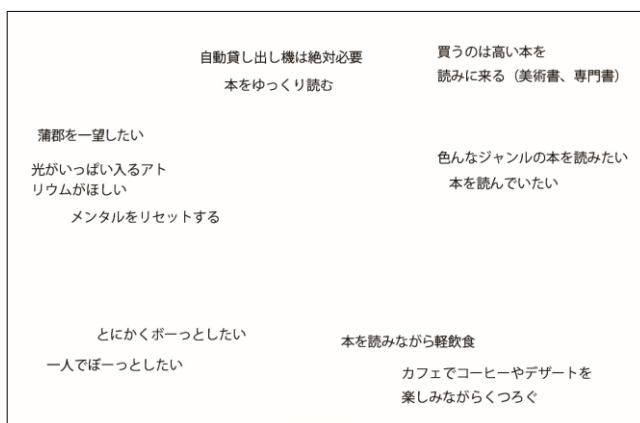
2. 施設構成

「やりたい」を実現する施設のあり方

市民ワークショップでは、市民の皆さんから様々な「やりたいこと」が出てきました。これらは機能や特定の部屋では完結しない、多様な活動を含むものです。それらを活動の性質や規模で整理しなおし、この施設に必要な機能を「部屋」ではなく「場」として設定します。

市民ワークショップの分析

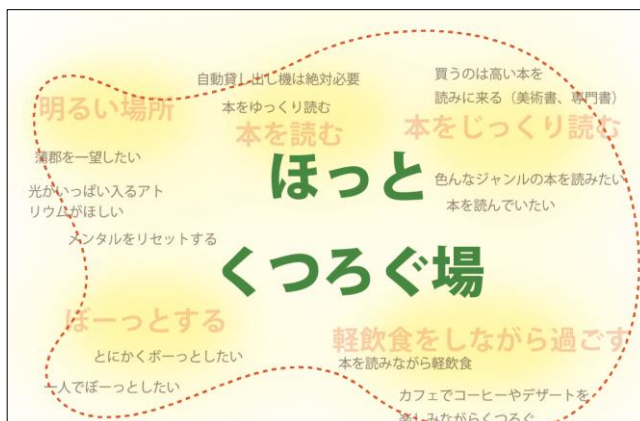
- ① 市民ワークショップで出た意見を書き出し、似たもの同士を近くに並べる



- ② 近くにあるものを見比べていくと、活動のかたまりが見えてくる



- ③ 活動のかたまりの集合に場の名前をつける



みらいスペース

ほっとくつろぐ場

ひとりだけの時間を大切にできる。ほっと一息ついたり、自由にくつろいだりできる場

ひとりで



- 過ごし方例【機能】
 - ・本をゆっくり読む【図書館】
 - ・飲食をしながら、くつろいで過ごす【共創】
 - ・ただただ、ひとりでぼーっとする【共創】
- 構成するスペース例
ラウンジ／ブラウジングスペース
- 設えの例
 - ・ゆったりとした椅子
 - ・飲食できるテーブル席
 - ・寝転がれる床
 - ・外の光や風を感じる
 - ・落ち着いた雰囲気・開放感のあるつくり



ひとりでくつろげるラウンジ
| 西神中央ホール



落ち着いたブラウジング
| 松原市民松原図書館

がやがやおしゃべりの場

だれかと待ち合せたり、おしゃべりしたり、買い物したり。賑やかな声と雰囲気が広がる場。

だれかと



- 過ごし方例【機能】
 - ・キッチンカーやマルシェで購入【共創】
 - ・休憩、軽飲食をしながら過ごす【共創】
 - ・屋外で読書をして過ごす【図書館】
- 構成するスペース例
カフェ・ショップ／蒲郡情報コーナー／屋外広場
- 設えの例
 - ・複数人で囲めるテーブル席
 - ・蒲郡の情報
 - ・イベントのできる広い場
 - ・テラス席
 - ・賑やかな雰囲気



マルシェができる広場
| 茨木市文化子育て複合施設おにの



賑やかに過ごせるテーブル席
| 北区 J&L

すくすく育みの場

こどもがのびのびと遊び、学べる。大人たちが見守りながら、みんなで未来を育む場

みんなで



- 過ごし方例【機能】
 - ・こどもが気軽に来られる【こども】
 - ・遊んで過ごせる(プレイルーム)【こども】
 - ・こどもと絵本を探せる＋読み聞かせ【図書館】
- 構成するスペース例
プレイルーム／託児室／相談室／児童開架／お話室／和室／学習スペース(こども)
- 設えの例
 - ・小上がり
 - ・こどもが集まる
 - ・音を出せる部屋
 - ・相談カウンター
 - ・活発な雰囲気
 - ・おもちゃがある



親子で過ごせる絵本コーナー
| 北区 J&L



こどもの遊び場
| 丸亀市市民文化交流活動センターマルス

みらいスタジオ

じっくり集中する場

勉強、読書、仕事、調べもの、本探し…。ひとりでやりたいことにじっくり向き合う場。

ひとりで



- 過ごし方例【機能】
 - ・本をじっくり読む【図書館】
 - ・本を探す・借りる【図書館】
 - ・集中して勉強・作業する【共創】
- 構成するスペース例
 - 学習スペース／グループ学習室／無数の本に囲まれた場／予約本コーナー／対面朗読室
- 設えの例
 - ・静かな学習席
 - ・ずらっと並ぶ本棚
 - ・防音の練習室
 - ・カウンター席
 - ・こもれる部屋



©株式会社エスエス 加藤俊史

集中できるカウンター席
| 大和市文化創造拠点シリウス



本をじっくり読むスペース
| 北区 J&L

わいわい学び語る場

共通の趣味の情報交換、ミーティングなど。本のある空間で、だれかと何かを語り合う場。

だれかと



- 過ごし方例【機能】
 - ・本棚や展示のある空間【共創】【図書館】
 - 【ホール】
 - ・誰かから学ぶ、教わる【共創】
 - ・数人でミーティングをする【共創】
- 構成するスペース例
 - グループ学習スペース／ワークスペース／ミーティングスペース／ティーンズ
- 設えの例
 - ・複数人で囲める大テーブル
 - ・簡単な発表ができる
 - ・学びあいができる
 - ・PC 作業やミーティングができる



おしゃべりしながら学べるコーナー
| 北区 J&L



学び合う開かれた空間
| 桜川市生涯学習センターさくらす

わくわく発見・体験の場

興味のある講座に参加したり、講座を開いたり、「学びあい」から発見と体験がある場。

みんな



- 過ごし方例【機能】
 - ・壁を活用したギャラリー【共創】【ホール】
 - ・ワークショップ、レクチャー【生涯学習】
 - ・音楽やダンスの練習【共創】【生涯学習】
- 構成するスペース例
 - ワークショップスペース／調理スペース／企画展示コーナー／視聴覚資料コーナー／地域資料コーナー／多目的ホール／練習室
- 設えの例
 - ・グループで語れるテーブル
 - ・講座を開ける場
 - ・すぐに展示できる壁
 - ・明るく広い空間



市民が集うワークショップスペース
| 北区 J&L

みらいステージ

じわじわ発信の場

好きなこと、今ハマっていること、面白いと思ったことなどを、自由に発信できる場。

ひとりで



- 過ごし方例【機能】
 - ・市民自ら情報発信を行う【共創】
 - ・施設内外の活動や情報の発信を行う【すべて】
- 構成するスペース例
メディアアートギャラリー
- 設えの例
 - ・発信できるデジタルツール
 - ・まちの情報
 - ・活動内容や様々なテーマで展示できる棚（可動）



テーマに合わせて展示ができる棚
| ミライエ長岡



資料提供：せんだいメディアテーク
地域情報の収集
| せんだいメディアテーク

ガチャガチャものづくりの場

ちょっとした工作からデジタル工作まで、つくりたいものをだれかと一緒に作れる場。

だれかと



- 過ごし方例【機能】
 - ・工作機器やスペースを使う【生涯学習】
 - ・活動企画やミーティング【共創】
 - ・本棚、台での作品展示【共創】【図書館】
- 構成するスペース例
ものづくりスペース
- 設えの例
 - ・工作に使える大きなテーブル
 - ・音を出して良い部屋
 - ・大きい流し台
 - ・自由に使える道具
 - ・ざわざわした雰囲気



道具に囲まれ気軽に使える工房
| VIVISTOP NITOBE

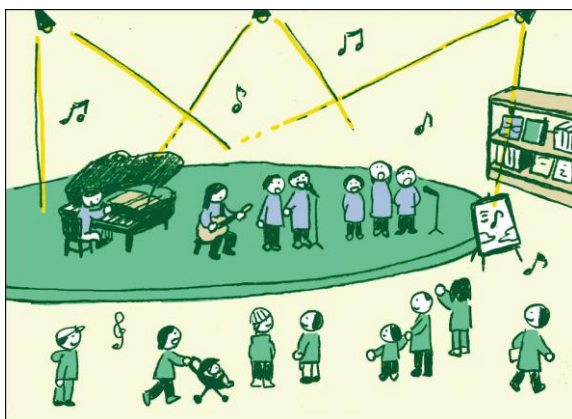


オープンなギャラリー
| 北上市文化交流センター

キラキラパフォーマンスの場

芸術を鑑賞する、日ごろの成果を発表する等、生のパフォーマンスで感性を育む場。

みんなで



- 過ごし方例【機能】
 - ・ホールでのパフォーマンス【ホール】
 - ・通りがかりに気軽に見られる【共創】【ホール】
 - ・周辺に関係のある本がある【図書館】
- 構成するスペース例
ギャラリー／メインホール
- 設えの例
 - ・オープンなステージ
 - ・誰でも使える練習室
 - ・メインの席以外からも見ることができる
 - ・楽器庫・楽譜庫
 - ・広い壁面
 - ・中庭などの外構



交流スペースを開放して客席拡張
| 鹿島市民文化ホール SAKURAS



多様な諸室から観覧できる設え
| エスコンフィールド HOKKAIDO

3. 機能連携イメージ

利用者の活動を支えるための機能連携を実現するためには、オープンな利用者エリアに「9つの場」がゆるやかにつながりながら全体を構成する関係性が重要です。利用者エリアと管理エリアの関係性のイメージを下図に示します。

ゆるやかにつながる「9つの場」

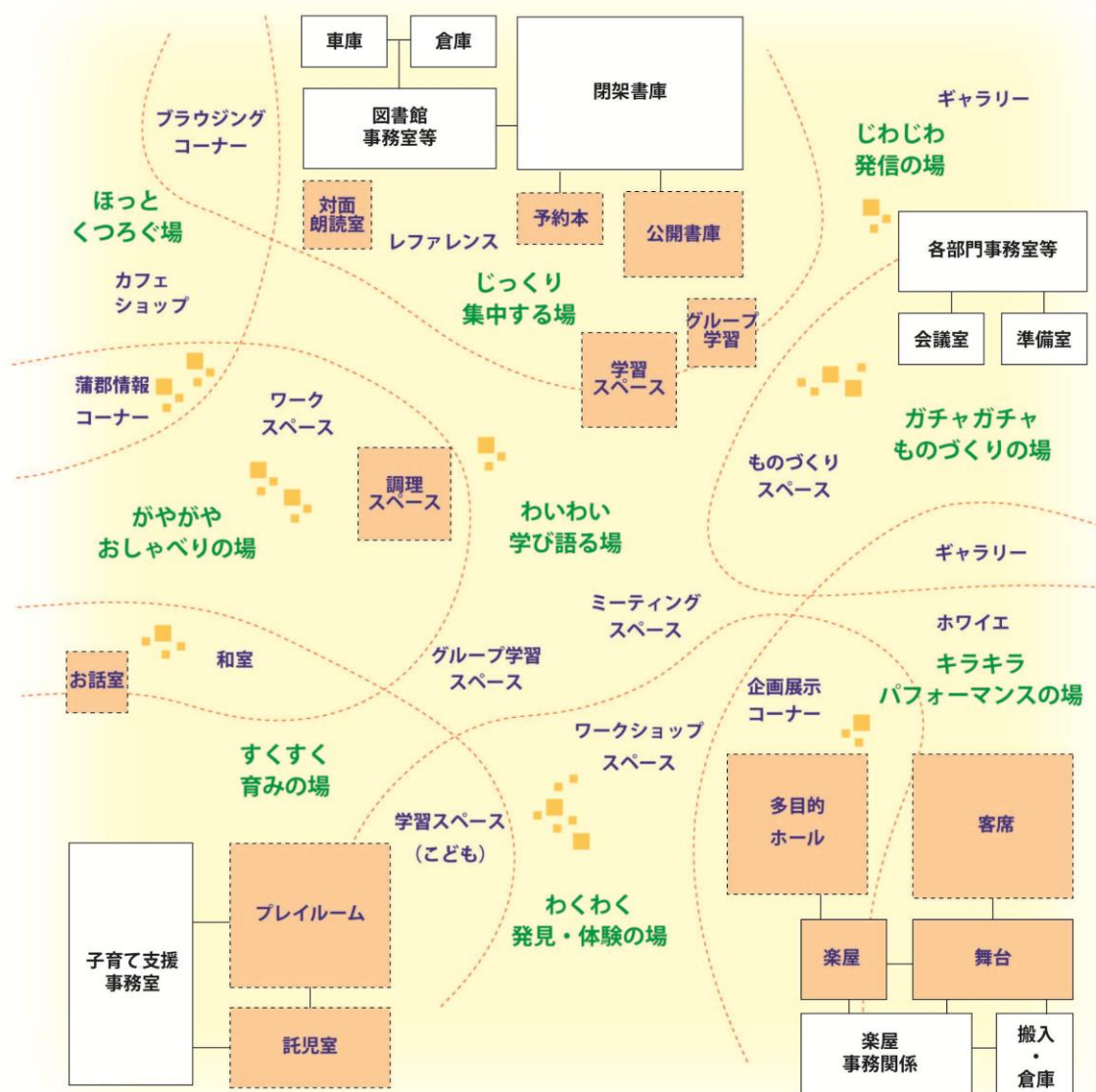
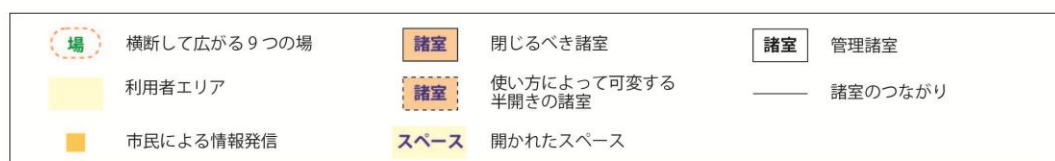
利用者エリアを構成する「9つの場」はそれぞれ個別に存在するのではなく、互いに重なりあいながら、全体がゆるやかにつながる一体的な空間とします。

閉じる / 開くを段階的に設定する

閉じる必要がある諸室と、使い方によって開き方を調整できる空間を段階的に計画し、多様な活動を支え、将来にわたっても成長できる施設を目指します。

サービスを支える動線連携

管理・運営上の連携をスムーズにするための諸室のつながりをしっかりとおさえ、利用者エリアともつながりやすい全体計画を目指します。



図：機能連携イメージ

みらいキャンパスの空間イメージ

「9つの場」が施設全体に展開したイメージを図に示します。

場同士が横にも縦にもつながることで活動の相乗効果が生まれたり、活動に合わせて場を選択できたりと、施設全体に融合し、可変・成長する空間が広がる状態を目指します。

※参考イメージであり、今後、民間事業者等からの提案を受けて、より良い方向に更新するものです。



図：みらいキャンパスの空間イメージ

4. 施設規模

これまでに示した事業・サービス方針及び整備方針をもとに、本施設に必要な規模を示します。以下に示す面積は計画段階の目安であり、今後の設計においては、より実用的かつ効果的な提案を求めています。

利用者エリア

9つの場		構成するスペース（機能）	面積（㎡）
① み ら い ス ペ ー ス	ほっと くつろぐ場	ラウンジ	180
		雑誌・新聞コーナー（雑誌154誌、新聞21紙、30席程度）	
	がやがや おしゃべりの場	カフェ・ショップ	200
		蒲郡情報コーナー	
	すくすく 育みの場	プレイルーム	220
		託児室	
		相談室、相談カウンター	
		児童開架（開架27,000冊、60席程度）	450
		お話室（10～20名程度の読み聞かせ）	
		検索端末台、自動貸出機、自動返却機等	
		和室	50
		学習スペース（こども、30席程度）	60
② み ら い ス タ ジ オ	じっくり 集中する場	学習スペース（45席程度）	210
		グループ学習室（30席程度）	
		無数の本に囲まれた場（50,000冊）	170
		予約本コーナー	70
		対面朗読室	
	わいわい 学び語る場	グループ学習スペース（30席程度）	60
		ワークスペース	
		ミーティングスペース（30席程度）	150
		ティーンズ（開架2,000冊、40席程度）	
	わくわく 発見・体験の場	ワークショップスペース	100
		調理スペース	80
		企画展示コーナー	100
		視聴覚資料（CD・DVD等2,800点、10席程度）	230
		地域資料（開架12,000冊、20席程度）	
		多目的ホール（200席程度、平土間／可動席）	860
		ホワイエ	
		楽屋関係	
③ み ら い ス テ ー ジ	じわじわ 発信の場	ギャラリー（メディア系展示）	100
	がちゃがちゃ ものづくりの場	ものづくりスペース	100
	キラキラ パフォーマンスの場	ギャラリー（作品展示等）	100
		メインホール（800席以上、主舞台サイズ8間角）	
		ホワイエ	2,750
		楽屋関係	
全体	一般書ゾーン	一般開架（開架61,000冊、100席程度）	740
		検索端末台、自動貸出機、自動返却機	20
		サービスカウンター	10

管理エリア

機能	主な諸室	面積 (㎡)
全体	事務室・会議室	710
	倉庫・車庫（荷解きスペース）等	
	更衣・ロッカー室・トイレ・清掃員控室	
	施設全体廊下等	2,380
共創・生涯学習	事務室・生涯学習関連準備室	140
図書館	作業バックスペース・閉架書庫（100,000冊）	310
ホール	搬入ヤード・舞台関係倉庫・技術諸室・控室	900
こども・子育て	事務室・相談室	100
	授乳室・給湯室・こども用トイレ等	
設備	機械室等	2,100

屋外空間

	必要機能	面積 (㎡)
駐車場等	利用者用駐車場（100台以上）	—
	ロータリー	
	関係者用駐車場（15台程度）	
	駐輪場	
外構・広場	屋外広場	—
	その他広場・テラス等	

全体施設規模（機能別）

全体管理諸室等	3,090㎡
共創・生涯学習	1,670㎡
図書館	2,260㎡
ホール	4,510㎡
こども・子育て	320㎡
設備	2,100㎡
合計施設規模	13,950㎡

5. その他留意事項

施設整備について、諸室構成・概要のほかに留意すべき事項は以下の通りです。

■ 安全・安心な施設

① 誰もが使いやすい施設づくり

多世代、障がい者、外国人などの誰もが過ごしやすく、インクルーシブな施設づくりを行います。

- ・ 円滑な動線計画
- ・ 使いやすい平面計画
- ・ わかりやすいサイン計画
- ・ 見通しがよく、相互の活動が感じられる機能配置
- ・ ウェルビーイングにつながる空間や設備の配置

② 自由な使い方を促す施設づくり

わかりやすさや管理しやすさを重視することで利用者に自由な使い方を促す施設づくりを目指します。

- ・ 来館者動線と管理者動線の分離
- ・ 自由な使い方を促すと同時にわかりやすいセキュリティ区画
- ・ 効率的な管理運営を実現する機能配置、動線計画

③ 防災に配慮した施設づくり

南海トラフ地震や豪雨災害など、様々な災害に対して十分に備えた安全対策や施設整備を行います。

- ・ 「官庁施設の耐震安全性の目標」の性能を満たす施設計画
(構造体：Ⅱ類、非構造部材：B類、建築設備：乙種 ※避難施設：指定なし)
- ・ 災害時や非常時に利用者が館内から安全に避難できる動線計画
- ・ 書架什器や展示物など、地震時の転倒防止等適正な安全対策
- ・ 災害時、非常時を見据えた防災マニュアルの作成等、管理運営と連携した対策
- ・ 周辺住民だけでなく他市からの通勤者、観光客等帰宅困難者の一時避難場所として活用
- ・ 避難情報や支援物資を市民につなぐための情報発信拠点としての活用を検討

表：官庁施設の耐震安全性の目標

構造体	Ⅱ類	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られるものとする。
非構造部材	B類	大地震動により建築非構造部材の損傷、移動等が発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止が図られていることを目標とする。
建築設備	乙種	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られていることを目標とする。

環境や景観との調和

① まちと調和した外観計画・景観配慮

まちなみとの調和や周辺環境への配慮、地域の素材の活用など、地域に調和した施設づくり・景観づくりを目指します。

- ・ 施設内での豊かな活動が感じられ、まちに賑わいをつくる外観計画
- ・ 日影や風、音などの周辺環境への影響に配慮した外観計画、外構計画
- ・ まちなみや海への眺望などが感じられる機能配置
- ・ 市・県産材を活用し、蒲郡らしさが感じられる外観計画、内装計画

② 長寿命化をめざした環境配慮型施設

環境負荷低減やメンテナンスのしやすさ等に配慮することで、長期にわたって使い続けられる施設づくりを目指します。

- ・ ライフサイクルコスト、ライフサイクル CO2 に配慮した環境負荷低減の設備計画（環境性能：ZEB Ready の要件を満たす）
- ・ 自然採光、自然換気など自然エネルギーを活用し、立地を活かした計画
- ・ メンテナンスに配慮した設備方式の採用や空間構成
- ・ エネルギー資源の有効利用を図る高効率機器の採用（AI 等を活用した空調制御や人感、昼光センサーの設置等）
- ・ 建設時・廃棄時に環境負荷の少ない材料の使用推進

■ 事業実現に向けた実施方針

① 社会情勢を踏まえたコスト・工程管理

- ・ 変動する社会情勢を注視した、建設コストやライフサイクルコストの適正化
- ・ 確実な工程管理の徹底

② 柔軟に連携するプロセスのデザイン

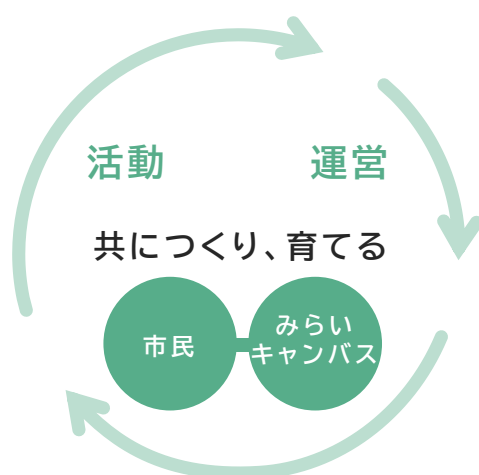
- ・ 市民参加のプロセスを盛り込んだ施設・環境づくり
- ・ 管理運営や関連施設等と連携した包括的な観点からの施設整備

第6章 管理運営方針

1. 管理運営方針

本施設では、従来の市民会館、図書館などの枠組みにとらわれない、新しい管理運営のあり方を目指します。下記の方針に基づき、ニーズと効果を踏まえながら、一体性のある運営と組織づくりを目指します。

そして、本施設の運営は、「融合」「成長」の基本方針のもと、市民と行政が共につくり、育てていくことを前提とします。開館前から始まる市民活動や対話を、開館後も継続・発展させていくため、市民共創のプラットフォームや仕組みづくりを行います。市民の声や活動を受け止めながら、施設の機能やサービス、使い方を柔軟に更新・改善していくことで、常に変化するニーズに応えられる運営を目指します。



図：本施設の運営の前提

管理運営の条件設定

さまざまな機能が複合した施設では、一般的に機能ごとに利用時間やルールが異なるケースが多く見られます。本施設では空間やサービスを融合していくため、施設全体で一体的な利用時間・利用ルールを設定することを検討します。

融合・成長を分断しない利用時間・利用ルールの設定 融合 成長

本施設では、複合的な機能の連携を最大限に活かすため、利用時間や利用ルールを原則として全体で一体的に設定します。利用者が空間やサービスを横断的に活用できるよう、各機能が相互に連携し、分断のない運用を基本とします。

一部の機能において分ける必要がある場合は、設計上の配慮や、デジタル技術の活用、コアタイム設定などの検討により、全体の一体性を損なわない工夫を行います。

運営組織の方針

このような多様かつ新しい取り組みを推進するには、専門性が高く、かつ分野を横断して多様なスキルの組み合わせができ、市民によって展開される活動を支援する運営組織となる必要があります。その実現に向けては、機能横断的に管理運営ができる仕組みも必要です。

下記方針のもとに、よりよい事業・サービスが柔軟に、融合して提供できることを目指し、具体的な検討は管理運営計画にて行います。

① 従来の機能にとらわれず、一体性、横断性のある組織とする **融合**

同じ施設で行われる多様な事業・サービスが、機能の枠を超えて自然に連携できるよう、担当業務外の内容にも基本的な理解をもって一次対応などができる、一体的な運営体制を目指します。

また、情報システムの活用により業務の共有や効率化を図るとともに、状況の変化に応じて組織構成や役割を柔軟に調整できる体制とし、組織自体が進化し続けることを目指します。

② 専門性と多様性を両立し、継続的な育成を行うことで、対応力を高める **融合 成長**

専門性の高い職能はしっかりと確保しつつ、職員それぞれの役割や能力を柔軟に組み合わせて活用することで、横断的に融合したサービスを実現します。そのために、職員の一人ひとりが経験と学びを重ね、変化するニーズや技術に対応し続けられるよう、継続的な人材育成の仕組みを備えます。

③ 働く人が成長を実感でき、持続的に力を発揮できる環境づくり **成長**

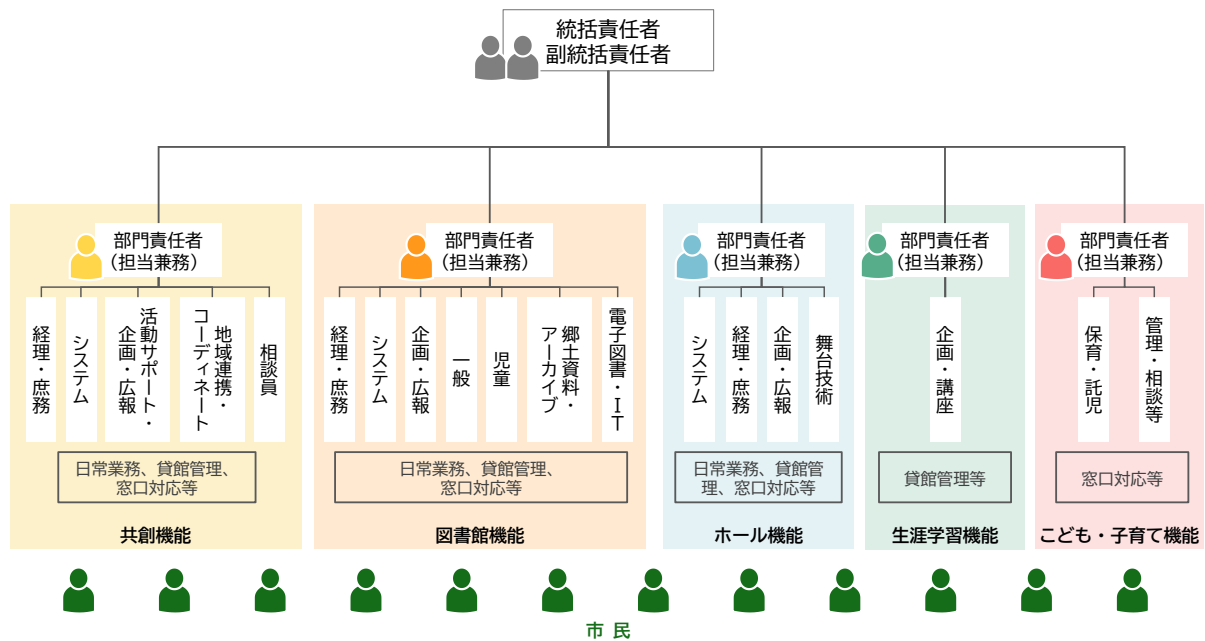
優れた人材が安心して力を発揮できるよう、柔軟な人員配置や働きやすさに配慮した労働環境を整えます。働く人自身がここでの仕事に誇りとやりがいを持ち、継続的に働き、成長できることは、施設の持続的な魅力とサービス向上につながります。

さまざまな機能を有した従来の施設であれば、機能ごとに担当を分けた組織体制（次ページ図 A）が一般的です。しかし、本施設では、機能を横断し、連携しながら進めていく「融合」が求められます。各分野の担当者が密接に連携し、情報を共有しながら、施設全体を一つのチームとして動かしていくような体制が必要です。

そのため、分野を越えて横断的に施設を見渡し、業務を調整できる図 B のような体制を想定しています。専門性が必要な業務にはしっかりと対応し、職員の能力や多様性を活かして柔軟に人員を配置できるような仕組みとすることで、「融合」と「成長」の両方を支える運営を目指します。

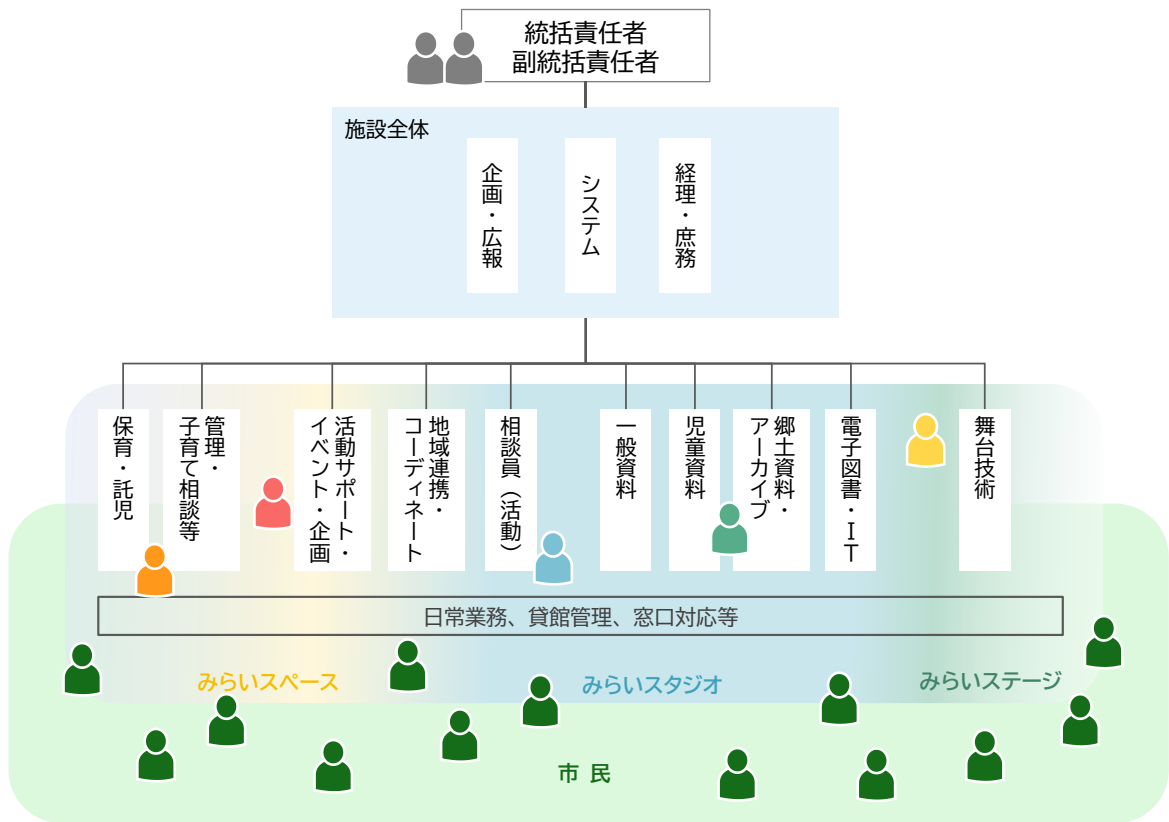
なお、図 B は基本計画段階における例示です。今後、より効率的・融合的な運営体制を検討していきます。

図 A (一般的な運営組織体制)



図：A (一般的な運営組織体制)

図 B (融合された運営組織体制)



図：B (融合された運営組織体制)

図 B において想定される、必要な役割と主な業務については以下の通りです。

表：図 B における必要な役割と主な業務

該当機能	役割	主な業務
全体	統括責任者	全体の運営管理、機能同士の連携・調整、関係組織や機関との調整、来客対応
全体	副統括責任者	機能同士の連携・調整、関係組織や機関との調整、労務、予算・支出管理等
全体	経理・庶務担当	会計処理、予算・支出管理、貸館管理に関する経理業務、事務手続き、その他バックヤード業務
全体	企画・広報担当	【共創機能】 施設全体の機能を活かしたイベント企画 【図書館機能】 図書館実施のプログラム(作家講演会、読書関連イベント等)企画、外部連携イベント、他機能との連携企画、利用促進等の情報発信内容検討、新サービスの導入検討等 【ホール機能】 月 2 本程度の事業の実施、事務室にいる際は貸館対応のフォロー 【広報】 広報関連の外部調整、施設の活動発信(SNS・Web・チラシ・動画制作など)、イベントの告知、参加者募集、施設のブランディング、メディア対応
全体	システム担当	施設全体のシステム管理、メンテナンス等
子育て	保育・託児	託児対応 ※施設利用者託児として、土日等の託児も対応
子育て	管理・子育て相談等	こども・子育てに関する相談窓口及び専門機関への橋渡し、講座・プログラムの実施、各種子育てサポート事業の実施
共創	地域連携コーディネーター	地域企業・学校・市民団体との連携・新たな活動創出、協働プロジェクト推進、人と人・情報・活動のマッチング支援、地域情報の収集、コミュニティ形成等
共創	相談員	市民からの相談窓口、団体・個人の活動支援、助成金・補助金の案内、地域情報の収集、活動の発信内容の検討等
共創・生涯学習	活動サポート・イベント・企画担当	市民活動のサポート、施設内機器(音楽スタジオ、デジタルファブリケーション等)の取り扱い対応、WS 等の企画立案、講座の企画・講師調整、プログラム検討等
図書館	一般資料担当	選書業務、企画展示、テーマ配架の棚づくり(テーマ検討・選書)、一般向けプログラム企画補助、プログラム実施、レファレンス対応、図書館分室・学校連携等、新刊受入、日常業務等
図書館	児童資料担当	選書業務、企画展示、テーマ配架の棚づくり(テーマ検討・選書)、おはなし会実施、ブックスタート事業、ボランティア連携、子育て支援機能との連携企画検討、レファレンス対応、新刊受入、日常業務等

該当機能	役割	主な業務
図書館	郷土資料・アーカイブ担当	郷土資料収集・選書、企画展示、テーマ配架の棚づくり(テーマ検討・選書)、地域情報の収集、情報発信の内容検討、アーカイブ事業の実施、博物館との連携調整、日常業務等
図書館	電子図書館・IT 関連担当	電子図書館選書、企画構成検討、図書館システム等対応、日常業務等
ホール	舞台技術	舞台芸術利用時の大ホール、多目的ホールの技術対応
共創・ホール・図書館	日常業務(共創機能・ホール機能・図書館機能)	【共創機能、ホール機能、図書館機能】 貸館管理、決済処理、問い合わせ対応、総合カウンター対応、プログラム企画補助、イベント実施対応 【ホール機能】 ホールの問合せ、貸館打合せ、当日対応などに対応 【図書館機能】 各機能連携、図書館窓口対応、配架、予約本対応、書架整理等

想定来館者数

みらいキャンパスの想定来館者数は年間 40 万人とします。

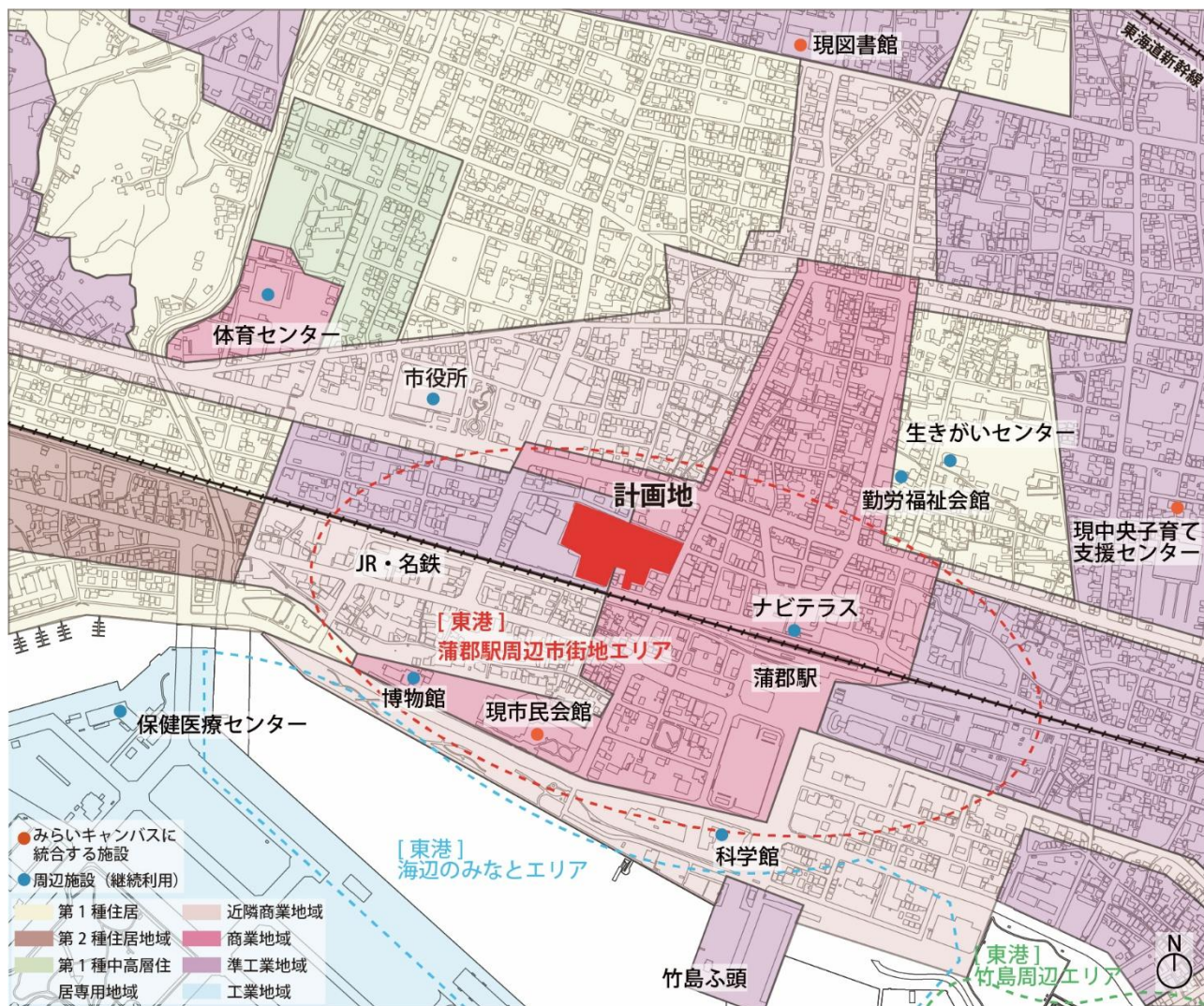
想定来館者数の設定にあたっては、近年の複合施設の来館者データ(図書館を複合施設として整備した事例)を参考に算出しています。近年の事例では、既存の図書館が新たな複合施設(図書館機能を含む)となった場合、来館者数は以前と比較して約2倍となっています。

現在の蒲郡市立図書館における直近3か年の平均来館者数は約 20 万人であることから、本施設における年間想定来館者数は、約2倍の 40 万人と設定します。

第7章 敷地計画

1. 敷地周辺環境

計画地のあるエリアを広域で捉え、計画地の周辺を取り巻く状況をまとめます。



広域での位置づけ、エリアの特徴

- ・ 本市の中心市街地エリアに位置し、暮らしや観光の拠点になっています。
- ・ 建設予定地は蒲郡駅から徒歩約4分の駅前エリアに位置しています。
- ・ JR 東海道本線・名鉄西尾・蒲郡線より北側に位置し、駅前の商業地域と準工業地域にまたがって立地しています。

■ 周辺施設との連携

本計画では市内に分散していた図書館、市民会館、中央子育て支援センター、科学館の生涯学習事務機能、博物館のギャラリーをみらいキャンパスとして新たに整備することになりますが、周辺には科学館や博物館、水族館、体育センター等、学びや活動、体験の施設が多数あります。

■ 関連計画等

計画敷地は『蒲郡市東港地区まちづくりビジョン』の「蒲郡駅周辺市街地エリア」に含まれています。

蒲郡の玄関口として回遊性の高いまちづくりによる駅北側エリアの活性化が目指されており、みなとエリアや竹島エリアとの回遊性を生む拠点としてのあり方を検討します。

2. 敷地概要

計画地の現状と整備にあたっての留意事項を下記にまとめます。



図：敷地概要

敷地概要

所在地	蒲郡市宝町の一部
事業地面積	約 14,600 ㎡
都市計画等	東三河都市計画区域 市街化区域 用途地域：商業地域（事業用地の東側）及び準工業地域（同西側） 容積率：商業地域部分 400% 準工業地域部分 200% 建ぺい率：商業地域部分 80% 準工業地域部分 60% 防火地域：準防火地域、一部防火地域 その他：都市機能誘導区域、居住誘導区域
道路幅員	北側（市道宝町 19 号線）：11m に拡幅 南側（市道宝町 22 号線、23 号線）：最小幅員4.4m 東側（（都）坂本線）：12m
アクセス	蒲郡駅北口から徒歩約4分

事業用地の留意事項

北側道路の東側は現在幅員約4mの一方通行、西側は幅員6mの相互通行ですが、事業用地に面する部分を11mに拡幅し、安全な歩行者動線と車両動線を確保します。

事業用地の中央にある道は廃し、事業用地に取り込む予定です。

整備にあたっての関係法令

名称	概要	内容
都市計画法	開発行為の許可について	市街化区域内において、面積が1,000㎡以上の開発行為（建築物の建築又は特定工作物の建設の用に供する目的で行う土地の区画形質の変更）を行う場合、愛知県知事の許可を得る必要があります。
建築基準法・建築基準法施行令・愛知県建築基準条例・蒲郡市中高層建築物指導要綱	日影による建築物の高さ制限について	周辺の日照環境を保護するため、建築物の高さが10m以上の場合、用途地域により日影時間を一定時間以下にする必要があります。
	建物敷地と道路の関係性について	客席数400人以上を想定する施設は、建物敷地の7分の1以上が11m以上の道路と接する必要があります。計画敷地の北側にある市道を11mに拡幅する予定です。
	住環境の保全について	準工業地域において10m、商業地域においては15m以上の建築物を建築する場合、敷地周辺の住民の良好な住環境を保つ必要があります。
景観法・美しい愛知づくり条例・蒲郡市景観条例	まちの景観の保全や創出について	高さ10m以上または、建築面積500㎡以上の建築物の場合、市長に通知が必要となります。建築物の配置や屋根、外壁の色彩など周辺環境やまちなみとの調和を形成する必要があります。
バリアフリー法・駐車場法・人にやさしい街づくりの推進に関する条例	誰もが使いやすい施設の実現について	本施設は不特定多数の人が利用することが見込まれるため、特殊建築物として扱われます。建物構造や設備、内装等に関して、障壁のない生活環境の整備をする必要があります。整備基準への適合を確認するために愛知県知事に届出が必要となります。
	交通や移動の円滑化や安全の確保について	都市計画区域内において設置する路外駐車場（道路以外に設置される一般公共向け駐車場）のうち、500㎡以上で料金を徴収する場合、市長に届出が必要となります。
土壌汚染対策法・県民の生活環境の保全等に関する条例	土地の形質の変更に ついて	土地の形質変更面積が3,000㎡以上の場合、愛知県知事に届出が必要となります。

3. 動線計画

計画地周辺の道路状況、歩行者、車両の動線についてまとめます。

周辺道路状況

敷地の1ブロック北側には東西に(都)衣浦蒲郡線が走っています。この地域での主要な街道であり、現在も交通量の多い幹線道路です。

敷地東を南北に走る(都)坂本線は、交通量が比較的多くなっています。

駅から徒歩で訪れる利用者は、東側からが主なアクセスになると想定しています。

動線計画の方針

歩行者動線	歩行者は蒲郡駅方面から高架沿いの歩道を利用し敷地東側へアクセスする動線を想定する
車両動線	拡幅を予定している敷地北側から敷地に入出入りする動線を想定する 周辺道路の混雑緩和に配慮し、敷地南側から進入も検討する

※搬入用車両は、敷地への進入は南側からの経路を基本とします。11t 相当の大型車の場合は利用者が往来する時間帯を避け、敷地北側からの進入を検討します。

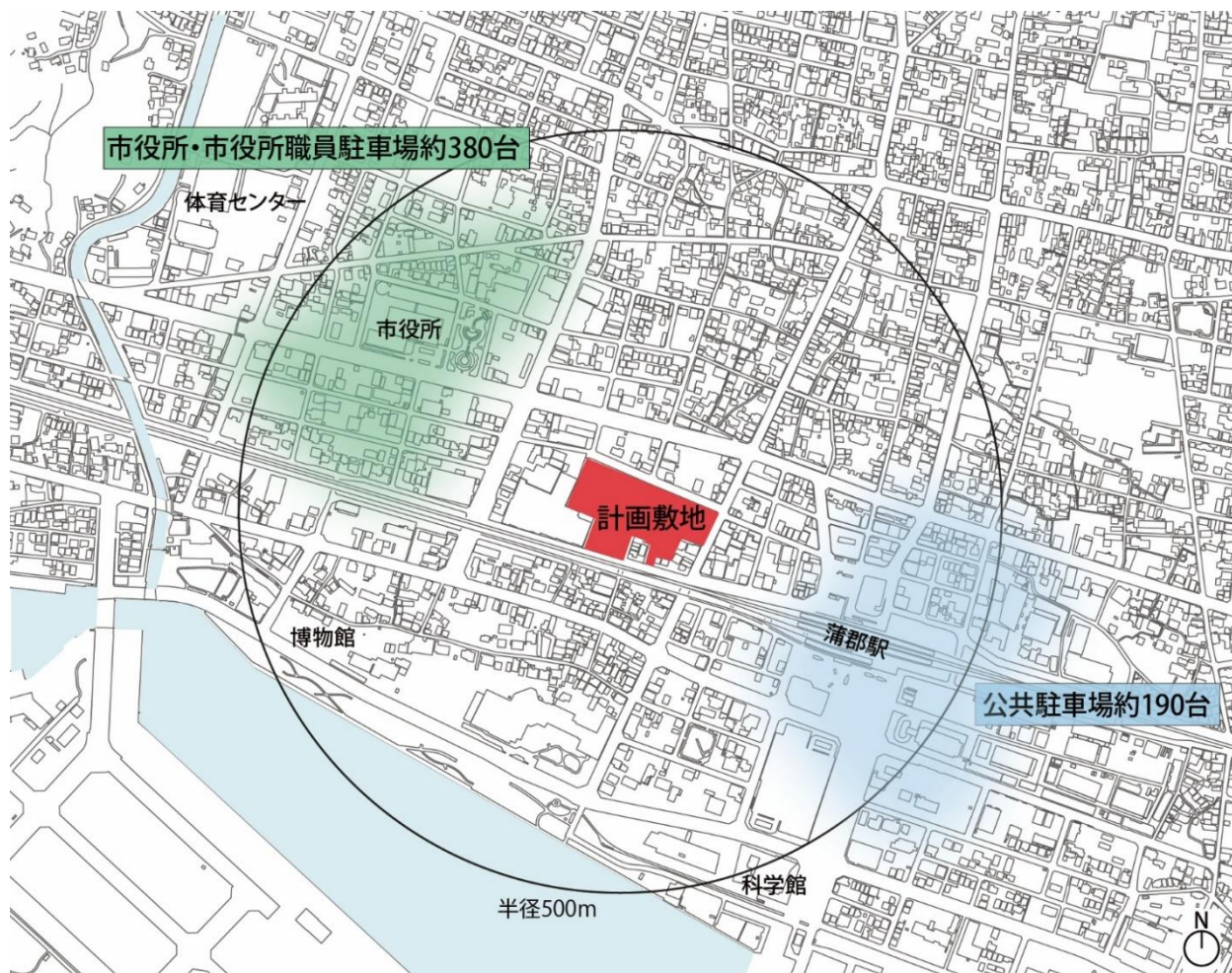
4. 駐車場・駐輪場計画

駐車場・駐輪場は、日常利用において不足とならない程度の台数を敷地内に確保します。敷地内に設ける駐車場については、蒲郡駅周辺エリアという立地に鑑み、ゲート式駐車場などの有料駐車場を検討していきます。なお、集客力のあるイベント時は、主に休日に開催されることから、周辺の駐車場・駐輪場を活用して対応することを想定します。

また、開館後の混雑状況や周辺駐車場・駐輪場の動向によっては、今後においても想定を見直していく可能性があります。

■ 駐車場

周辺の駐車場整備状況



図：周辺の駐車場整備状況

駐車場の台数

日常利用における敷地内の駐車台数は、年間想定来館者数に基づき 100～150 台程度と想定し、施設や外構の適切な配置と併せて、可能な限りの台数を確保します。

イベント時には、市役所・市役所職員駐車場約 380 台や公共駐車場約 190 台等の周辺駐車場を活用します。

算出方法

現在の図書館の曜日別・時間帯別来館者数をみると、曜日のなかでは土曜日が多く、1週間の来館者の約 23%を占めています。土曜日のうち夕方に来館者が多く、最多の時間帯では約 17%です。この傾向が新施設でも引き継がれると仮定します。

想定来館者数 40 万人から1時間あたりの最大来館者数は次のように計算され、300 人となります。

1週間での来館者数 $400,000 \text{ 人} \div 52 \text{ 週} = 7,692 \text{ 人}$

土曜日1日での来館者数 $7,692 \text{ 人} \times 23\% = 1,769 \text{ 人}$

土曜日ピーク時間帯(1時間)来館者数 $1,769 \text{ 人} \times 17\% = 300 \text{ 人}$

交通行動に関するパーソントリップ調査や全国道路・街路交通情勢調査によると、本市における移動に占める自家用車利用の割合は 70%、1台当たりの乗車人数平均は 1.61 人です。これを参照すると、300 人の駐車需要は次のように計算され、130 台となります。

自動車に乗って来館する人 $300 \text{ 人} \times 70\% = 210 \text{ 人}$

1台の自動車に乗っている人数を考慮した自動車台数 $210 \div 1.61 \text{ 人/台} = 130 \text{ 台}$

これらの結果から、敷地内の駐車台数は 100～150 台とします。

駐輪場

駐輪場の台数

日常利用における敷地内の駐輪台数は、みらいキャンパスの想定来館者数及び現在の図書館の駐輪台数に基づき 20～60 台程度と想定し、施設や外構の適切な配置と併せて、この範囲内の台数を目安に確保していきます。

イベント時は、JR 高架下の駐輪場の立地を踏まえ、既設駐輪場の活用を検討します。

算出方法

駐車場台数では時間当たりの最大来館者数について、みらいキャンパスの想定来館者数及び現在の図書館利用状況等から 300 人と算定し、自動車分担率等を用いて駐車場需要を割り出しました。駐輪台数においても同様に検討を行うと、本市における自転車分担率は6%で

あることから次のように計算され 18 台となります。

来館者ピーク時に自転車に乗って来館する人 $300 \text{ 人} \times 6\% = 18 \text{ 人(台)}$

ただし、現在の図書館の利用状況を見ると、来館者ピークと駐輪台数ピークの時間帯は異なっているため、別の算出も行う必要があります。

現在の図書館の駐輪台数をみると、日曜日昼頃の 30 台が最も多くなっています。現在の図書館の来館者数から、みらいキャンパスの目標来館者数は2倍となるため、みらいキャンパスの駐輪台数ピーク時の駐輪台数は、次のように計算され 60 台となります。

駐輪台数ピーク時の駐輪台数 $30 \text{ 台} \times 200\% = 60 \text{ 台}$

これらの結果から、敷地内の駐輪台数は 20～60 台程度とします。

5. 敷地利用の留意事項

敷地状況、周辺環境、動線計画、駐車場計画を踏まえ、敷地利用においては以下に配慮するものとします。

■ まちの拠点施設としてのあり方

① 立地を活かした計画

蒲郡駅前を中心市街地の立地を活かし、市民や観光客など誰もが気軽に訪れやすく、親しみやすい施設のあり方を考えます。

- ・多目的な利用者が気軽に訪れやすい施設配置
- ・まちなみに調和した配置計画・外構計画
- ・まちのシンボルとして多くの市民に親しまれる佇まい

② 市民の活動が広がる計画

市民活動の支援や市民サービスをより豊かに提供するために、施設外との連携のしやすさを踏まえた施設計画を考えます。

- ・周辺他施設やまちなかでの活動と連携しやすい機能配置、来館者動線
- ・効率のよい管理運営を実現する機能配置、管理動線
- ・市民活動を支える機能配置・管理動線

■ まちづくりにつながる施設計画

① 周辺環境への配慮・調和

敷地の近隣から周辺一帯の環境や交通計画等、敷地外への影響のあり方を考慮した敷地利用を検討します。

- ・近隣住宅などへの日影や風環境、圧迫感や安全性に配慮した施設配置、外構計画
- ・周辺交通への影響や歩車分離の徹底など、歩行者、自転車、自動車それぞれの利便性や安全安心に配慮した交通計画

② まちづくりとの連携

将来的なまちづくりを見据えた計画とすることで、敷地内だけでなく周辺一帯の活性化につながる施設のあり方を考えます。

- ・駅前エリア全体のウォーカブルなまちづくりに資する配置計画、外構計画

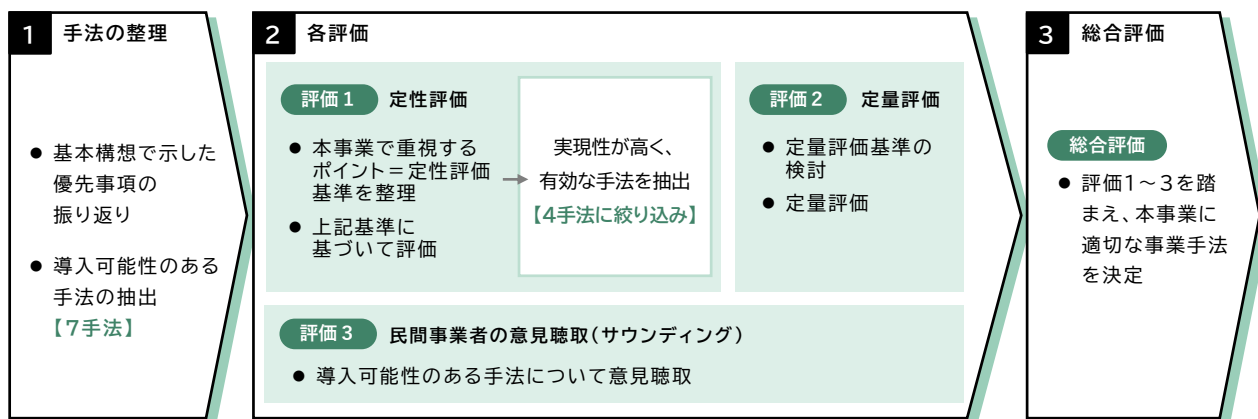
第8章 事業化計画

1. 事業化計画にあたって

事業手法検討にあたってのプロセス

事業手法の決定にあたっては、下記の図のようにプロセスを踏んでいます。

共創や融合・成長を実現することに加え、社会情勢が大きく変動している昨今の状況を踏まえ、サウンディングによる民間事業者からの事業の実現性や市場性に関する意見を重視しています。



図：事業手法検討のプロセス

事業手法の整理

基本構想では、事業手法の検討にあたって以下の4つを優先事項として検討してきました。本計画においては、この4つの事項をもとにさらなる精査を行います。

事業手法検討にあたっての優先事項（基本構想より）

項目	求める効果
1 一体的かつ専門的な運営を実現すること	・ 複数の機能が一体的に、かつ専門性をもった組織により、運営されること ・ 交流・学びの機会を幅広い視野で、かつ多面的に提供し、市民等の積極的な発信を促せる運営組織であること
2 市の施策を実現し、市内施設や教育機関等と連携すること	・ 交流・学び・発信を促進するため、市内他施設・機関等との連携や、市施策の実現に主体的に取り組めること
3 市民共創を推進すること	・ 市民意見を反映する機会や市民参加の仕組みを講じること ・ 市民がそれぞれのやりたいことを叶え、学び合い、教え合う環境が持続的に実現すること
4 工期の確実性を高めること	・ 早期開館が望まれる施設として、工期の短縮を図ること ・ 入札不調・不落を避けるなど、円滑に整備を進めること

導入可能性のある手法（基本構想からの見直し）

各事業手法に対する一般論からの捉え方をもとに、みらいキャンパスの整備、運営に際して導入可能性のある手法を抽出し、次の7つの選択肢を検討することにした。

基本構想では DO 方式を含まず、PFI・BTM 方式を選択肢として7つの手法を記していましたが、近年の導入傾向等を踏まえて見直しをしています。

導入可能性のある手法

官民連携手法	概要	実施主体				
		資金調達	設計	施工	維持管理	運営
従来手法	施設の設計、施工等をその都度仕様発注する手法	市	設計者 (委託)	施工者 (委託)	直営または 指定管理者	
D B (Design-Build)	施設の設計、 <u>施工</u> を一括して性能発注する手法	市	民間事業者 (JV)		直営または 指定管理者	
D O (Design-Operate)	<u>設計、維持管理、運営</u> を一括発注したのちに、別の事業手法により <u>施工</u> を発注する手法	市	民間事業者	施工者 (委託)	民間事業者	
E C I (Early Contractor Involvement)	施設の設計段階における <u>技術協力</u> を受けたのち、実施設計完了後に <u>施工</u> を発注する手法	市	設計者	民間事業者		直営または 指定管理者
D B M (Design-Build-Maintenance)	施設の設計、 <u>施工、維持管理</u> を一括して性能発注する手法	市	民間事業者 (SPC、JV 等)			
D B O (Design-Build-Operate)	施設の設計、 <u>施工、維持管理、運営</u> を一括して性能発注する手法	市	民間事業者 (SPC、JV 等)			
P F I ・ B T O (Build-Transfer-Operate)	施設の設計、 <u>施工、維持管理、運営</u> を一括して性能発注する手法であり、 <u>民間が資金調達</u> を行う	民間事業者 (SPC)				

2. 事業手法の検討

評価1：定性評価

■ 定性評価を行うための基準

基本構想で示した4つの優先事項を精査及び具体化し、定性評価基準として6つの評価項目を設定しました。

定性評価基準

評価項目	ポイント
1 市民共創	整備と運営が一体となって、基本理念“共創”と施設コンセプト“がまごおり「みらいキャンパス」”をかたちとすることができるか
2 事業マネジメント	公共施設マネジメント実施計画に基づき、令和13年度の供用開始に向けた整備や維持管理・運営を確実かつ安定的に遂行できるか
3 デザイン性	地域のアイデンティティとなる景観の形成や、自由でクリエイティブな空間づくりに寄与できるか
4 民間ノウハウの活用	民間の技術力、経営能力を活かした効率的で一体的な質の高いサービスが提供できるか
5 財政負担の軽減	市の財政負担を軽減するとともに、有効な財源等の活用により平準化することができるか
6 地域経済の活性化	地元企業が参画し、地域における投資効果の最大化を図ることができるか

6つの評価項目に基づく定性評価

この7つの事業手法について、前掲の6つの評価項目をもとに定性評価を行うと、次のとおりとなります。

定性評価

評価項目	従来方式	DB方式	DO方式	ECI方式	DBM方式	DBO方式	PFI・BTO方式
1 市民共創	△ 各業務が分離発注されるため、整備と運営が一体となって市民共創を実現することが難しい	△ 設計・建設と維持管理・運営が分離発注されるため、整備と運営が一体となって市民共創を実現することが難しい	○ 設計と運営が一括発注されるため、整備と運営が一体となって市民共創を実現することが期待される	△ 設計・建設と維持管理・運営が分離発注されるため、整備と運営が一体となって市民共創を実現することが難しい	△ 設計・建設・維持管理と運営が分離発注されるため、整備と運営が一体となって市民共創を実現することが難しい	◎ 設計・建設・維持管理・運営が一括発注されるため、整備と運営が一体となって市民共創を実現することができる	◎ 設計・建設・維持管理・運営が一括発注されるため、整備と運営が一体となって市民共創を実現することができる
2 事業マネジメント	△ 工期短縮が難しく資材高騰等の影響を受け入札不調が懸念されるほか、各業務の調整など市のリスクが大きい	○ 工期短縮とコストコントロールによって着実な整備が期待されるが、運営との調整について市のリスクが大きい	○ 手続きに時間を要し資材高騰等の影響を受け入札不調が懸念されるが、運営に関して官民でリスク分担ができる	○ 工期短縮とコストコントロールによって着実な整備が期待されるが、運営との調整について市のリスクが大きい	○ 工期短縮とコストコントロールによって着実な整備が期待されるが、運営との調整について市のリスクが大きい	◎ 工期短縮とコストコントロールによって着実な整備が期待されるとともに、事業全体について官民でリスク分担ができる	◎ 工期短縮とコストコントロールによって着実な整備が期待されるとともに、事業全体について官民でリスク分担ができる
3 デザイン性	◎ 設計者の意向を反映し、デザインを尊重した設計ができる	○ コスト重視という指摘があるが、公募条件や評価基準により意匠性を高めることができる	◎ 設計者の意向を反映し、デザインを尊重した設計ができる	△ コストを重視する傾向にあり、デザインを尊重することが難しい(近年そのような事例が多い)	○ コスト重視という指摘があるが、公募条件や評価基準により意匠性を高めることができる	○ コスト重視という指摘があるが、公募条件や評価基準により意匠性を高めることができる	○ コスト重視という指摘があるが、公募条件や評価基準により意匠性を高めることができる
4 民間ノウハウの活用	△ 仕様発注による分離注のため民間ノウハウの活用が限定的となる	○ 性能発注と設計・建設の一括発注によって民間ノウハウを活用できる	○ 設計と運営の連携によって民間ノウハウを活用できる	○ 施工者の技術協力によって民間ノウハウを活用できる	○ 性能発注と設計・建設・維持管理の一括発注によって民間ノウハウを活用できる	◎ 性能発注と設計・建設・維持管理・運営の一括発注によって民間ノウハウを活用できる	◎ 性能発注と設計・建設・維持管理・運営の一括発注によって民間ノウハウを活用できる
5 財政負担の軽減	△ 仕様発注による分割発注のため事業費の縮減が難しい	○ 性能発注と設計・建設の一括発注によって整備費の縮減効果が期待される	△ 建設が分割発注されるため整備費の縮減が難しい	○ 施工者の技術協力によって整備費の縮減効果が期待される	○ 性能発注と設計・建設・維持管理の一括発注により整備費と維持管理費の縮減効果が期待される	◎ 性能発注と設計・建設・維持管理・運営の一括発注によって事業費全体の縮減効果が期待される	◎ 性能発注と設計・建設・資金調達・維持管理・運営の一括発注によって事業費全体の縮減効果と平準化が期待される
6 地域経済の活性化	◎ 従来どおりの発注のため、地元企業が参画しやすい	○ 主体的な参画は難しいが、資格要件や評価基準により地元企業の参画を促すことができる	◎ 建設は従来どおりの発注のため、地元企業が建設に参画しやすい	○ 主体的な参画は難しいが、資格要件や評価基準により地元企業の参画を促すことができる	○ 主体的な参画は難しいが、資格要件や評価基準により地元企業の参画を促すことができる	○ 主体的な参画は難しいが、資格要件や評価基準により地元企業の参画を促すことができる	△ 高度な技術提案や資金調達を含めた経営能力が問われるため、主体的な参画は難しい場合がある
全体評価	△	△	○	△	△	◎	◎

■ 定性評価に基づく有効な手法の絞り込み

定性評価の結果、本施設の整備・運営の手法としては、整備と運営が一体となった市民共創の実現、官民の適正なリスク分担、民間ノウハウの活用によるサービスの向上といった観点から、「DO 方式」「DBO 方式」「PFI・BTO 方式」の導入の適性が高いと判断されます。また、「DBO 方式」「PFI・BTO 方式」は、設計・建設・維持管理・運営が一括して発注されることから、工期短縮や事業全体の事業費の縮減効果が期待されます。

これらを踏まえ、次の手法が、基本理念『共創』と施設コンセプト“がまごおり「みらいキャンパス」”を実現するために、より有効であると判断します。

DO 方式	DBO 方式	PFI・BTO 方式
-------	--------	------------

評価2：定量評価では、定性評価で有効だと判断した事業手法とPSCの基準となる「従来方式」の4つの事業手法に対して定量評価を行います。

評価2：定量評価

定量評価基準(PSC)の設定

前項の事業手法に対し、VFM※を計算することで、各手法において同じサービスに対する費用削減効果がどのくらい働くかを確認する定量評価を行いました。

その指標としてPSC(Public Sector Comparator 従来手法で取り組んだ場合の整備費と維持管理・運営費)を設定しました。

※VFM

Value For Money(バリュー・フォー・マネー)の略。

従来方式と同じサービスに対してどの程度の費用削減効果が得られるかをパーセンテージで表す。

従来方式以外の手法を採用する場合、その手法固有の経費支出が発生するケースがあるため、その経費も含めて全体事業費としてのコストメリットを比較する。

支払利息
維持管理・運営費
設計・建設費

PSC
(公共自ら実施)

利益・配当等
支払利息
設計・建設・維持管理・運営費

PFI-LCC
(PFIにより実施)

VFM

定量評価

実現性の高い事業手法について、定量評価基準(PSC)をもとに算出した、定量評価(VFM)の結果は、以下のとおりです。定量評価では、いずれの事業手法においても従来手法と比べ、費用削減効果が得られる手法であると言えます。

評価2：定量評価(VFM)

評価項目	従来方式	DO方式	DBO方式	PFI・BTO方式
定量評価(VFM)	-	0.03%	3.53%	1.84%

評価3：民間事業者の意見聴取（サウンディング）

現在の市場性を把握し、手法の検討に活かすためにマーケットサウンディング調査を実施し、多くの事業者からご意見、ご提案をいただきました。

調査概要

目的	がまごおり「みらいキャンパス」基本計画策定に向け、本プロジェクトの整備・運営計画、事業手法、事業期間等についてのアイデアの募集、市場性の把握を行う	
調査期間	令和7(2025)年5月7日(水)～22日(木)	
調査項目	1.事業参画意向 3.事業手法 5.業務実績	2.基本方針、施設計画、建設予定地 4.事業計画 6.情報の提供・社名開示
参加者数	25社（設計5社、建設9社、維持管理3社、運営8社）	

調査結果概要

調査項目（抜粋）	結果概要・意見抜粋
参画意向	参画に関心がある：10社 条件次第で参画に関心がある：13社 参画への関心は低い：0社 現時点では判断できない：2社
最も適正性が高いと考える事業手法（意見の多い順）	DBO方式：8社 PFI・BTO方式：7社 DO方式：7社 従来方式：2社
事業スケジュール	・ 令和13年度までに供用開始は可能であり、設計・建設の一括発注によって工期の短縮も可能である。 ・ 早期（設計・建設段階）から運営者が地域に入り、整備と運営が一体となって市民との共創に着手することが重要である。
事業期間 （維持管理・運営期間）	・ 共創の継続的な推進、成長する施設の実現や伴走、地域や施設に根ざした効果的な人材育成のために、事業期間は長期（15年程度）が望ましい。 ・ 事業期間が20年以上になると、大規模修繕に関する役割・リスク分担が生じ、大規模修繕を事業範囲に含む場合はリスクが増大するため、大規模修繕が発生しない10～15年程度が望ましい。
建設動向	・ 建設物価、設備機器価格、労務費が高騰するとともに、慢性的な人手不足によって繁忙が常態化している。 ・ 設計完了後間もなく建設業務が発注される従来方式などは、人員確保などの事前の準備期間も十分ではなく、受注対応が難しい。 ・ 事業手法に関わらず契約以降の物価改定の考え方について、実勢を踏まえた柔軟な対応を求めたい。

事業手法に関する意見のまとめ

意見のまとめ

手法	評価	意見まとめ
従来方式	△	・ 昨今の社会情勢を踏まえると、建設工事の発注から施工までの期間が短い従来発注での受注は難しいとの意見が多くあった。 ・ 設計等に施工者の意向反映が難しく、コストコントロールに課題が残る。 ・ 設計等に運営者の意向反映が難しく、開館後に課題が多い傾向がある。 ・ 運営期間が短く、運営者による長期の計画的な共創活動の実施が難しい。
DB 方式	△	・ 設計・建設の一括発注によりコスト縮減効果が期待できる。 ・ 設計等に運営者の意向反映が難しく、開館後に課題が多い傾向がある。 ・ 運営期間が短く、運営者による長期の計画的な共創活動の実施が難しい。
DO 方式	○	・ 昨今の社会情勢を踏まえると、建設工事の発注から施工までの期間が短い従来発注での受注は難しいとの意見が多くあった。 ・ 設計等に運営者の意向反映ができ、効率的な運営・維持管理やサービスの向上が期待できるため、特に運営者の参画意欲は高い。 ・ 設計等に施工者の意向反映が難しく、コストコントロールに課題が残る。 ・ 運営者により開館前から開館後までつなげる長期の計画的な共創活動が可能。
ECI 方式	△	・ 昨今の社会情勢を踏まえると、建設工事の発注から施工までの期間が短い従来発注での受注は難しいとの意見が多くあった。 ・ 設計等に運営者の意向反映が難しく、開館後に課題が多い傾向がある。 ・ 設計等に施工者の技術協力を受けることができるが、結果的にコストが増大するケースもありコストコントロールに課題が残る。 ・ 運営期間が短く、運営者による長期の計画的な共創活動の実施が難しい。
DBM 方式	△	・ 設計・建設の一括発注によりコスト縮減効果が期待できる。 ・ 設計等に運営者の意向反映が難しく、開館後に課題が多い傾向がある。 ・ 開館後に維持管理者・運営者・発注者の意向が入り乱れるため、調整に課題が残る。 ・ 運営期間が短く、運営者による長期の計画的な共創活動の実施が難しい。
DBO 方式	◎	・ みらいキャンパスの考え方を実現するためには、事業全体を一括発注することによる民間ノウハウの活用・創意工夫が必要という意見が多く、また運営者及び施工者の参画意向も高いことから、競争性の確保が期待できる。 ・ 事業全体を一括発注するため、設計等に施工者・運営者の意向反映ができ、コスト縮減効果や効率的な運営・維持管理やサービスの向上が期待できる。 ・ 運営者により開館前から開館後までつなげる長期の計画的な共創活動が可能。
PFI・BTO 方式	○	・ みらいキャンパスの考え方を実現するためには、事業全体を一括発注することによる民間ノウハウの活用・創意工夫が必要という意見が多いが、運営者の参画意向が低く、競争性の確保が懸念される。 ・ 事業全体を一括発注するため、設計等に施工者・運営者の意向反映ができ、コスト縮減効果や効率的な運営・維持管理やサービスの向上が期待できる。 ・ 運営者により開館前から開館後までつなげる長期の計画的な共創活動が可能。 ・ 民間事業者が調達した資金に対して金利リスクが発生することで、結果的に市の財政負担額が大きくなる場合がある。

総合評価

評価1：定性評価では、本施設にとって有効な事業手法の絞り込みを行い、基本理念『共創』と施設コンセプト“がまごおり「みらいキャンパス」”の実現するためには、「DO 方式」「DBO 方式」「PFI・BTO 方式」がより有効であると判断しました。

評価2：定量評価（VFM）では、いずれの事業手法においても従来手法と比べ、費用削減効果が得られる手法であるということが分かりました。

評価3：民間事業者の意見聴取（サウンディング）では、民間ノウハウの活用可能性や民間事業者の参入可能性などを鑑み、「DBO 方式」を最も評価しています。

これらを踏まえた総合評価の結果から、「DBO方式」を導入し、本事業を進めていきます。

総合評価

評価項目		従来方式	DO方式	DBO方式	PFI・BTO方式
定性評価	1 市民共創	△	○	◎	◎
	2 事業マネジメント	△	○	◎	◎
	3 デザイン性	◎	◎	○	○
	4 民間ノウハウの活用	△	○	◎	◎
	5 財政負担の軽減	△	△	◎	◎
	6 地域経済の活性化	◎	◎	○	△
定量評価（VFM）		-	0.03%	3.53%	1.84%
サウンディング結果		△	○	◎	○
総合評価		-	○	◎	○

3. 概算事業費及び事業スケジュール

概算事業費

現時点において、「DBO 方式」を導入した場合の整備費は約 187 億円を想定しています。整備費は今後の物価変動により変更となる可能性があります。維持管理・運営費は管理運営計画で精査し公表していきます。いずれも発注に向けて精査していきます。

また、貸館運営における利用料金収入の拡大や民間収益事業の導入など民間事業者の経営ノウハウを積極的に活用することで、市の財政負担の一層の縮減に向けた検討を進めます。

整備費

項目	金額
調査・設計・工事監理費	10.1 億円
建設工事費	177.3 億円
整備費	187.4 億円

※基本計画策定時点での各種基準及び建設物価に基づく試算額。

※建設工事費には、基本的な土地整備費、外構費を含む。

※別途費用については、土地取得費及びインフラ整備費（道路拡張工事を含む）として約 20 億円を概算費用として見込んでいる。システム関連費、備品費、図書費、開館準備等の費用については、今後において順次検討を行う。

想定される財源の検討

本事業の財源は、国庫補助金の適切な活用を図るとともに、財政負担の平準化として市債の発行やモーターボート競走事業収益基金を活用する予定です。

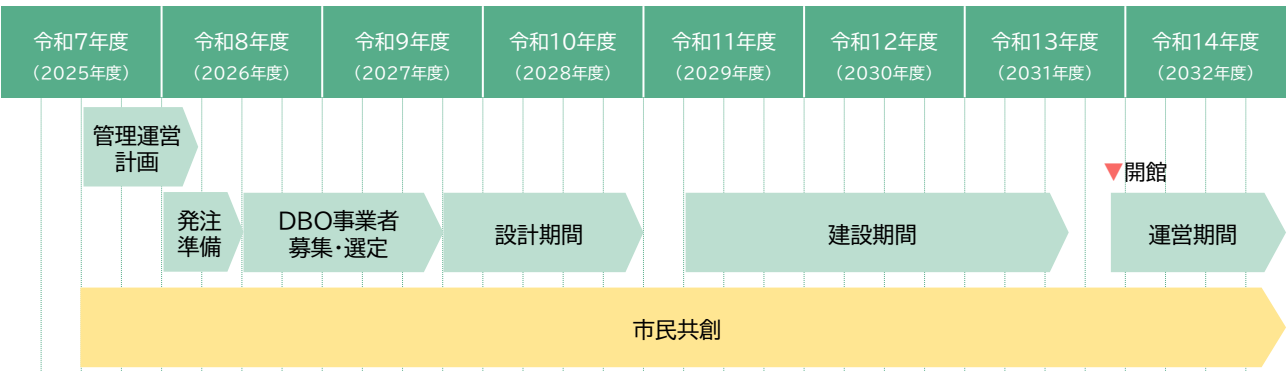
その他の財源確保として、がまごおり「みらいキャンバス」プロジェクトのファンづくりと「市民共創」の実現に向けた取り組みのひとつとして、寄附やクラウドファンディングの活用等、様々な方法を検討します。

事業スケジュール

DBO 方式を導入し、次のようなスケジュールで事業を進めていきます。

基本計画の策定後、管理運営計画の検討、策定と並行して事業者公募の準備をし、令和8年夏以降に民間事業者の募集開始を予定しています。事業者を選定したのちは設計、施工と整備を進め、令和13年度末(令和14年春)ごろの開館を予定しています。

スケジュール



おわりに ー市民共創のこれからー

みらいキャンバスは、市民の「やりたい」を共に実現していきます

がまごおり「みらいキャンバス」は、市民を主人公に、市役所や団体・企業等の本市に関わる様々な人々が加わり、一緒になって、蒲郡の未来を、鮮やかな絵の具で描くための、文字通り巨大なキャンバスです。

そのため、このプロジェクトでは、従来のように「施設が出来上がってから何かが始まる」のではなく、「市民の活動が施設づくりにつながる」という、市民の「やりたい」を起点とした考え方やプロセスを大切にしています。

本計画は、基本構想を具体化したもので、施設としての方針、そこで想定される事業・サービスや、必要な機能、それらを実現するために浮かび上がってきた施設像、そして、その施設をどのように運営していくかの方向性を定めています。

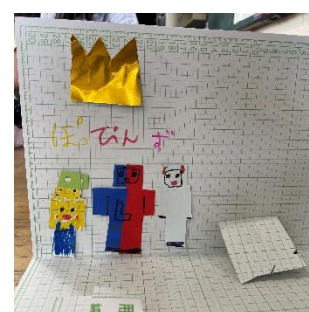


共に考え、そして描いていく

これらをまとめるにあたり最も重要だったのも、市民参加型ワークショップなどで寄せられた市民の「やりたい」という意見やアイデアでした。本計画は、これからキャンバスに色を重ねていく主体となる市民一人ひとりの想いを集め、検討を重ねた結果、出来上がっています。



また、市内の小学校の児童たちが本施設に関心を持ち、授業の中で「みらいの図書館」についてこどもたち自ら考えはじめました。こどもたちが積極的に施設像について考え、その豊かな想像力から、様々な発想やアイデアが生まれました。



これから開館までの歩みと市民共創

今後、開館までには、本計画をもとにした管理運営計画策定、基本設計、実施設計、工事、開館準備など、多くのステップがあります。

そのすべての過程で、市民共創の流れを止めることなく、開館まで(もちろん開館してからも)、「やりたい」を継続的に反映させていく仕組みが必要です。

本市では、ワークショップでの意見・アイデアをもとに、施設が完成するまで、市民が気軽に立ち寄り、実際に活動できる拠点として、市民共創プラットフォームという「場」を立ち上げることを目指しています。そして、市民共創による施設づくりをさらに活性化させていきます。

さいごに

がまごおり「みらいキャンバス」は、これまでのワークショップにご参加いただいた方々はもちろんのこと、これから出会う方々と共につくり上げていくものです。

開館までの歩みを通じて市民共創の輪を広げ、一人ひとりの「やりたい」が重なり合って、大きな未来の絵が描かれていくことを目指します。

これからも多くの市民の皆様の参加をお待ちしています。
最後までお読みいただきありがとうございました。



情報が欲しい方は
こちらから！



第4回ワークショップ終了後の集合写真

參考資料

1 関連計画の概要

計画		関連部分の概要
導入する機能に関する計画	蒲郡市生涯学習推進計画 【令和4(2022)年3月改訂】	学習機会、文化芸術に触れる機会を提供し、その成果をまちづくりに幅広く生かせる仕組みづくりを進め、「蒲郡らしい」生涯学習社会の実現を目指す
	社会教育4施設のあり方 【令和3(2021)年11月】	利用しやすい知の拠点としての図書館、新たな交流と賑わいの創出拠点としての市民会館など、社会教育4施設の目指す姿を提示
	蒲郡市公民館のあり方について 【令和3(2021)年3月】	中央公民館は学習内容と公民館職員の資質の向上、どの地区でも等しく学べる講座運営体制の整備に努め、地区公民館は住民交流に注力するという役割分担を目指す
	蒲郡市こども総合計画 【令和7(2025)年3月】	みらいキャンパスでこども・子育て機能の強化を図る、こども・若者の居場所を提供する
本市全体のまちづくり・市民生活等に関する計画	蒲郡市イネープリングシティ基本計画 【令和7(2025)年3月】	まち歩き価値を高める「イネープリングファクター」をまちなかに配置し、健康づくり、交流促進につなげて、ハッピーでヘルシーな蒲郡を目指す
	蒲郡市地域強靱化計画 【令和3(2021)年6月】	とくに大きな被害が想定される地震、津波災害、高潮災害を中心に脆弱性を評価・分析し、耐震化、耐災害性強化、対応体制整備などの施策を進める
	サーキュラーシティ蒲郡アクションプラン 【令和5(2023)年3月】	「教育」「消費」「健康」「食」「観光」「交通」「ものづくり」の7つの重点分野でサーキュラーエコノミーを推進し、持続可能な社会、ウェルビーイングの実現を目指す
	蒲郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略 【令和7(2025)年3月】	「夢と希望に満ちた、明るく元気なまち」として、結婚・出産・子育て環境づくり、しごとづくり、人の流れづくり、魅力的な地域づくり、DXの推進を定める
	蒲郡市まちづくりDX基本方針 【令和6(2025)年6月】	「あらゆる分野で人々がつながり、常識にとらわれない新たな価値を見出す」として、デジタル技術やデータの活用を手段として、地域課題の解決を目指す
	蒲郡市多文化共生推進プラン 【令和4(2022)年3月】	「お互いを認め合い共に生きるまちがまごおり」とし、お互いの国籍や文化を尊重し合い、外国人市民を含めた市民ひとりひとりが活躍できる魅力あるまちを目指す
	第2次蒲郡市地球温暖化対策実行計画 (区域施策編) 【令和6(2024)年9月】	本計画が目指す脱炭素社会の姿として「エネルギーを賢く利用し、安全・安心に暮らせる脱炭素のまち蒲郡」を目指す
	健康がまごおり 21 第3次計画 【令和7(2025)年3月】	「一人ひとりがつながり、健やかで幸せにすごせるまち がまごおり」を基本理念とし、社会とつながり、自然と健康になれるまちづくり、次世代を見据えた健康づくり等に取り組む

計画	関連部分の概要
蒲郡市観光まちづくりビジョン 【令和3(2021)年9月改訂】	「住んでよいまち、訪ねてよいまち、帰りたくなるまち」を基本理念として、蒲郡に訪れる旅行者も「一日生活者」としての“住民”と捉え、在住者や在勤・在学・蒲郡に関わる事業者と同様に、あらゆる人の心に蒲郡を存在させていくことを目指す
蒲郡市産業振興ビジョン 【令和5(2024)年6月】	「新しい価値を生み出す人材がつながり着実に成長するまち」を目指して、「柔軟性の強化」「挑戦への支援」「連携の推進」の3つの戦略を設定する
蒲郡市東港地区まちづくりビジョン 【令和3(2021)年8月】	「公民連携のまちづくり」「官民対話による事業推進」の視点をもってまちづくりに取り組み、歩いて過ごしたくなる居心地の良い「海辺のまち」の形成を目指す
蒲郡市都市計画マスタープラン 【令和5(2023)年3月】	蒲郡駅周辺を本市の中心拠点と位置づけ、基幹的な都市機能の集積を図る
蒲郡市立地適正化計画 【令和6(2024)年6月改訂】	蒲郡駅周辺を本市の中心拠点として位置づけ、都市機能の誘導を図る
蒲郡市緑の基本計画 【令和7(2025)年3月】	「青い海と豊かな緑で笑顔になるまち がまごおり」を将来像とし、公共施設ではモデルとなる緑づくり、市を象徴する緑づくりを推進する
蒲郡市景観計画 【平成31(2019)年4月】	「豊かな自然環境と調和したい景観づくり」「地域に息づく景観を継承する景観づくり」など4つの方針を掲げ、住む人・訪れる人にとって癒され、誇れる景観を目指す

蒲郡市全体のまちづくり・市民生活等に関する計画

2 蒲郡市立図書館統計

本館資料点数及び開架率

種別	開架		閉架		計	
一般	55,172	21.1%	104,314	39.8%	159,486	60.9%
児童	23,858	9.1%	40,094	15.3%	63,952	24.4%
雑誌	2,852	1.1%	4,907	1.9%	7,759	3.0%
郷土	11,837	4.5%	3,768	1.4%	15,605	6.0%
AV	3,859	1.5%	3,121	1.2%	6,980	2.7%
別置	4,036	1.5%	3,981	1.5%	8,017	3.1%
物品	10	0.0%	0	0.0%	10	0.0%
計	101,624	38.8%	160,185	61.2%	261,809	100.0%

出典：令和 6 年 9 月 30 日実施蔵書点検結果に基づく数値

市全体の資料数及び内訳

項目	資料数(点)
蒲郡市立図書館(本館)	261,809
本館以外	20,903
市全体	282,712

出典：令和 6 年 9 月 30 日実施蔵書点検結果に基づく数値

資料の更新率・新鮮度(郷土資料を除く)

年度	受入 冊数	うち 購入	うち 寄贈	除籍	その他 変更・ 復籍等	蔵書冊数 (年度末時 点)	更新率	新鮮度
令和元年度	13,492	12,552	940	13,705	194	264,096	10.3%	5.1%
令和2年度	13,617	12,805	812	14,809	3	262,907	10.8%	5.2%
令和3年度	14,892	13,920	972	9,844	193	268,148	9.2%	5.6%
令和4年度	12,770	11,493	1,277	12,307	75	268,686	9.3%	4.8%
令和5年度	12,596	11,516	1,080	11,037	31	270,276	8.7%	4.7%

出典：『日本の図書館』該当年度

直近 3 か年来館者数

年度	来館者数(人)
令和3(2021)年度	165,010
令和4(2022)年度	207,403
令和5(2023)年度	227,943
平均	200,118.7

出典：『日本の図書館』該当年度

曜日別来館者

曜日	来館者数 ※土日は平均値	曜日別割合
火曜日	689	15.8%
水曜日	558	12.8%
木曜日	547	12.6%
金曜日	544	12.5%
土曜日	1,026	23.5%
日曜日	993	22.8%
合計	4,357	100.0%

時間帯別来館者

集計時間	来館者数	時間帯別割合
10:00	82	9.1%
11:00	107	11.9%
12:00	107	11.9%
13:00	74	8.2%
14:00	92	10.2%
15:00	77	8.5%
16:00	147	16.3%
17:00	93	10.3%
18:00	81	9.0%
19:00	41	4.6%
	901	100.0%

・月曜は休館

・令和 6 年 11 月 30 日(土)～12 月 8 日(日)の月曜を除く 8 日間で来館者調査を実施

3 近年開館した新施設の開館後來館者数増加率

No.	都道府県	自治体	人口 (2023.1.1 時点)	館名	新施設竣工 工年月	新施設開 館年月	専有 延床面積	蔵書数 (2024.3.31 時点)	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	開館後平均 開館前平均	増加数 増加率
1	徳島県	美馬市	27千人	美馬市立図書館	2018/4	2018/5	2,365㎡	123千冊	32,587	32,159	24,459	127,866	118,043	67,073	74,561	92,329	103,860	104,744	75,009
									63,145	66,933	—	125,631	282,496	205,753	231,038	色付部分の平均	29,735	3.523	
2	宮城県	名取市	80千人	名取市図書館	2018/10	2018/12	2,995㎡	250千冊	63,145	66,933	—	125,631	282,496	205,753	231,038	261,052	285,387	276,312	211,273
									色付部分の平均	65,039						色付部分の平均	65,039	4.248	
3	福島県	須賀川市	75千人	須賀川市中央図書館	2018/7	2019/1	2,453㎡	269千冊	105,283	104,588	—	26,268	604,101	367,703	485,485	549,343	635,239	596,228	491,292
									色付部分の平均	104,936						色付部分の平均	104,936	5.682	
4	石川県	珠洲市	13千人	珠洲市民図書館	2018/12	2019/3	2,257㎡	121千冊	13,577	12,671	11,930	15,218	68,793	47,376	48,659	45,170	40,156	51,373	38,647
									色付部分の平均	12,726						色付部分の平均	12,726	4.037	
5	愛媛県	宇和島市	70千人	宇和島市立中央図書館	2019/4	2019/4	2,072㎡	229千冊	—	—	—	—	55,791	45,302	166,202	—	—	—	—
									色付部分の平均	—						色付部分の平均	—	—	
6	愛媛県	伊予市	36千人	伊予市立図書館	2019/8	2019/8	5,581㎡	107千冊	58,866	67,390	63,902	21,772	62,509	81,283	87,189	137,240	151,475	144,358	93,336
									色付部分の平均	51,021						色付部分の平均	51,021	2.829	
7	沖縄県	宮古島市	56千人	宮古島市立図書館	2019/8	2019/8	6,219㎡	198千冊	36,037	40,551	45,958	35,789	128,874	86,726	77,244	146,745	175,633	161,189	120,423
									色付部分の平均	40,766						色付部分の平均	40,766	3.954	
8	長崎県	大村市	98千人	大村市立図書館	2019/1	2019/10	11,657㎡	219千冊	195,882	—	—	—	264,211	325,757	374,294	365,798	—	365,798	—
									色付部分の平均	—						色付部分の平均	—	—	
9	滋賀県	長浜市	115千人	長浜市立長浜図書館	2019/12	2019/12	2,116㎡	306千冊	137,638	134,965	128,420	124,717	161,855	249,733	262,430	287,653	302,975	295,314	165,947
									色付部分の平均	129,367						色付部分の平均	129,367	2.283	
10	熊本県	天草市	75千人	天草市立中央図書館	2019/12	2020/4	2,122㎡	173千冊	70,681	68,365	70,550	68,144	51,249	97,608	96,018	111,312	120,433	115,873	52,558
									色付部分の平均	63,314						色付部分の平均	63,314	1.830	
11	福岡県	行橋市	73千人	行橋市図書館	2020/4	2020/4	5,143㎡	261千冊	85,090	92,374	117,680	110,646	—	190,432	179,854	228,066	241,894	234,980	120,817
									色付部分の平均	114,163						色付部分の平均	114,163	2.058	
12	和歌山県	和歌山市	360千人	和歌山市民図書館	2019/10	2020/6	7,597㎡	527千冊	207,933	196,668	179,160	171,399	92,201	663,496	754,385	787,767	795,294	791,531	643,944
									色付部分の平均	147,587						色付部分の平均	147,587	5.363	
13	東京都	昭島市	114千人	昭島市民図書館	2020/2	2020/6	4,111㎡	432千冊	198,845	157,739	186,956	193,350	144,653	299,741	320,828	390,770	416,121	403,446	228,459
									色付部分の平均	174,986						色付部分の平均	174,986	2.306	
14	大阪府	守口市	142千人	守口市立図書館	2020/4	2020/6	8,807㎡	216千冊	124,984	125,674	125,809	115,925	—	171,174	256,696	307,980	319,808	313,894	193,027
									色付部分の平均	120,867						色付部分の平均	120,867	2.597	
15	栃木県	那須塩原市	117千人	那須塩原市図書館	2020/1	2020/9	4,644㎡	164千冊	156,208	161,343	157,789	159,051	140,840	147,948	296,773	344,495	384,907	364,701	212,141
									色付部分の平均	152,560						色付部分の平均	152,560	2.391	
16	大分県	豊後大野市	33千人	豊後大野市図書館	2021/1	2021/1	2,289㎡	137千冊	41,815	44,261	43,127	43,127	36,246	17,119	78,946	69,374	64,433	66,904	26,070
									色付部分の平均	40,833						色付部分の平均	40,833	1.638	
17	東京都	大島町	7千人	大島町図書館	2020/9	2021/2	2,083㎡	33千冊	5,852	5,888	4,800	4,739	4,447	—	4,719	4,714	5,572	5,143	481
									色付部分の平均	4,662						色付部分の平均	4,662	1.103	
18	東京都	板橋区	568千人	板橋区立中央図書館	2020/12	2021/3	5,513㎡	1,651千冊	419,474	397,397	387,483	383,623	344,380	156,410	773,859	829,475	852,362	840,919	469,090
									色付部分の平均	371,829						色付部分の平均	371,829	2.262	
19	北海道	室蘭市	78千人	室蘭市図書館	2021/12	2021/12	2,764㎡	252千冊	—	—	—	—	—	—	—	114,010	108,638	111,324	—
									色付部分の平均	—						色付部分の平均	—	—	
20	香川県	善通寺市	31千人	善通寺市立図書館	2022/1	2022/1	2,317㎡	114千冊	127,781	127,900	136,764	140,941	135,717	89,220	86,489	159,551	172,986	166,269	28,461
									色付部分の平均	137,807						色付部分の平均	137,807	1.207	
21	東京都	港区	262千人	港区立三田図書館	2022/4	2022/4	4,585㎡	327千冊	—	—	—	742,945	715,278	416,239	445,183	577,231	627,768	627,768	-101,344
									色付部分の平均	729,112						色付部分の平均	729,112	0.861	
22	山形県	酒田市	97千人	酒田市立中央図書館	2020/11	2022/5	3,476㎡	261千冊	337,802	322,947	308,792	257,222	243,793	164,741	147,733	482,930	496,573	496,573	226,637
									色付部分の平均	269,936						色付部分の平均	269,936	1.840	
23	新潟県	三条市	93千人	三条市立図書館	2022/7	2022/7	2,850㎡	303千冊	263,765	258,303	301,167	255,923	232,480	179,451	168,692	450,898	509,993	509,993	246,803
									色付部分の平均	263,190						色付部分の平均	263,190	1.938	
24	東京都	中央区	174千人	中央区立京橋図書館	2022/10	2022/12	7,068㎡	373千冊	361,563	362,233	350,204	341,617	326,050	206,443	226,015	324,858	684,804	684,804	345,514
									色付部分の平均	339,290						色付部分の平均	339,290	2.018	
25	三重県	亀山市	50千人	亀山市立図書館	2022/10	2023/1	5,118㎡	171千冊	104,474	103,897	101,783	102,247	97,685	61,500	65,050	90,583	276,338	276,338	175,766
									色付け部平均	100,572						色付け部平均	100,572	2.748	
26	千葉県	佐倉市	171千人	佐倉市立佐倉図書館	2022/9	2023/3	2,064㎡	210千冊	—	—	—	—	—	—	—	22,681	227,809	227,809	—
									色付部分の平均	—						色付部分の平均	—	—	
27	愛知県	江南市	99千人	江南市立図書館	2023/3	2023/4	3,485㎡	172千冊	95,770	93,792	92,408	90,834	82,106	53,974	65,624	56,069	444,339	444,339	368,003
									色付部分の平均	76,336						色付部分の平均	76,336	5.821	
平均増加率																		280.6%	
中央値																		230.6%	
最上位・最下位を除いた平均増加率																		275.5%	

・2018～2023 年度中に竣工・開館した専有延床面積 2,000 ㎡以上の中央館かつ複合施設について、来館者数を比較
・赤字は開館年度の来館者数。開館前年度までの 3 か年の平均、開館翌年度からの 3 か年の平均を算出。緊急事態宣言
が出ていた 2020、2021 年度を除外

出典：『日本の図書館』該当年度

4 ニュースレター

全4回分を掲載

GAMAGORI MIRAI CANVAS NEWSLETTER

Vol.01

がまごおり「みらいキャンパス」は図書館・ホール・生涯学習センターの機能を核とした、市民の居場所・活動拠点となる場を形成する複合施設建設プロジェクト。
ただいま検討を進めている基本計画の進行状況をお届けします！



第1回 市民ワークショップ

2024年12月22日(日)に、第1回市民ワークショップを開催しました。中学生から80代まで、「みらいキャンパス」に興味を持つさまざまな市民の方33名が参加しました。

冒頭、市から本プロジェクトの概要について説明を行いました。ワークショップのヒントとなる施設事例紹介の後、6グループに分かれてグループワークを行いました。

「みらいキャンパス」によって実現したい未来の過ごし方について、たくさんのアイデアが話し合われ、最後には各グループが話し合いの成果を発表し、全体で共有しました。年齢も職業もさまざまな参加者なので、それぞれやりたいこともさまざま。似たアイデアを1つの活動グループにまとめてみたり、活動グループ同士のつながりを見つけて書き込んでみると、みんなが思い描くみらいキャンパスでの1日が見えてきました。



テーマ

この施設に1日いるとしたら、
何をして、どう過ごす？

みらいキャンパスの3つの役割

みらい
スペース

憩い・つながる場
自由な居場所であるとともに、
蒲郡の多様なヒト・モノ・コトが出会い、つながる

みらい
スタジオ

知の拠点
新たな知識・情報・経験に触れ
「知りたい」学び「やってみたい」活動を深め、高めていく

みらい
ステージ

発信・表現の舞台
学び、活動したことを発信や表現によって人に伝えて、
学びが循環し、一人ひとりがかがやく

ワークショップの目的

やりたいことを考える



活動の土台づくり・企画

ワークショップの意見



□ 市民の多様な活動の土台づくり

開館までの実証実験・活動

開館後の活動の継続



□ 基本計画への反映

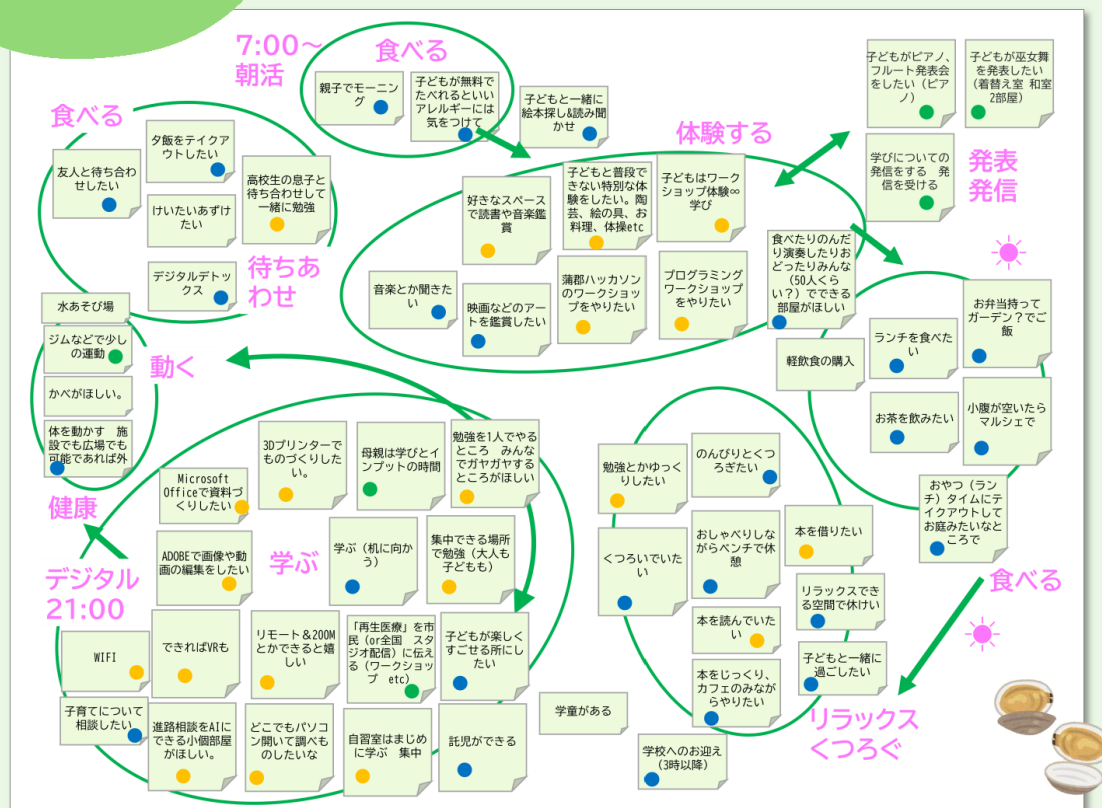
サービスの内容検討

各機能のゾーニング検討

次のページからは、各グループで話し合った内容を整理して掲載しています！

整理している内容は、付箋を模造紙に貼りながら作成した「ワークシート」、「発表内容(概要)」、運営企画チームによる後日分析を含めた「話し合いのポイント」、の3点です。

親子一緒だけでなく、親だけで過ごしたり、子どもが過ごしやすい場所づくり



各付箋には以下3つのカテゴリのシールを貼りました！

- ・ モーニングなど、朝の時間帯に過ごせると、市民の利用が多くなると思う
- ・ 学校が終わってからの15時～17時頃の時間帯で、こどもたちの受け皿となる場所になると良い
- ・ 子どもが動くことのできる大きな広場などがあると良い。そうすると自然とデジタルデトックスもできるのでは
など

- **みらいスペース** 憩い・つながる場
- **みらいスタジオ** 知の拠点
- **みらいステージ** 発信・表現の舞台

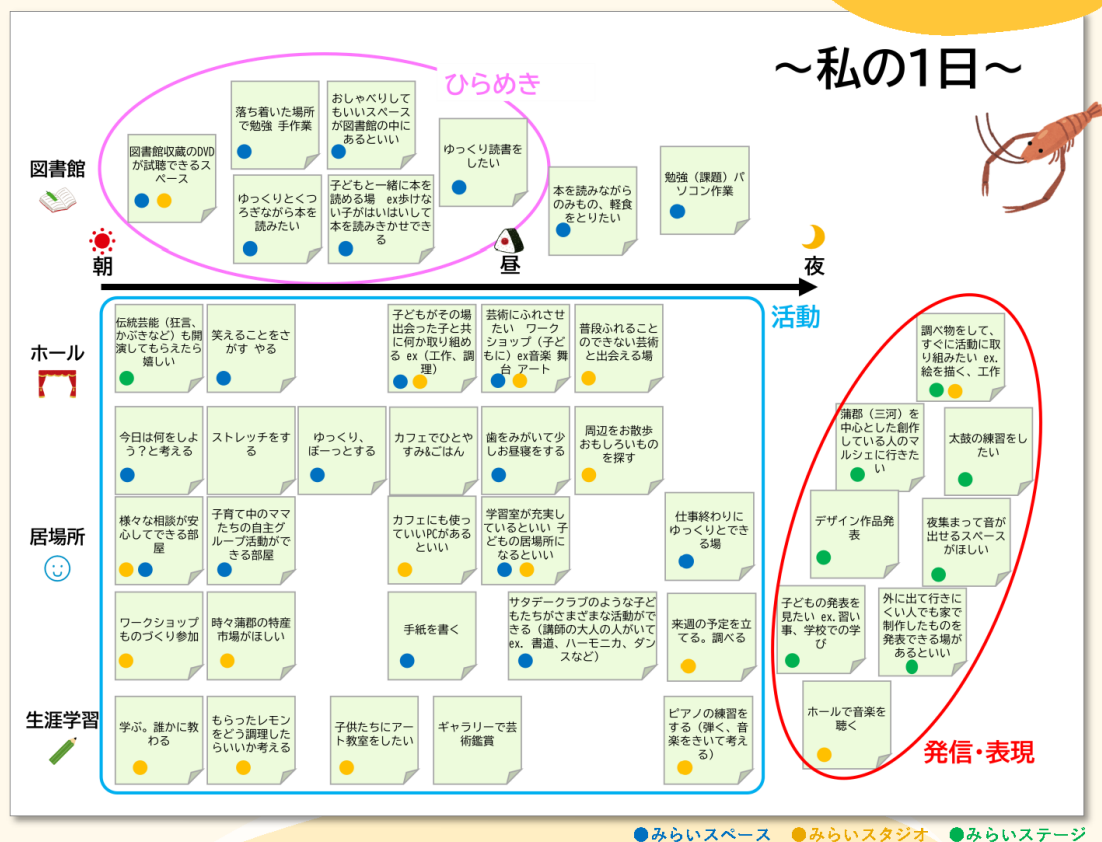


話し合いのポイント

- ・ 1日はモーニングからスタートするという、「この施設に1日いるとしたら、何をして、どう過ごす？」というお題に対して、それにバッチリの日時間軸での過ごし方を表現していただきました。
- ・ その後もランチ→おやつ→夕飯と、ちゃんと食事を挟みながら過ごしているところが、他のチームとはまた違ったくつろぎ、リラックスした1日の様子を表しています。
- ・ その1日の中で多様な世代が、日中は身体を伴う活動や、発表・発信から始まり、日が暮れるにつれ、学習や、デジタルを活用した創作・体験など、活動内容も変わっていく様子が非常に多種多様な過ごし方のできる「みらいキャンパス」の方向性を示唆しています。

図書館で過ごしていると、何かに出会って『ひらめき』が生まれる

あかざえび チーム



発表内容

- ・ 図書館は色々なものに出会える場所。その近くにホールや居場所があり、例えばアートに出会ったら絵をかいてみたくなるなど
- ・ ひらめいて、すぐに活動ができる場、それを紹介していきたくするような、ひらめき→活動→発表というつながりがある
- ・ 子どもたちが様々な活動ができ、そういった活動をしていく中で、大人も子どもも色んな世代が発信・表現できていくと思う

など



話し合いのポイント

- ・ 朝から夜への時間軸を、図書館、ホール、居場所、生涯学習という「みらいキャンパス」を構成する施設要素に分類していることが特徴的です。
- ・ 主に図書館ではひらめきを得ながら→様々な活動→発表へと流れていくストーリーや拡がりのある構成になっていますが、その活動と活動の間には、ゆっくりと一人ひとりが「自分で過ごしたい過ごし方」をするような内容も多くみられます。
- ・ 必ず活動をしなくても、例えば、「もらったレモンをどう調理したらよいか考える」というような、まるで日常生活の些細な一部を切り取ったような在り方も「みらいキャンパス」の要素として必要であることを示唆しています。

きんめだい チーム

本から始まるゆったりした過ごし方から、ワークショップ等の参加まで



発表内容

- ・ みらいキャンパスに来る方法は車が良い
- ・ 本を探すところから始まり、静かに勉強、子ども同士でワイワイ 楽しく過ごすなど。そうして過ごすうちに疲れたらゆっくりできる場所があると良い
- ・ 来館した際にたまたまイベントをやっていて、気軽に参加できたり、体を動かしたり、音楽が聴ける場所だと良い
- ・ 世代を限定したりしないイベントで、高齢者も学び続けていける機会が欲しい

など

話し合いのポイント

- ・ 「みらいキャンパス」へどのようにアクセスし、本をどのように探し、目的の本を見つけ、それを「どう本を讀むか」ということをスタート地点とした、図書館機能を軸に置いたことが特徴的なワークシートになりました。
- ・ それに伴い、「自動貸出機絶対必要」や「本をいっぱい読みたい」など図書館機能への希望も出てきている一方、子ども同士でわいわいしたりするような空間があったり、マシン、デジタル機器による創作、音楽活動など、様々な活動への広がりも見取れます。
- ・ また、蒲郡の“せんい”もテーマとするなど、地域文化の収集や発信も「みらいキャンパス」の重要な要素であることを示唆していることが特徴です。



「一人で自分を耕す」活動と、「人と人がつながる」活動や集い

するめいか チーム



発表内容

- 個人を高めていく(耕す)、人と何かをするの2方向ある。良い舞台美術が鑑賞できたり、映画が見れるなどの楽しさと、子どもを預けて大人が自分の時間を過ごせるなどできると良い
- 人と人とのつながりは、マニアな集まりや若者とまちの未来について語れる場所があると良い
- こどもに関する意見では、本を読む、子ども食堂を中学生がやるなど子どもにとって学びの深い場。その他、カフェ、キッチンカー、マルシェなど、憩う場所 など

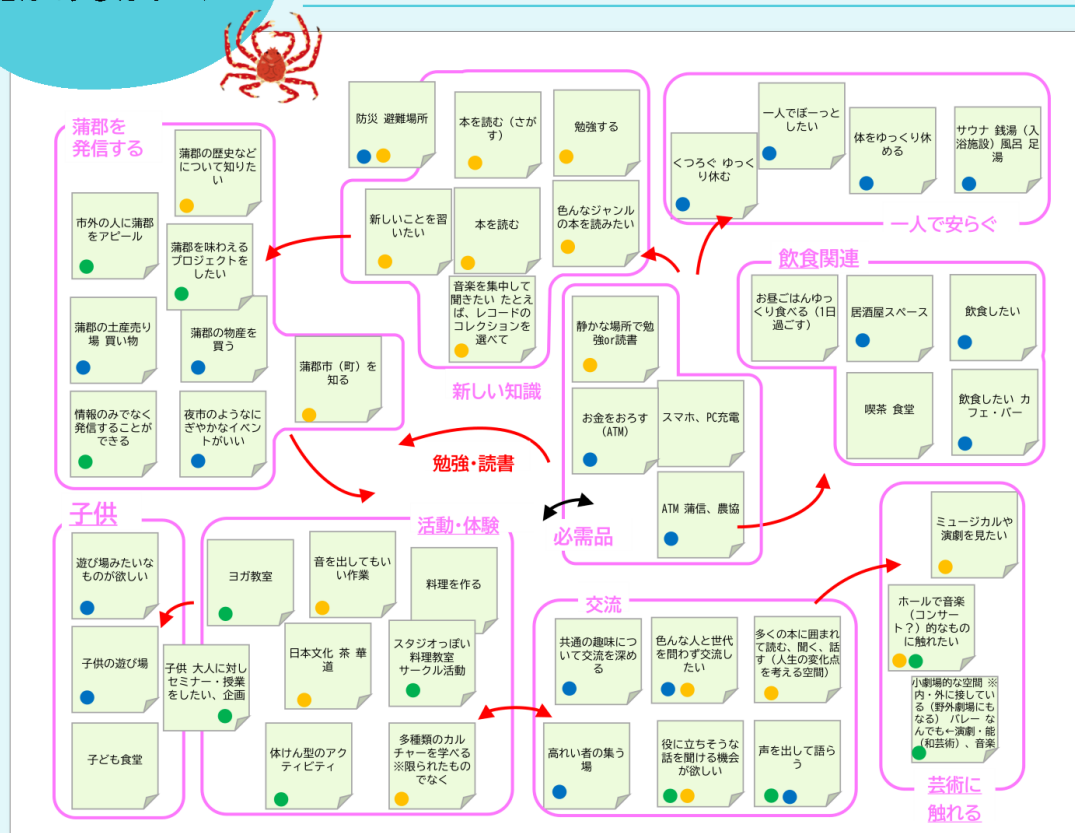
話し合いのポイント

- 人々が何かに触れたり、観たり、参加したりすることで成長していく様を「耕す」というテーマで括りつつ、人と人とのつながりや「仲間」さらに進んで「マニアの集い」、そして「日本語非母語話者」という様々なつながり方を提示した一方、「一人になる」という要素もある。現代社会における多様な人間の関係性による過ごし方を表していること、そして各活動に対してハード面をうまく整理していることが特徴的なワークシートです。
- 知識や文化的な側面はもちろん高いものの、ストレートに図書館やホールにとらわれない多種多様な活動が展開される様子も「みらいキャンパス」の在り方を表していると言えます。



たかあしがに チーム

人が集まる施設。そこからつながる蒲郡の情報発信、趣味の仲間との交流



発表内容

- ・ 必需品をきっかけに来館することで、勉強や読書、蒲郡の歴史を知ること、蒲郡の物産購入などにつながる
- ・ 飲食関連の意見も出ており、〇曜日〇曜日は夜市があるなど、夜遅くまで楽しめるイベントがあるという意見もあった
- ・ 活動や体験型アクティビティなど、活動・体験することが世代を超えて交流したり、共通の趣味の人と出会って芸術に触れたいなどにもつながる

など

話し合いのポイント

- ・ ATMやスマホ充電など、現代の生活に必要な必需機能を持たせることで、利便性を向上させるだけでなく、施設に必ず来なくなる要素を高めた内容と読み取れます。そしてその入口をきっかけにして、ここに来ることで、「新しい知識」や「発信」「活動・体験」「交流」「飲食」「芸術」「一人で安らぐ」など様々な要素に触れることが出来るという全体像が特徴的なワークシートになっています。
- ・ 飲食関連には「居酒屋」などもあり、本当に朝から夜まで1日中過ごせたら良いなという希望も見えて取れます。
- ・ 特に特徴的なのは「蒲郡を発信する」というテーマで、市民として蒲郡のことをもっと知りたいのと同時に、市外の人に対して蒲郡をアピールするような、「みらいキャンパス」がそんな施設であることが望まれていることが分かります。

めひかり チーム



発表内容

- ・ 個人での過ごし方として、とにかくぼーっとしたい、コーヒーを飲みながら本を読みたい、仕事をしたい
- ・ 飲食ができたり、お土産で蒲郡みかんが置いてあるなどが良い
- ・ 自分で調理した料理を食べたり、中学生を中心とした子ども食堂がある
- ・ 蒲郡についてもっと知ることができ、広がるものが良い

など

話し合いのポイント

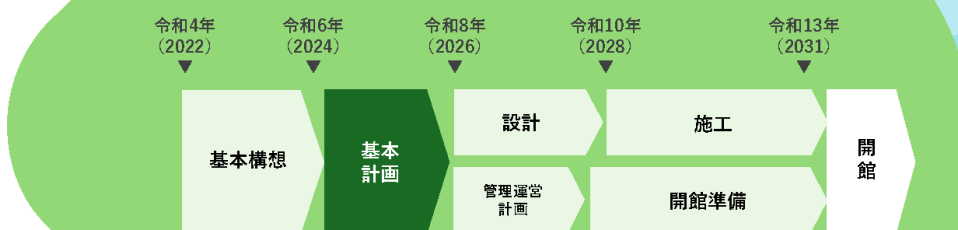
- ・ いかに子どもが過ごしやすく出来るか(不登校の子どもが気楽に来れる、子ども食堂機能等)や、防災のことにも触れるなど、社会的な課題に切り込む内容となりました。
- ・ 「I LOVE 蒲郡」というキーワードが示すように蒲郡愛にあふれたワークシートで、蒲郡市内の「名所」や「食」を発信し、もっと知ってもらいたいような意見が多く見られます。
- ・ また、世代や立場を超えた交流から生まれる新たな知識のアップデートについてのアイデアが多数出ている一方、個人で好きに過ごしたり(「ボーっとする」2件)と、「みらいキャンパス」を訪れる人々の過ごし方は多様であることを示唆した内容となっています。



｜ 結果の総括

- まず、図書館、ホール、生涯学習といった「みらいキャンパス」で予定されている機能を軸としながらも、どのチームもそこからはみ出したり、大きく拡張するようなアイデアが生まれていることが大変特徴的です。
- はみ出したり、拡張したりする活動を可能にするには、各機能が混ざり合う＝融合し、かつその融合した際に出来る中間領域＝「なんにでもなれる場、どこにでもつながれる場」の在り方が大変重要であると考えられます。
- このような活動を支えるためには、さまざまなニーズに応えられる可変性のあるスペースを持つことが有効だと考えます。また、アナログから最新のデジタルまで、創作や情報発信のために、様々な設備が気軽に使えることも大切です。
- 人との交流(参加する、教える、教えられる)も大きなテーマである一方、一人で過ごしたいという意見も全チームに見られ、多様な過ごし方が実現できる施設であることが望まれています。
- 同時に、子どもの過ごし方についての意見も多く、みらいの蒲郡を支える子どもたちがいかに「みらいキャンパス」を使ってくれるかということもテーマであると考えられます。
- 最後に、蒲郡の文化を大事にし、発信していくという意見も随所に見られました。まさに、この施設がみんなの「みらい」を描く「キャンパス」です。これまでの蒲郡を大事にしながら、これからの蒲郡をつくっていきましょう！

｜ 開館までのスケジュールイメージ



令和13年度の開館に向けて、事業が進行中です。



〔発行〕蒲郡市教育委員会教育政策課
TEL : 0533-66-1219
e-mail : kyoiku@city.gamagori.lg.jp

GAMAGORI MIRAI CANVAS
NEWSLETTER

Vol.02

がまごおり「みらいキャンパス」は図書館・ホール・生涯学習センターの機能を核とした、市民の居場所・活動拠点となる場を形成する複合施設建設プロジェクト。

ただいま検討を進めている基本計画の進行状況をお届けします！



第2回 市民ワークショップ

2025 年 2 月 9 日(日) に、第2回市民ワークショップを開催しました。

10代から80代まで、「みらいキャンパス」に興味を持つさまざまな市民の方 29名が参加しました。

冒頭では、第1回ワークショップの振り返りを行い、前回どのような意見が出たか、今回から参加する人も含めて共有を行いました。

今回は、10年、50年後のまちの姿を想像しながら、この施設をきっかけに、まちと、どうつながるか、どのようなことが一緒にできるだろうかをテーマに、6グループに分かれて話し合いました。

テーマを考える上で、施設の中だけではなく、外とのつながり
を考えること、活動の中間地点としての施設の開館があるこ
と、10年、50年という長期的な視点を持って考えることを心
がけました。

その中で出てきたアイデアをもとに、チームごとにキャッチフレーズを考え、それぞれ個性豊かなキャッチフレーズが生まれました。



テーマ

この施設がまちとつながり、
10年、50年後の蒲郡市が
どうなっているか、
キャッチフレーズを考える

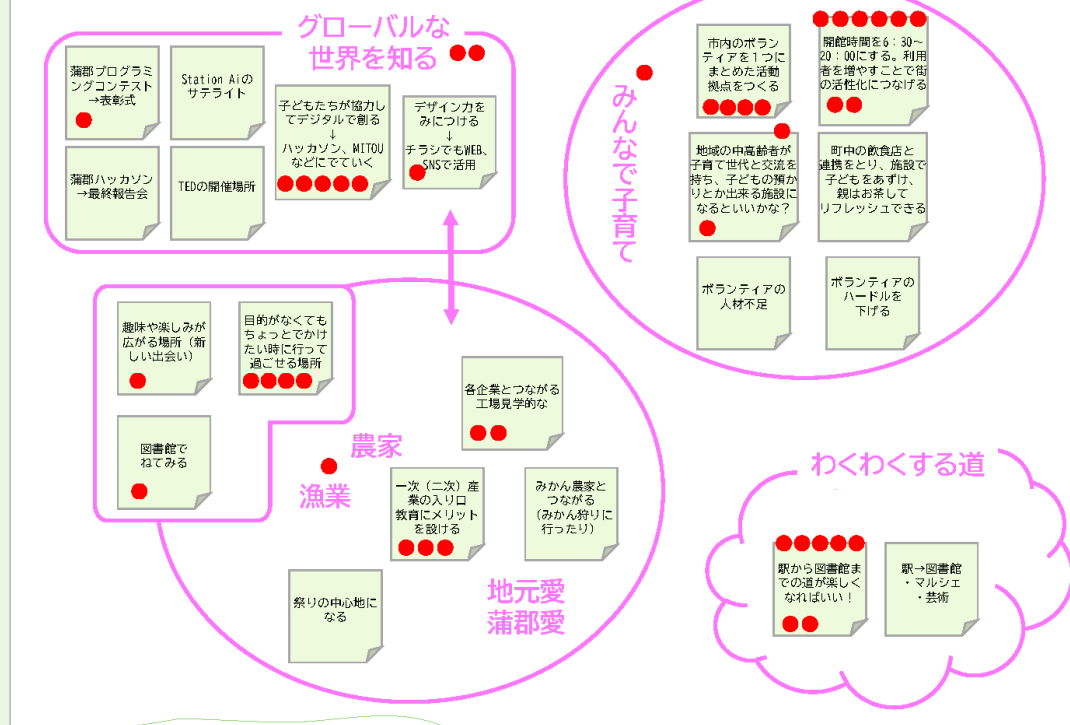


次のページからは、各グループで話し合った内容を整理して掲載しています！
整理している内容は、付箋を模造紙に貼りながら作成した「ワークシート」、「発表内容（概要）」、
運営企画チームによる後日分析を含めた「話し合いのポイント」、の3点です。

あさり チーム

50年後の蒲郡を一言であらわすなら？

みんなでワクワクグローバル



発表内容

- ・「グローバル」は、グローバルとローカルを合わせた言葉
- ・プログラミングコンテストの開催など、子どもや若者が知らない世界に出会ったり、世界に羽ばたくきっかけをつくりたい。一方で、地元の農業や漁業とのつながりをつくるなど、地域の魅力を伝えて蒲郡愛を育てることに取り組みたい
- ・ボランティア人材のマッチングを行い、「みんなで子育て」を実現する拠点にしたい など

ワーク終了後に全チームのワークシートを見て回り、「共感した！」「いいね！」を表す●シールを貼りました！

話し合いのポイント

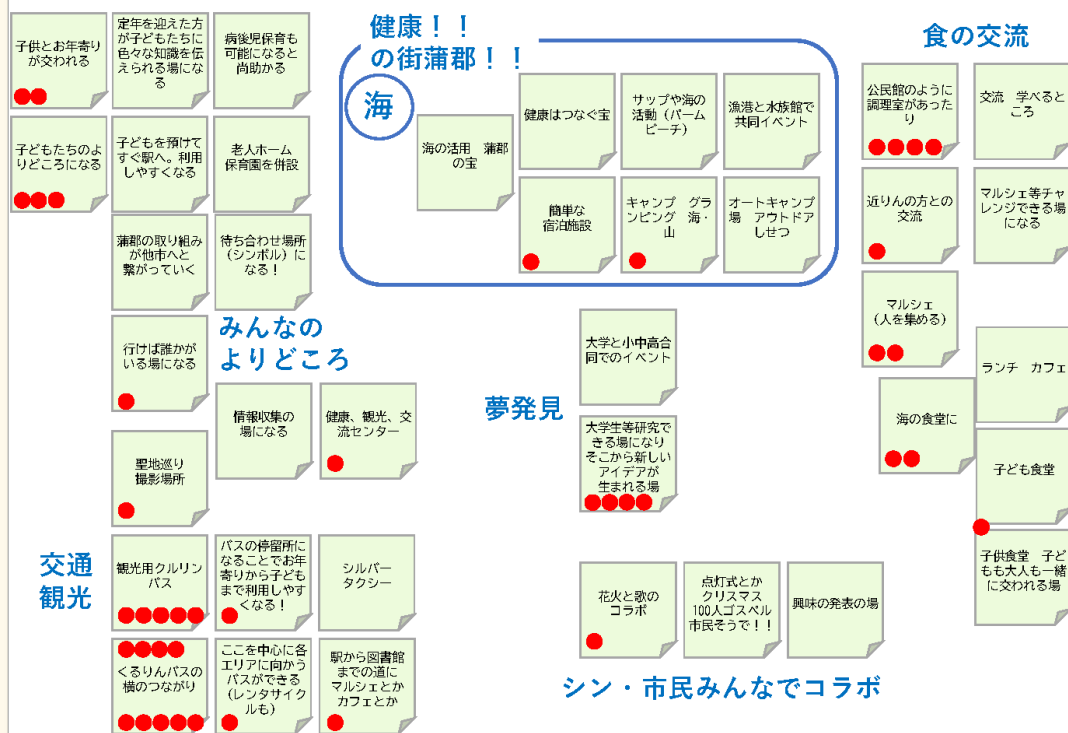
- ・子どもを育てる。その視点を軸とした議論が多く行われました。子どもが大きくなったときに、当地で幸せに暮らすために、地元の豊かさを「発見」できる場所になってほしいという意見や、ボランティア活動を通したみんなによる子育て、勤務時間との兼ね合いから、みらいキャンパスの開館時間設定の希望などが寄せられました。
- ・地元を発見すると同時に、広い社会や世界へ、どう子どもたちがつながっていくか、そのお手伝いをどのようにしたらよいかといった真剣な議論が行われました。



50年後の蒲郡を一言であらわすなら？

健康・交流 海の街 がまごおり

あかざえび チーム



● 共感シール

発表内容

- ・ 市民と、市外の人にも蒲郡の魅力を発信し、ここに来れば色々な情報が得られる場所になる。この施設の取り組みを他の人に伝えることでつながっていく場所になると良い
- ・ 観光用のアクセスや、くるりんバスがもう少し普及すると利用しやすくなると思う

など



話し合いのポイント

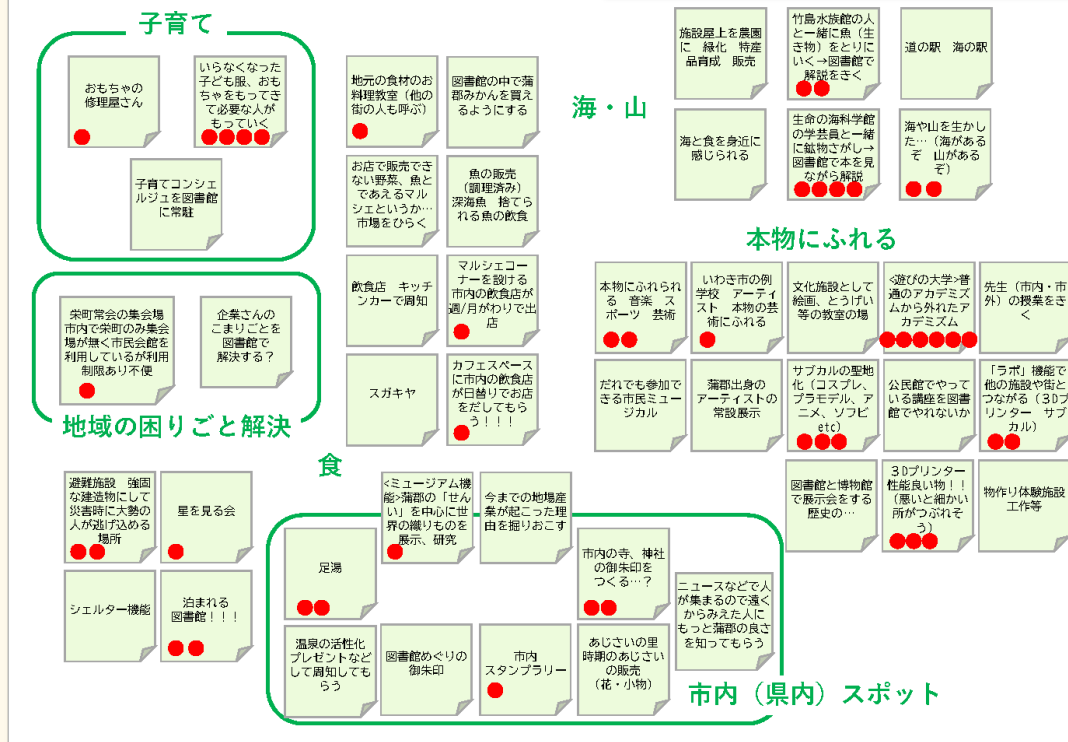
- ・ 駅に近い立地という条件を見据えながら、マルシェやカフェなど、食という観点からまちのつながりを生み出そうという発想が特徴的です。こども食堂を支援だけの枠組みで語るのではなく、おとなの「孤食」も解消する仕掛けにしたいといった、まちの出来事を自分ごととして捉えるような発言も見られました。
- ・ 蒲郡の特徴である海や山という豊かな自然を活用し、アウトドア等の情報発信をきっかけに、健康などにつながるアクティビティにつながっていく、そんなシンボルになる施設となるとよい、という意見がありました。

きんめだい チーム



50年後の蒲郡を一言であらわすなら？

五感に美味しいまち



● 共通シール

発表内容

- 蒲郡市にある美味しい食べ物、海、山などの自然、本物に触れる遊びや学びができると良い
- 科学館の学芸員さんと一緒に鉱物を探して図書館で調べるなど、遊びにも学びにもなる
- 廃棄されてしまう魚や野菜などをマルシェ開催などで販売したり、子育て面では、本を返すついでにいらぬ服を預け、欲しい人が持って帰るなど。蒲郡市での生活が豊かになる取り組みがあると良い など



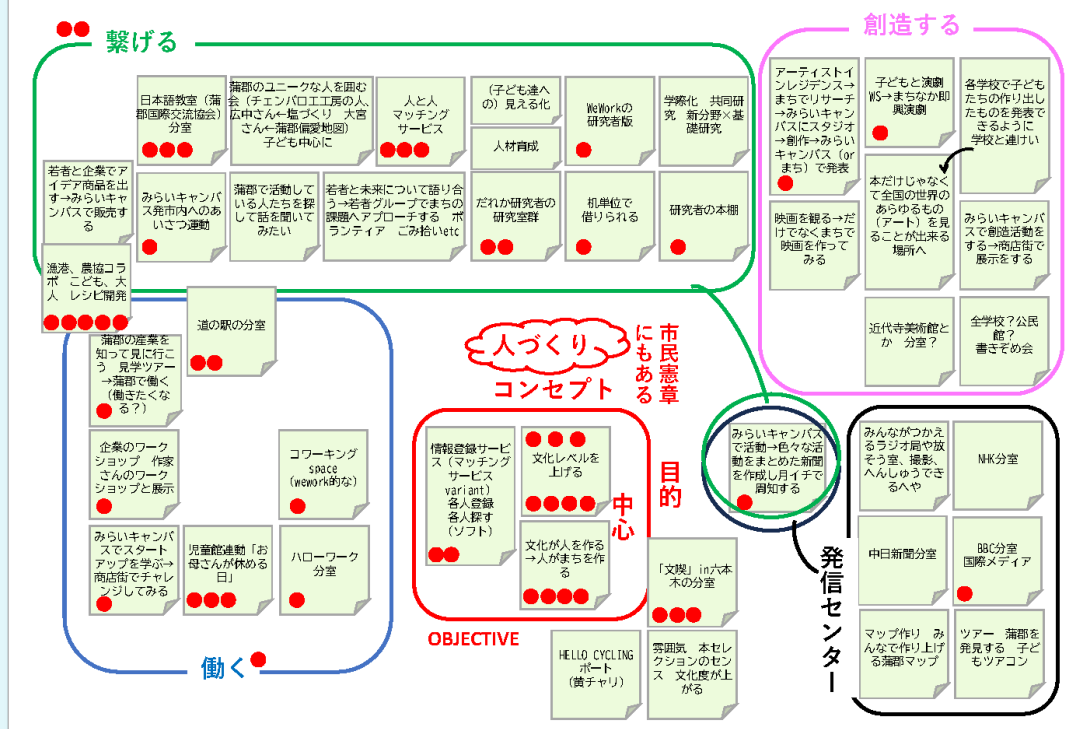
話し合いのポイント

- 蒲郡には体験のための様々な素材があるにもかかわらず、それがうまく見えていない、という問題提起がなされ、そこから様々な議論が展開していきました。大事なキーワードとして「本物にふれる」という言葉が提案され、子どもたちが本気で遊びながら学ぶことの大切さや、年配になった場合の豊かな暮らしに繋がる、という議論がなされました。
- みらいキャンパスをきっかけに人が集える環境ができ、人々の困りごとが解消されたり、資源や情報、人々のなりわいが循環していくと良い、といった趣旨の意見も見られました。

50年後の蒲郡を一言であらわすなら？

Cultivated 文化豊穡なる蒲郡

するめいか チーム



発表内容

- 前回「(文化を)耕す」という言葉を活かした。文化が人を作る、人がまちをつくる、文化を通したまちづくりをコンセプトにした
- マッチングサービスとして、働く人と働く人、働く人と情報をつなげるなど。働く人だけでなく、何か研究する人がつながる仕組みもあると良い。大人と子ども、語学ニーズ等もつなげたい
- そういった文化を発信する場、発表する場があると良い

など

話し合いのポイント

- 文化を通したまちづくり、というコンセプトを実現するために、何をしたらよいか、どのような手段をみらいキャンパスを通して講じるか、という議論がなされました。
- 蒲郡には様々なポテンシャルがあるはずなので、それをキックスタートさせる手段としてマッチングが大切だろうという話が盛んに行われました。マッチングは人と人だったり、情報とだったり、商店街などのまちなかだったり様々な候補がありえ、新しい働き方や自分自身でも何かクリエイティブしてみ、そんな動きが生まれるはず、といった意見がしばしば見られました。

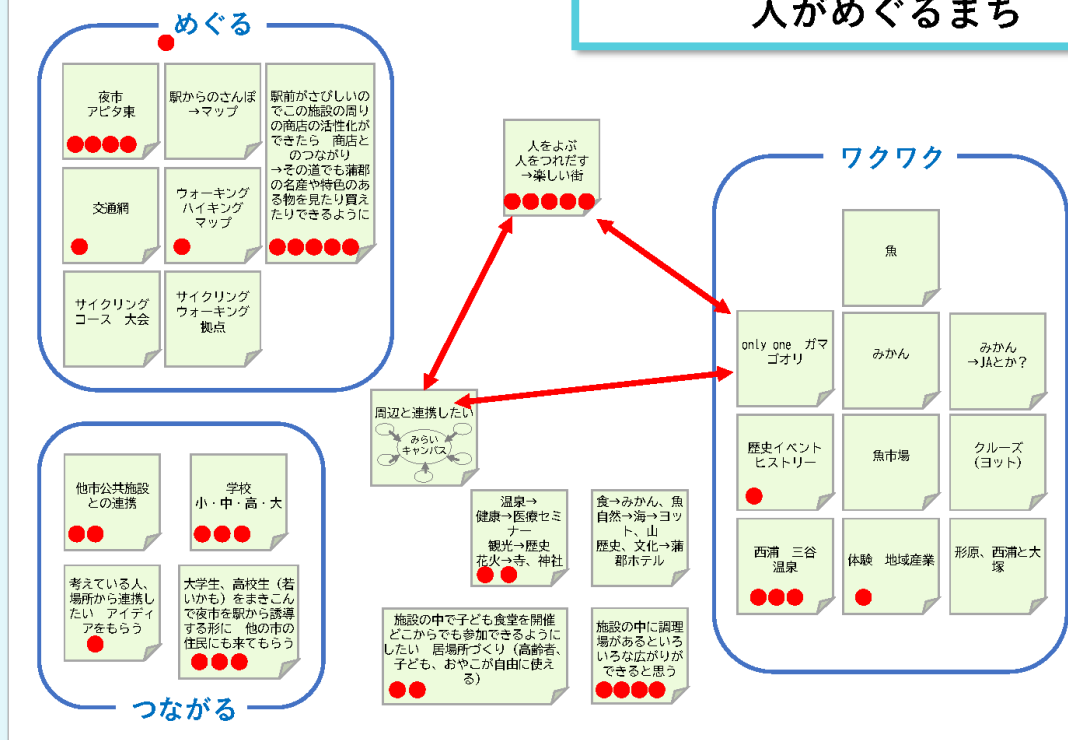


たかあしがに チーム



50年後の蒲郡を一言であらわすなら？

ワクワクするまち
人がめぐるまち



● 共通シール

発表内容

- 「連携する」を中心に、市内の他の施設と継続的に一緒に何かできるように、連携先のニーズを捉えることが必要
- オンリーワンガマゴオリとして、みかん、魚、ヨット、温泉などの情報が集積する施設になることで、市を訪れた人がワクワクできるように
- 施設はマラソンやサイクリングの拠点になることもできる。人が訪れる機会を増やす、人がめぐるまちとなることで、市民も「ワクワク」するまちに

など

話し合いのポイント

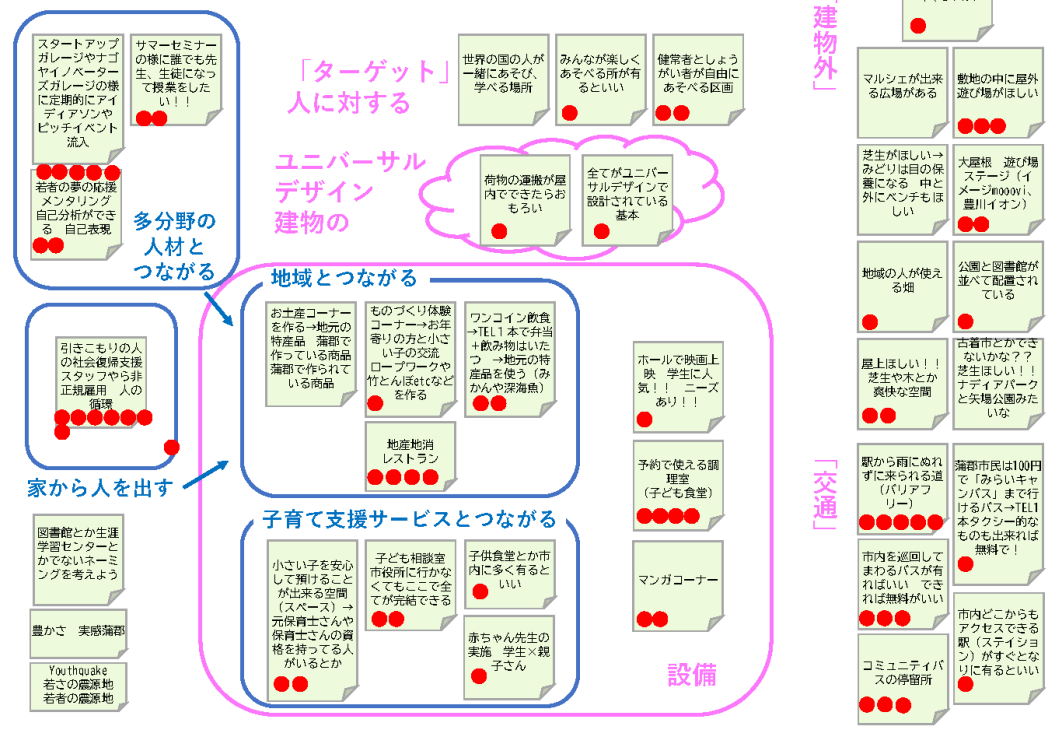
- 誰かのニーズがつながっていくことが大切だ、そのニーズに答えることがワクワクのサイクルにつながっていく。そのような構図が示されています。ミカンやヨットというモノだけでなく、ミカンやヨットを大切に「人」、ミカンやヨットを物語るができる「人」とのつながりがワクワクを生み出すことを示唆しています。
- また、西郡と蒲形という地名が組み合わさり、蒲郡となったエピソードをヒントにし、東西に長い蒲郡の地理的特性の結末点としてみらいキャンパスが機能してほしいという希望もありました。



50年後の蒲郡を一言であらわすなら？

繋がる・繋げる・広がる がまごおり！

めひかり チーム



- ・ 駅から誰もが行きやすくなる。どの地区からでも来れるように。建物にはユニバーサルデザインが必要
- ・ 建物だけあっても、誰かと誰かがつながらなければ、活用することができない。「ここに来れば誰でも何かの役に立つかもしれない」という視点から、その経験がまた次に誰かにつながるような施設になると良い
- ・ 若者が大人と一緒に何かに取り組める仕組みが必要

など

話し合いのポイント

- ・ 自宅やみらいキャンパスからまちなかに「出かけていく」という話し合いが行われていました。駅との距離、市内循環バスといった公共交通機関に関する「出かける」概念のほか、内にこもらず、外に出て地域とつながっていくことで、たくさんのハッピーが生じるという希望の話し合いがなされていました。
- ・ 屋内外を往還することで、屋外イベントに繋がり、屋内で休み、といった形で一日を過ごせるような施設が望ましいという意見が見られたように、みらいキャンパスの建物内部だけでなく、人などを含めた「つながり」も議論されたワークシートです。発表時の「誰にでも若さはある」というフレーズに会場が納得していました。



｜ 結果の総括

- 今回のワークショップでは大きく二つのテーマがありました。一つ目は「この施設がどのようにまちとつながるか?」、二つ目はそれによって「10年後、50年後、蒲郡市がどうなっているか?」です。
- 一つ目の「この施設がどのようにまちとつながるか?」については、地元の産業、商店街、食、自然などにつながることで、「オンリーワンガマゴオリ」などのキーワードが出たように、市内にある「蒲郡ならでは」を見つけたり、それを発信していきたいという思いが多くあったように思います。加えて、まちを飛び越えて、世界の情報とつながる拠点となることで、世界に羽ばたくきっかけになる施設に!という意見もありました。
- 二つ目の「10年後、50年後、蒲郡市がどうなっているか?」については、たくさんの希望溢れる素敵なキャッチフレーズが出ました。注目したいのは、それを実現するために、将来を担う子どもたちに対してどのようなサービスをし、何を残していけるのか、という議論が多く交わされたことです。
- さて、二つの問いに対して出てきた意見の多くには、実はどちらも「人と人とのつながりや営み」が共通していました。当たり前と言えば当たり前なのですが、「みらいキャンパス」はハコがあれば良いということではなく、人々が共に創っていく活動や情報が主人公となる施設ということを再確認することとなりました。

｜ 第3回、第4回ワークショップについて

第3回、第4回は、これまでのアイデアをもとに、「実際に活動するとしたら…?」、その活動の目的、ターゲット、内容などをプランに落とし込んでいく、企画書づくりのワークショップです。第3～4回連続で少し時間をかけ、「みらいキャンパスができたなら、こんなことをやってみたい!」という思いだけでなく、企画書づくりを通して、実際に自分たちが活動してみるための道筋を考え、必要な場所や機材、メンバー…といった、具体的イメージなどを膨らませていきます。また、その活動に必要な市民が集う拠点や、そこに必要な仕組みなどについても議論していきます!



〔発行〕 蒲郡市教育委員会教育政策課
TEL : 0533-66-1219
e-mail : kyoiku@city.gamagori.lg.jp

GAMAGORI MIRAI CANVAS

NEWSLETTER

Vol.03

がまごおり「みらいキャンパス」は図書館・ホール・生涯学習センターの機能を核とした、市民の居場所・活動拠点となる場を形成する複合施設建設プロジェクト。
ただいま検討を進めている基本計画の進行状況をお届けします！



| 第3回 市民ワークショップ

2025年4月20日(日)に、第3回市民ワークショップを開催しました。10代から80代まで、「みらいキャンパス」に興味を持つさまざまな市民の方 24名が参加しました。

冒頭では、第1回・第2回ワークショップの振り返りを行い、前回どのような意見が出たか、そして、現在検討を進めている基本計画の進捗について、共有を行いました。

今回は、参加者の皆さんが「やりたい！」と思ったアイデアの中から、企画化する活動を考えてもらいました。

これから開館までの間に行う活動や

開館後もずっと続く活動の種をイメージすることで、様々なアイデアが生まれました。



テーマ

企画書にする
「この施設やまちで
やってみたいこと」
を選ぶ

※第3回・第4回を通して企画書をつくる



次のページからは、各グループで話し合った内容を整理して掲載しています！

これまでに多くのアイデアが出ているため、活動の内容は、各グループ1つ～3つまでに絞りました。それぞれの活動イメージと、「話し合いのポイント」も掲載しています。



あさり チーム



企画

がまごおり暮らしコンシェルジュ ～人と人をつなげます～

その地域や施設に行かないと情報が得られないことが多い。そのために地域の行事に参加しづらかったり、地域とつながれていない人がある。そういう人たちの相談を受けて、誰かを紹介したり、つないでいくための窓口をつくりたい。

話し合いのポイント

- これまでのアイデアを参考にしながらも、改めて蒲郡市の課題やみらいキャンパスにほしい機能について自由に意見を出し合い、それらを市民自身がどういう企画で解決できるかを考えました。
- 全員蒲郡で生活していく上で「こういうことで困った経験がある、きっと同じように困っている人があるからなんとかしたい」という課題意識を持っており、活発で具体的な意見交換が行われました。



あかざえび チーム



企画①

クリエイティブチャレンジ

施設の名前や緞帳(どんちょう)のデザインの募集など、市民に案を出してもらう。施設ができたあとにもやれるような活動や、施設内で本から学び、学んだことを実際に活動し、最後に発信するという流れを実際に疑似体験するイベントを行う。

企画②

ふるさと再発見プロジェクト

バスツアーや年代別のマップの作成を行い、みらいキャンパスを起点として色々な所へ行けるようにしたい。地元の良さや色々な場所に目を向けるきっかけにもなってほしいし、市外の方も蒲郡の良さに気づいてもっと訪れてほしい。

企画③

がまうらライトアップ

駅から敷地までの道のり、特に線路沿いを通るルートが暗い雰囲気がある。施設ができるまでに、道のりの中でマルシェをやったり、目につくアートを作ったりして、明るくしたい。

話し合いのポイント

- これまでのワークシートを見ながら、新しいアイデアも含めて企画書にできそうな活動を付箋に記入し、似た活動ごと、連携できそうな活動ごとにグルーピングし、企画書の方向性を考えました。
- 開館前～後まで継続して続けていける活動にしたいという思いや、「学びの循環」を開館前から実証実験(疑似体験)してみよう、という視点の活動アイデアが多くありました。

きんめだい チーム



企画① 蒲郡マルシェ

蒲郡ゆかりの方を呼んで対談、みかんの皮を使った遊び、ロープを使ったコサージュ作り、蒲郡の美味しいものの提供・飲食等、蒲郡しばりのマルシェを開催。

企画② ソフト・ハードの情報拠点

各家庭の防災ラジオを活用し発信。いずれコミュニティFMを開局、核を施設に置く。公開収録等で、元気な情報を知ってもらう。放送内容はアーカイブする。各地に情報発信拠点と蒲郡本棚(ハードの拠点)を作る。海や、郷土の歴史、人物探訪等のテーマで本棚をつくり、まちなかや関連施設などにも本棚を設置する。

企画③ フィールドワーク蒲郡

図書館での宿泊、星空観察、鉱物探索や魚釣りなどを、実際に現地に行き体験する。

話し合いのポイント

- これまでのワークシートを見ながら企画書にできそうな活動を付箋に記入し、似た活動や「これはこの中でできそう」というものを集めてまとめました。
- 市民で持っている人が多い防災ラジオを使えないかという視点からラジオ局開設というアイデアにつながりました。また、情報発信拠点とともに、本のサテライトもつくることで、前回のワークで出たキーワード「本物に触れる」とつながるアイデアに広がりました。

するめいか チーム



企画① デジタル交換日記

学生で進路について悩んでいることが多いので、同じ学校にいた人同士でつながれる、情報交換ができる場所があったら良い。

企画② 蒲郡笑顔アルバム

市民活動をされている方等の活動時の笑顔等の姿をみれるアルバムが共有できれば良い。蒲郡全体で共有でき、ホームページや新聞、チラシを作る時に、市民の人も使えるようなデジタルのアルバムとし、使えるものがみんなで共有できる。

企画③ みらキャンユーザーのためのスマホアプリを開発する

みらいキャンパスを便利に使うためのアプリ

話し合いのポイント

- これまでのワーク、アイデア内容の共有後、各自のやりたいことを出していました。
- 既に自らやっている活動や、日頃の悩みといったバックグラウンドからアイデアが出されました。他の人が出したアイデアに対して、自分の立場から意見を付け足すことで、さらなる広がりを追加した企画内容案となりました。

たかあしがに チーム



企画①

敷地で活動や空間を感じる
プレイベント！

「施設でこんなことができる」を味わってもらうため、仮設のステージでの演奏会、子どもを対象にした読み聞かせや本の貸出、読書を行う。
飲食や市内の活動団体に来店してもらい、集まってもらった市民に施設のことを知ってもらう。

企画③

オープンするまでのプロ
ジェクトアイコン&キャッチ
フレーズ

施設の完成まで年数があるので、今からアイコン、キャッチフレーズを作り、市民への発信物に必ず入れて、知ってもらう。

企画②

繊維の文化を伝える はぎ
れを使ったアート活動・ワー
クショップ

はぎれを使ったアート活動等により、繊維のまちとして栄えた蒲郡の文化を伝える、継承する。

話し合いのポイント

- ・参加者同士の意見交換を付箋に書き残し、これまでのアイデアをベースとしながら活動として実現できそうなものを3つに絞り込みました。
- ・施設アピールや市民への施設の周知が必要という観点から、イベント自体が施設空間を感じさせるものにするというアイデア、ロゴやキャッチコピーをこの活動の中で考える案が出ました。

めひかり チーム



企画①

子ども、若者、大人…みんな
の居場所の選択肢をふやす

こどもたちだけでなく、大人も、外国籍の人みんな居場所がない。活躍の場を見つけるなどして、みらいキャンパスが居場所の選択肢の一つになるようにする。

企画②

知っていること(蒲郡のこと、防
災など)を共有し(学びあい)、若
者から次世代へつたえる学
びの循環

若者の活躍に向け、学び合いにより、若者が学んだことをもっと小さい子に伝える場所にする。防災、蒲郡の歴史等、知っているようで知らない、実は大事なことを一つ一つ学び合う場所とし、そして学んだことを子どもたちに伝える企画ができると良い。

企画③

他自治体の施設見学ツアー

先進事例をみんなで見学し、同じ情報を持っていろいろな企画を検討していきたい

話し合いのポイント

- ・これまでのワーク、アイデア内容の共有後、各自のやりたいことを出していました。
- ・既に自らやっている活動や、日頃の悩みといったバックグラウンドからアイデアが出されました。他の人が出したアイデアに対して、自分の立場から意見を付け足すことで、さらなる広がりを追加した企画内容案となりました。

第3回ワークショップまとめ(第4回に向けて)

- 各グループにおいて、これまでの意見を丁寧に振り返り、共有しながら、企画内容案を選んでいきました。中には、これまでに出てこなかった新たなアイデアが出されたチームや、ひとつひとつのアイデアをつなげてさらに広がりをもった企画内容案になったチームもありました。

- 次回は、実際に企画書を作成し、考えた企画案を実現するために何が必要かを検討することで、具体的な活動へとつなげていくことを目指します。



市民共創プラットフォームについて

これまで「やりたい!」と出していただいた意見を、みらいキャンパスの開館前から実際にやってみて、開館後も続けていけるような市民共創のプラットフォームづくりを検討中です。今回、ワーク2として、チーム内で市民共創のプラットフォームについて、参加してみたいか、チームリーダーをやってみたいか、活動の頻度、こういったサポートがあると活動しやすいか等を話し合ってもらい、最後にアンケートを実施しました。

話し合いの中で出た意見

● 関わり方について

- 既に自身の活動を持っているため関わりを深く持てるかどうか／会社、学校があるなかでどこまで関われるか／ゆるく参加したい／ボランティアでも良いが、自分が見えるものがリターンとしてあると良い

● 共有・連絡について

- LINEオープンチャットやオンライン会議等を取り入れ、作業自体は個々でやる／情報共有があると、お休みしても次から参加できる

● 拠点について

- 場所が重要。敷地にも近く、皆も立ち寄りやすいところが良い／イベント時だけでなく集まれる、話し合える場所が必要／ちょっと集まる会議室を借りること自体にハードルがあるため、気軽に集まれる場所がほしい／場所を借りなくても思いついたら行ける「しゃべり場」が必要だが、行っても誰もいないと意味がない／場所が持てるなら、そこで企画内容の一部を開始することも考えられるが、常に人が待機しているというのはハードルが高い

● サポートについて

- 企画に必要な人へのツテ、貸してくれるもの一覧、バックアップ組織が必要／アドバイザーに毎回参加してもらい、手戻りがないようにしたい／やりたいことに合わせて適切な協働相手をマッチングしてほしい。市民の活動をよく知るコーディネーターにいてもらいたい

● 体制・仕組みについて

- 活動における安全を保障する仕組みが必要／資金繰り、やる気の継続性、仲間づくり、ハードルの低い市民参加方法が必要

● 費用について

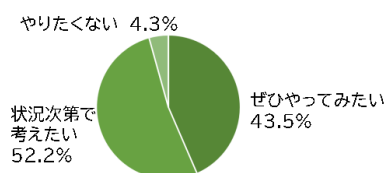
- 収益部門、コストの回収を不安視

など

市民共創のプラットフォームに関するアンケート結果

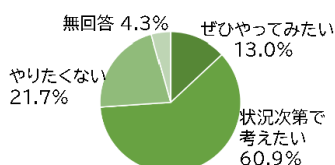
回答者：23人

● 市民共創のプラットフォームでの活動が始まったら参加したいと思いますか。(1つに○)



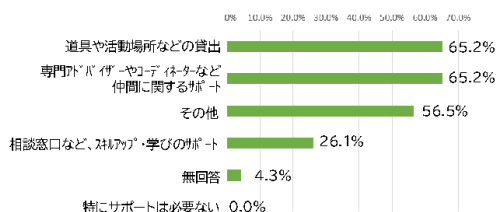
- 「ぜひやってみたい」理由
実現してほしい企画がたくさん出たので、関わりたい／自分の活動にかかわることで、「みらいキャンパス」に繋がることはぜひやってみたい／大きな施設ができるまでの過程に関わりたい など
- 「状況次第で考えたい」理由
自身の仕事や家庭との兼ね合い など
- 「やりたくない」理由
何をするかよくわからない

● チームリーダーに挑戦してみたいと思いますか。(1つに○)



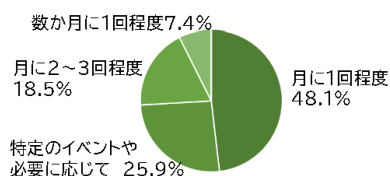
- 「状況次第で考えたい」理由
まだ全体的なイメージが明確ではないので、もう少しやっていく中で考えたい／どの程度の責任感なのか／みんなで勉強／複数リーダー など

● 市民共創のプラットフォームにおいて、こういったサポートがあると活動しやすいと思いますか。(複数に○)



- 「その他」の具体的な内容
情報収集や情報発信を手伝ってほしい／デジタル技術を学ぶ機会／定期的に見守る人／助言してもらったりしたい など

● 参加する場合、どのくらいの頻度が望ましいですか。(1つに○)



※週に1回以上は0.0%

● その他、自由意見

活動のアイデアを実現させるための骨組みづくりが1番大事だと思うし、大変
ビデオ通話もしくはLINEオープンチャットなど文字だけで済む内容であれば利用する
など

アンケートで得られた結果は、今後のプラットフォームづくりの検討に活かしていきます。
第4回では、今回検討した企画内容を企画書にまとめていきます！



[発行] 蒲郡市教育委員会教育政策課

TEL : 0533-66-1219

e-mail : mirai-canvas@city.gamagori.lg.jp

みらいキャンパス系のメールアドレスができました！

GAMAGORI MIRAI CANVAS

NEWSLETTER

Vol.04

がまごおり「みらいキャンパス」は図書館・ホール・生涯学習センターの機能を核とした、市民の居場所・活動拠点となる場を形成する複合施設建設プロジェクト。
ただいま検討を進めている基本計画の進行状況をお届けします！



第4回 市民ワークショップ

2025 年6月22日(日) に、第4回市民ワークショップを開催しました。10代から80代まで、「みらいキャンパス」に興味を持つさまざまな市民の方21名が参加しました。

冒頭では、第3回ワークショップの振り返りと、現在検討を進めている基本計画の進捗や関連する取り組みについて、共有を行いました。

ワークでは、3回目のワークショップで選んだ活動を実際に企画書にしました。具体的な内容を考えることで、実施に向けてやるべきこと、考えるべき課題が見つかりました。

また、開館前から、そして開館後も市民の方が「やりたい！」と思った活動を実施できる市民共創のプラットフォームについて、前回のワークショップを踏まえ、拠点づくりを進めることとなりました。

拠点で企画を実現するために必要な家具・備品、機器、本・資料や、拠点の名前について、グループで意見を出し合いました。

テーマ

- ①みらいキャンパスで
やってみたいことを
プランにしてみよう！
- ②「拠点」を立ち上げよう！

※第3回・第4回を通して企画書をつくる



次のページからは、各グループで話し合った内容を整理して掲載しています！
整理している内容は、企画書の内容、拠点についての話し合いのまとめ、発表内容から分析した「話し合いのポイント」の3点です。
企画書の数、各グループ1つ～2つとなっています。

あさり チーム



企画

がまごおり暮らしコンシェルジュ～人と人をつなげます～

目的・背景	- 昔の井戸端会議のような、気軽に悩みを相談できる場がほしい。 - 悩みを共有しあえる、専門的なところへつなげてもらえる場として、「ここに行けば何とかなる」という最初の一步を出せる場にしたい。		
活動内容	- 座談会 - 相談ボード・ポスト - 人財のデータベースと紹介スペース、制度を作り、専門的なところへつなげる。 - 気軽なものとするためコンシェルジュ診断を作る。		
ターゲット層	- 子育て世代、高齢者など誰でも - 相談しづらい人(コミュニティを持っていない人)		
広報	SNS、チラシをまく／まず来てもらう／みらいキャンパスからの発信など、市の力を借りる／口コミ		
想定メンバー人数	・ 10人～	連絡手段	・ LINE
協力団体・パートナーシップなど	市役所／保健センター／発達支援センター／シルバー人材センター／ファミサポ／コミュニティサロン結／MANARU／商工会議所		
助力を仰ぎたい人	行政とつながれる人、座談会をやってくれる人／総代さん		

「拠点」の名前や必要なもの

●拠点の名前

- ・ IDOBATA:井戸端会議をする場所から
- ・ よもやまがまごおり:「よもやま話」から

●家具・備品

- ・ 自販機／敷物／いす、座いす、机／データベース用のPC／掲示板、ポスト

●その他

- ・ コーヒー、お菓子



話し合いのポイント

●テーマ①

- ・ 困りごとや、相談先が分からないが気になったり、専門家に意外とつながらない、どうしたら良いかが分からないという人の相談ができる場が欲しいという思いから始まった企画ですが、特に気軽に相談したり気軽に情報が取り入れられるようにしたい、と「気軽さ」に重点を置いています。

●テーマ②

- ・ 1階土間に掲示板やポストを置きたい、自動販売機、コーヒーやお菓子など気軽に来てももらえるラフな場所づくりなどと、利用者の気軽な利用、情報取得・共有を念頭に置いて拠点に必要なものを考えていました。
- ・ 拠点の名前も、井戸端会議やよもやま話にかけたネーミングを考えていました。

企画

ふるさと再発見プロジェクト

あかざえび チーム



目的・背景	・ 地元の良さや色々な場所に目を向けるきっかけにもなってほしい。 ・ 蒲郡以外の人にも伝わると嬉しい。		
活動内容	・ くるりんバスを使って地域の良さを再発見し、地図をつくる。 ・ 3、4人ごとにテーマを決めて地図を作る。		
ターゲット層	・ 幅広く、色々な年代が対象 ・ バスツアーは10人、地図作りは1グループ3～4人(話しやすい)		
広報	・ くるりんバスに貼ってもらう／SNS／広報がまごおりなど		
実施場所	・ 駅周辺からスタートし、それぞれの地域へ		
想定メンバー人数	・ コアメンバー3～4人	連絡手段	・ LINE
協力団体・パートナーシップなど	・ 交通防犯課／豊鉄タクシー／観光課		
助力を仰ぎたい人	・ 地図のつくり方をレクチャーしてくれる方		



「拠点」の名前や必要なもの

●拠点の名前

- ・ がまらブース：がまきたベースの上の階で五十音順だと「ベ」の上が「ぶ」であること、蒲郡を「愛している(ラブ)」から

●家具・備品

- ・ プリンター／スクリーン、プロジェクター／低いテーブル、作業机、椅子／パソコン環境、モニター／空調設備／照明

●道具

- ・ 沢山のペン、画材／タブレット、たんけんバッグ／ソフト／カメラ

●本・資料

- ・ 蒲郡市の最新版の地図／他の地域で作られているマップ／既に発刊・発行されているフリーペーパー

●その他

- ・ フリーWi-Fi／管理人／人的資源が分かるリスト

話し合いのポイント

●テーマ①

- ・ マップを作成するだけでなく、今、地域ごとにあるくるりんバスを蒲郡全体で活用し、作成したマップを使ってバスツアーをしたいという発表から、将来的な拡充の方向性が見受けられます。
- ・ 幅広く色々な人がいることで、多様なマップが作成できるという視点から、ターゲット層を幅広く設定しています。

●テーマ②

- ・ デジタルとアナログについては、まだスマホを持っていない人でも地図が開けたりフィールドワークに持っていきやすいようにタブレットが欲しいという意見と、まずはアナログでできることがあるので画材が欲しいという意見と、双方が見られました
- ・ 管理人や人的資源が分かるリストという、拠点や企画書の実現に関わる人についての意見が出ました。



きんめだい チーム

企画①

“みらいFM局”開局！！

目的・背景	- 音から聞くと、活字とは違って立体感が出る。 - 施設の中身であまり目につかないところも発信できる。 - SNSをあまり使わない高齢者の方にもお知らせできるように、みらいキャンパスの広報として活用
活動内容	- 防災ラジオを使ってみらいキャンパスの情報を発信 - 内容は、みらいキャンパスについて、蒲郡に関すること、郷土資料についてなど、みらいキャンパスでやっていることを核とする - 発信した内容はアーカイブ化
ターゲット層	- 高齢者、ゲーム世代 - 全体に向けているが、放送する時間帯によって内容を変える
協力団体・パートナーシップなど	- 市役所 - 助力を仰ぎたい人 - コミュニティFMの先輩方

企画②

ほんものに触れるフィールドワーク蒲郡

目的・背景	蒲郡にある“ほんもの”に触れることで蒲郡の良さを知ってもらい、リアルな体験をしてもらう
活動内容	- 本物、リアルに触れるシリーズとして展開 ①ホールでピアニストによる公演(開館後)、②作家さんの講演会、③鉱物を探し、学芸員の人に解説してもらったり、図書館で調べたりする、④蒲郡の海で魚をとり、料理や水族館の人にどんな魚が教えてもらい、食べられるものは調理して食べる
ターゲット層	知的好奇心のある人、本物に触れたい人
広報	学校にチラシを渡す
実施場所	- 開館前はがまきたベースで準備・作業・オリエンテーション・情報を深める - プログラムは蒲郡の色々なところで実施

「拠点」の名前や必要なもの

●拠点の名前

- ・ 知恵蔵「未来」
- ・ 「未来たんけん基地」
- ・ きょう荘:「共創」から

●家具・備品

- ・ 頑丈な本棚/座布団、クッション(くつろぎの場、講演会スペース)/プロジェクター/パソコン/DJブース/こたつ/子どもが遊べるコーナー/冷蔵庫/ロッカー

●道具

- ・ ミキサー、外でも録音できるような機械、マイク、録音機材/防災ラジオ/調理器具(包丁、皿、クーラーボックス...)/3Dプリンター

●本・資料

- ・ 地域の観光パンフレット/まちづくりの本/見ているだけで楽しい本(美術書、図鑑、写真集)/大きな本、小さな本/図鑑と百科事典

●その他

- ・ Wi-Fi/おいしいお菓子

話し合いのポイント

●テーマ①

- ・ 企画書①では、みらいキャンパスでの活動内容、進捗状況のアナウンスを目的にラジオ局の開局を考えました。防災ラジオの活用を考えていましたが、放送の手法は今後も引き続き検討する必要があります。

- ・ 企画書②では、これまでグループでテーマになっていた「本物に触れる」を軸に、企画を考えました。

●テーマ②

- ・ 必要な本・資料については、まちづくりに関する本や観光パンフレット等、企画書の実現に必要なものから、本には色々な切り口があり、それを通じて楽しい世界であると知ってほしいという思いから、見ているだけで楽しい本や家では買えないような本を置いてほしいという意見がありました。





するめいか チーム

企画名

人と人をつなげるためのスマホアプリ開発

目的・背景	・ 市民一人一人の幸福につなげるため。新たな価値創造のために人と人をつなげていきたい。		
活動内容	・ どんなアプリにしたいか ・ 機能を何にするか(マッチングサービス、BBS(掲示板)、しおリングサービス(本の感想をしおりを使ってやりとり)、伝言板、検索・予約機能) ・ コンテンツ作り ・ 工程表・予算を検討		
広報	・ 伝言板(最初にアプリ製作者を募集)/SNS発信		
想定メンバー人数	・ 10人未満	連絡手段	・ LINE、慣れてきたら次第にSlackに移行
協力団体・パートナーシップなど	・ 市内企業/MANARU		
助力を仰ぎたい人	・ 開発経験者/エンジニア/WEBデザイナー		



「拠点」の名前や必要なもの

●拠点の名前

- ・ みらキャンベース

●家具・備品

- ・ コーヒー(ビール)サーバー/プリンター/人工芝/本棚/スクリーン、プロジェクター/パソコン/三河木綿のカーテン/サーバー/伝言板

●道具

- ・ ペン、ふせん、しおり、ノート/延長コード/ホワイトボードシート/スマホ(各種)

●その他

- ・ Wi-Fi

話し合いのポイント

●テーマ①

- ・ ワークショップ当初から掲げているテーマ「Cultivate(耕す)」を中心に、文化レベルをあげる、文化が人を作る、人がまちをつくると考え、人と人をつなぐプラットフォームづくりとしてアプリ開発を考えました。
- ・ 発表では、市民 to 市民として、市民同士で何かをつなげる場を作りたいという思いが熱く語られました。

●テーマ②

- ・ 必要な道具として伝言板があがりました。このグループでの企画書実現=アプリ開発に向け、最初にアプリ開発者の募集を伝言板に書くと決めており、拠点でのイメージが具体的になっていることが伺えます。
- ・ 連絡手段について、皆で学びつつSlackに移行したいということから、活動を通じてメンバーもレベルアップしていきたいという思いが感じられました。

たかあしがに チーム

企画①

敷地で活動や空間を感じるプレイベント



目的・背景	- 建設予定地を知ってもらう。 - 複合施設だからこそ色々なことができるアピール - 市民で活動している人を巻き込む。関心を持ってもらう
活動内容	- 広い敷地を区切って複数イベントを行う - 繊維系イベント、演奏会、パフォーマンス、フェス(プロと市民のコラボ)、屋台・キッチンカー(蒲郡の人が良い)、夕方～夜のイベント、ナイトシアター など
広報	蒲郡公式LINE・みらいキャンパスLINE／三河湾ネットワーク／広報がまごおり／チラシ／ポスター
実施場所	開館前:建設予定地／開館後:新施設
想定メンバー人数	30～50人
連絡手段	LINE
協力団体・パートナーシップなど	商工会議所／青年会議所／工科大／図書館／屋台ネットワーク／蒲郡の音楽関係者／商店街／市場関係者
助力を仰ぎたい人	町内会／イベント運営に詳しい人(アドバイザーとか)

企画②

プロジェクトアイコン、キャッチフレーズ

目的・背景	市民の認知度UP
活動内容	- みらいキャンパス関係の広報などに必ず使用するアイコン・キャッチフレーズの作成 - キャッチフレーズ(施設名ではなく目指すもの)は市が考案、アイコンを市民に募集
広報	広報がまごおり／市のLINE
想定メンバー人数	5～6人
連絡手段	LINE
協力団体・パートナーシップなど	蒲都市／みらいキャンパススタッフ
助力を仰ぎたい人	アドバイザー



「拠点」の名前や必要なもの

- 拠点の名前
 - みらキャンBASE
- 家具・備品
 - プリンター／上敷／ディスプレイ等(通りがかりの人に発信する)、プロジェクトの看板／棚、本棚／机とイス／PC
- 道具
 - 音の機材(スピーカー、マイクなど)／仮設ステージ、テント
- 本・資料
 - 図書館の絵本

話し合いのポイント

- テーマ①
 - 市民へのみらいキャンパスの広報やPR、広報を目的とした企画書となりました。
 - どちらの企画も、市民の方を巻き込んだプロジェクトとなっています。また、パフォーマンスでの市民とプロのコラボ、アドバイザーとしてのプロの協力等、幅広い人々との協力、コラボによって充実する企画であると言えます。
- テーマ②
 - 2階だと上がりづらいということから、1階をアピールの場としてディスプレイを置きたいという、企画書においてみらいキャンパスの周知を目的においたグループらしい意見がありました。
 - 本・資料については、申請したら買ってもらえるようにしてほしいという意見がありました。

企画①

他自治体の施設見学ツアー



めひかり チーム

目的・背景	・ 他施設の「いいね」を探す(「良くない」も)。
活動内容	・ 近くの図書館(豊橋、幸田、岡崎、安城)へのバスツアー、施設職員レクチャー ・ その後、活動の様子などを印刷しベースへ貼り出す(ベースに来た方に、シール(いいね)を貼ってもらう)
ターゲット層	・ 一般、ワークショップ参加者(別の日程で) ・ バス40名×2回=80名
広報	・ 市のLINE/回覧板/広報がまごおり/Instagram/みらいキャンパスのLINE
実施場所	・ 豊橋まちなか図書館/岡崎リブラ/安城アンフォーレ/ハッピーネス・ヒル・幸田
連絡手段	・ LINE/Instagram/メール
協力団体・パートナーシップ など、助力を仰ぎたい人	・ 名鉄バス(三河観光)/市広報課/学校教育課/ 蒲郡市図書館



企画②

「みらいキャンパス」みんなに広げよう！！

目的・背景	・ 「みらいキャンパス」をもっと広く知ってもらい、自分たちの居場所を考える		
活動内容	・ 市内の公民館などを巡回し、活動内容を知ってもらう		
広報	・ 市のLINE／回覧板／広報がまごおり／Instagram／みらいキャンパスのLINE／学校のお便り		
実施場所	・ がまきたベース＋各公民館		
想定メンバー人数	・ 各回スタッフ4、5名	連絡手段	・ LINE／Instagram／メール
協力団体・パートナーシップ など、助力を仰ぎたい人	・ 各公民館／名鉄バス(三河観光)／市広報課／学校教育課／蒲郡市図書館		

「拠点」の名前や必要なもの

- 拠点の名前
 - ・ みらCANベース(MIRA CAN-BASE):CANで自分が何かできる、誰でも何かできるということを表現
- 家具・備品
 - ・ コピー機/活動資料を綴じるファイルを入れる棚/椅子や座布団、テーブル/プロジェクター/パソコン/ホワイトボード
- 道具
 - ・ 文具全般、印刷用紙、活動資料を綴じるファイル
- 本・資料
 - ・ 地元がわかる映像資料/福祉/教育/デザイン/保育/防災/色彩学
- その他
 - ・ バス

話し合いのポイント

- テーマ①
 - ・ 新施設ができるまでの活動をもっと広めることを中心に考えた企画書となりました。
 - ・ 企画①は、良いところだけでなく困りごとでも聞くこと、内容を拠点に貼り出し、広報活動やシール貼り等を通じた意見共有の場にすることが提案されました。
 - ・ 企画②は、活動を既に知っている参加者から知らない他の市民へ広げようという、広報活動という趣旨で考えられました。
- テーマ②
 - ・ 拠点の名前「みらCANベース」は、I can、You canとかけられており、「自分たちで新施設を作っていこう」という気持ちが込められています。
 - ・ 活動資料を綴じるファイルや収納用の棚が欲しいという意見から、開館までの活動のアーカイブを見据えていると受け取れます。

結果の総括(全4回を通じて)

- 全4回のワークショップが終了しました。多くの方にご参加いただき、ありがとうございました！本当に多くの素晴らしいアイデアにより、「みらいキャンパス」がより具体化してきました。
- 開館に向け、市民共創の過程を途切れさせず、やりたいことに継続的に取り組むことができる仕組みとして、中央通り商店街内への市民共創プラットフォームという「場」の立ち上げを検討しています。今後は、この場を中心に、さらなる市民共創による「みらいキャンパス」づくりを活性化させていきます。
- これまでのワークショップにご参加いただいた方々はもちろんのこと、それ以外の多くの市民の方々にもこの場を訪れていただき、ともに活動し、みらいキャンパスの輪が広がることを願っています。

第1回 「施設に1日いるとしたら、何をして、どう過ごす？」から、みらキャンに必要なことが見えてきた！

第2回 キャッチフレーズを考え、施設がどのようにまちとつながったり、成長していくかを考えてみた！

第3・4回 これまでのアイデアをもとに「今から」&「新施設で」やってみたいことを「プラン」に！

第3回 活動をつづけるために必要なものは？

第4回 「プラン」を実現するための拠点の内容を具体的に考えてみた！

to be continued

これから開館まで、継続的な活動を実施し、これまで、今、(そしてみらいに)考える「やりたい」を実現する施設を実現しよう！

これからのスケジュールについて

- 基本計画は秋頃策定予定です。別途、市民の皆さまへご説明する機会を設けたいと考えています。
- 次は管理運営計画の検討に入ります。引き続き、市民の皆さまと一緒に創り上げていきたいと考えています。
- 今後、まずはみらいキャンパス公式LINEアカウント、みらいキャンパスInstagramで情報発信をしていきます！友だち追加、フォローをよろしくお願いします！



【発行】 蒲郡市教育委員会教育政策課
TEL : 0533-66-1219
e-mail : mirai-canvas@city.gamagori.lg.jp

5 用語集

用語	説明
アウトリーチ	施設の外に出て活動を広げる取り組みのこと
インクルーシブ	全てを包み込む、包摂的な意味で、障がい、性別、年齢、国籍、社会的立場などに関係なく共に活動し、誰もが参加できることを目指す考え方
インターフェース	人と機械、またはシステム同士をつなぐ境界面、接点
ウェルビーイング	すべての人が幸福を実感しながら、一人ひとりが自分らしく心も体も健康な状態
ウォーカブルなまちづくり	街路空間を車中心から人中心へと再構築し、居心地が良く歩きたくなるまちや環境を目指す考え方
開架	利用者が直接書架へアクセスでき、資料を取り出せる方式
キュレーション	情報や作品を、意図や特定の視点をもって選び、利用しやすく編集して提示すること
コアタイム	施設内でスタッフが常駐し、対応が可能な時間帯
サーキュラーシティ	市民、企業、研究機関と連携し、全ての機能を統合しながら直線型の経済モデルからサーキュラーエコノミーへの移行を推進する都市のこと ※サーキュラーエコノミー…資源を採掘して生産、消費、廃棄するという従来の直線型経済(リニア・エコノミー)や、廃棄物をどう有効活用するか(リサイクリング・エコノミー)という考え方とは異なり、そもそも廃棄物がでない仕組みをつくる経済モデルのこと
サードプレイス	家庭(ファーストプレイス)や職場(セカンドプレイス)以外で、人々がリラックスして過ごせる「第三の場所」のこと
シームレス	継ぎ目や区切りがなく、ものごとが自然につながっている状態
シビックプライド	地域に対する市民の誇りのこと
新鮮度(蔵書新鮮度)	各図書館の資料が年間どのくらいの割合で入れ替えられているのかを示す指標。年間受入冊数÷開架蔵書冊数で求めることができる
ゼロカーボンシティ	2050年に二酸化炭素(温室効果ガス)排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を市長が公表した地方自治体のこと
ZEB Ready(ゼブレディ)	ZEB(年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの建築物)を見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物(出典:環境省 ZEB PORTAL)
デジタルサイネージ	ディスプレイを使って情報や広告を表示する電子看板
デジタルファブリケーション	3D プリンタやレーザーカッターなどを使い、デジタルデータからものづくりを行う技術
デジタルプラットフォーム	インターネット上で情報・サービスを共有し、利用者同士をつなぐ基盤
日本十進分類法(NDC)	日本の図書館で一般的に使われている分類法
配架	図書館などで資料を所定の位置に並べること

用語	説明
ブックスタート	読書習慣のきっかけづくりのため、乳幼児と保護者に本を届け、読書の楽しさを伝える取り組み
プラットフォーム	人、サービス、システム等、情報をつなぐ共通の土台(基盤)
ブランディング	組織や商品、サービスが持つ価値やイメージを高め、信頼や共感を得るための戦略的な取り組み
閉架	利用者が自由に書架にアクセスできず、図書館員に申請するなどして資料を出し入れする方式
ホワイエ	劇場やホールの入口付近にある休憩・交流のための空間
マルチスキル化	一人が複数の職務や技能を担えるようになること
メディアアート	コンピュータや電子機器など、新しいテクノロジーを活用して表現されるアート
モードチェンジ	状況に応じて行動や状態、外見等の切り替えを行うこと (みらいキャンパスでは、時間帯や用途に応じて、スペースの使い方や什器の配置等を柔軟に変化させる考え方を指す)
ライフサイクルコスト	建物や設備の導入から廃棄までにかかる総費用
リエゾン	フランス語で「連携」や「橋渡し」を意味する言葉
レファレンス	図書館などで行う、利用者の調べものを支援するサービス
ワークショップ	参加者が主体的に学び、意見交換や体験を通してテーマに取り組む場

共に創る

みらいを

蒲郡市長

鈴木寿明

がまごおり「みらいキャンパス」基本計画
令和7年11月

発行 蒲郡市
編集 蒲郡市教育委員会 教育政策課
〒443-8601 愛知県蒲郡市旭町17番1号
TEL 0533-66-1219(直通) FAX 0533-66-1184